ISSN　1880－4497

研究紀要

宇都宮短期大学音楽科研究紀要　第32号

作　品

筝三重奏曲「AOI」について　……福　田　智久山　……　1

翻　訳

ベッリーニ作曲 歌劇《ザイーラ》対訳　……杉　山　正　明　……　15

研究ノート

クラリネットの奏法指導・練習法　……佐　藤　友　香　……　49

時短時代の基礎合奏 基本編　……田　村　和　久　……　59

ブルクミュラー没後150年：展示とレクチャーの記録
～教育的な意義と試み～　……田　島　恵　理　……　73

報　告

リトミック実践講座を実施して　……小　倉　郁　子　……　85

動向と展望

栃木県の音楽文化事情について
～下野新聞「日曜論壇」（令和６年３月～８月）
寄稿の報告として～　……新　井　啓　泰　……　93

特別演奏会記録

2025年３月

箏三重奏曲「AOI」について

About The Koto trio “AOI”

福田　智久山

青は藍より出でて藍より青し 《「荀子」勧学より》

初めて客席からこの曲を聴いた時に、真っ先に思い浮かんだ言葉である。

学のない自分にとって、この言葉といつ頃出会ったのか定かでは無い。更に一度も使う事なく記憶の彼方へ埋もれていた言葉。それが演奏を聴き終えた瞬間に思い起こされた。

まずこの曲を作るに至る経緯だが、ひょんなきっかけである高校の箏曲部を半年間だけ指導する機会を頂いた。そこで着目してこなかった事実を目の当たりにする。生徒達の演奏力にかなりのバラツキがある事。当然三年生ともなれば、少なくとも二年間の経験があり、それまでに培った多くの技術を演奏に用いる事が出来る。対して一年生は初めて箏を弾いてからまだ一ヶ月未満。当然、楽譜を読む事も辿々しく、演奏は言わずもがな。そんな子達が春の大会へ挑戦する為に選んでいた曲は、箏を弾けない自分が聴いても難しいと分かる曲であった。

指導、と言っても前述の通り自分は箏が弾けない。そんな自分が何を指導出来るのかと毎回の部活で試行錯誤。しかしそれよりも何よりも、先ずは生徒達が日々の生活に追われすぎて、全員揃って部活が始まる事は殆どない状態。その中で作るアンサンブルなど、何となくはそれっぽく聴こえてくるが、専門家が聴いたら到底納得は出来ない演奏。その最たるものが箏本来の音を引き出す弾き方を習得せずに、曲だけに追われて指を何となく動かして演奏をしている実態。ただこれは一概に生徒達だけの問題ではないと痛感。何故なら大会に出していくような曲は、ある一定以上のレベルを要求されるものであり、しかも二重奏曲であれば、そのパート毎に同じ力量を持ち合わせていなければ曲として成立しない。ただ先述した通り、学年が違えば経験も違う、その子達が一緒に演奏するにはあまりにも酷な曲が多いと感じた。

箏を始めたばかりの子でも、ちゃんと音を出す弾き方を習得しながら、更に古典的な奏法も学べる。経験を重ねた子であれば、次のステップとして技巧的にも、アンサンブル的にも挑戦出来る曲があったら、もっと箏の、引いては邦楽の魅力を再確認出来るのではと考えて作ったのが、この「AOI」という曲である。

前置きが長くなったが、初心者から上級者までが一緒にそれぞれのレベルで合奏が出来、その上で弾いていて「楽しい！！」と想って貰える、そんな曲にしたいとのコンセプトで制作に入った。

ここで先ずは前回の研究紀要からの反省を元に、箏の調弦を考える。八咫烏の箏の調弦はかなり高音に作ってしまった為、演奏者から箏の響きが弱まってしまっているとのご指摘を受けた。そこで目を着けたのが古典の「六段の調」で使われている調弦法である。何故なら箏の響きや余韻を大切に作られたものが六段の調であり、そこから学べば箏独自の響きを引き出せるかもしれないとの想いがあった。そのまま平調子を引用出来た訳ではないが、音域的にはかなり近い調子で作る事が出来た。

十七絃箏（以下、十七絃とする）は、八咫烏から比べると高めの調弦になってしまったが、箏の調子を低めにとった分だけ、それを補う音が必要となり、それでも許容範囲内で収められたのではないかと思う。また十七絃の見せ所である低音の連続音があるのだが、それは沢井箏曲院師範である前川智世先生からの素晴らしいアドバイスを元に音階の配列を考えた。

自分の様な箏を弾けない人間には気づきにくい事、それは低音を響かせたい時、無意識に一番低い絃で弾かせるイメージしかなく、正に今回もその感覚で作った。しかし前川智世先生に頂いたアドバイスは「一番下の絃だと、それ以下に絃が無いため弾きっぱなしとなり、実はそこまで音に力を込められない可能性がある」との事。

目から鱗であったし、今回のコンセプトを自分で蔑ろにしていた事に気付かされた。「箏で良い音を出す最大のコツは、次の絃にしっかり当てて止める！」栃木県文化功労者であり、沢井箏曲院教授である和久文子先生が大切に大切に生徒達に教えてきた事である。

そんなアドバイスを元に、箏パートⅠ、箏パートⅡ（以下、１箏、２箏とする）、十七絃の三重奏曲「AOI」が完成した。

時に皆様はYAMAHAのエンブレムの意味を御存知であろうか。実はお恥ずかしい事に、先日まで自分は知らなかったのだが、三つの重なった音叉には其々「メロディー」「ハーモニー」「リズム」の意味が込められているそう。「AOI」は１箏がメロディーを奏で、２箏がハーモニーを紡ぎ、十七絃がリズムを刻む。シンプルであるが、音楽の基礎といえる形をしっかり押さえて曲を作れた事は、今後の創作活動にも大きな経験になったと思う。

１箏の旋律を作るにあたり大切にしたかった事、それは唱歌（楽譜が無くとも奏法とリズムを歌で理解できる昔ながらの練習法）の重要性を理解し、心の中で歌いながら演奏をする。その為に一小節目から四分音符をしっかりテン、テン、テン、テンと弾ける様に考えた。更に途中では割り爪を弾くにあたって、テン、シャシャテン、シャシャテン、シャシャ

テン、テンと歌う事で自然と音に止まりが出る。これが意外に出来ていない演奏家が少くない。古典を学ぶ大きな意義を失って、現代曲ばかりに従事してしまうと蔑ろにされ易い技術であるからこそ、ここでその大切さを認識して貰えれば幸いに思う。２箏へ求めたものは、現代曲で多用される三連符、五連符、六連符への対応力や複合拍子が出てきた時の数え方をしっかり理解し演奏出来る力を養う事、そしてハーモニクスや落としといわれる奏法、カデンツァの間の取り方を学んで欲しいとの考えから色々と工夫をした。十七絃はただリズムを刻むのではなく、小節を重ねる毎に少しずつ変化する音階や、シンコペーションを多用しベースラインだけをただ演奏するだけではなく、音楽に躍動感を与える役割にした。

世界初演は2024年10月20日に行われた第二十回学生邦楽フェスティバル。演奏前は学生よりも自分の方が緊張であったが、一音一音、良い音で演奏し、最後の一音までも素晴らしい音であった。

その後、全国大会への切符をかけて審査がなされる秋の大会までも、この曲でご参加頂き前川智世先生、宇都宮短期大学附属高等学校の廣田修一先生、そして一所懸命ついてきてくれた生徒達に心より感謝申し上げる。

最後になるが、何故「AOI」なのか。ただ単純に青春を邦楽へ傾ける生徒達への応援歌という意味であったが、もう一つ生徒達と共に勉強しながら感じた事。高校の部活で燃え尽きてしまって、その後に邦楽を続ける意義を見失ってしまう子達がなんとも多い現実。

唯一、偉そうに書かせて頂くが学生諸君、あなた達はまだまだ青い!!何故なら僕達プロとして演奏活動をしている人間も、まだまだまだまだとの思いで日々精進している。だからこそもっともっと邦楽に興味を持って貰いたい。もっともっと音楽を楽しんで貰いたい。

前回よりも今回、今回よりも次回、一回一回の演奏で過去の自分達を超え、先輩方が積み上げた歴史をリスペクトし、更なる高見へと皆が手を取り合って伝統を繋いでいく、その役割を少しでもこの曲が担ってくれたら嬉しく思う。

一生勉強、一生青春！

我らが栃木県を代表する相田みつを氏の言葉をお借りし、今回の最後とする。

AOI

作曲者 福田 智久山



2




35
mf
harmonics
8
mf
40
8
44
rit.
♩ = 124
8
f
48
f
mf
mf

4




64
67
70
73
f
ff
mf

6




88
accel.
mp
f
mp
f
f
91
a tempo
♩ = 146
rit.
pizz.
sfz
mp
mf
mf
94
mp
mf
97
rit.
♩ = 130
mp
rit.
f
f

8




112
mf
mf
115
118
mf
mf
mf
3
122
f
f
f

10


126
ff
f
f
ff
128
mf
ff
♩ = 72
mf
ff
mp
mf
ff
132
rit.
pizz.
pizz.
pizz.
ord.
mf
ord.
ord.

ベッリーニ作曲 歌劇《ザイーラ》対訳

Bellini “ZAIRA” Italian - Japanese libretto

杉　山　正　明

１　ベッリーニについて

ヴィンチェンツォ･ベッリーニ Vincenzo　Bellini（1801-1835）は､同時代のドニゼッティとともに、ベルカント期の重要なオペラ作曲家である。 ベッリーニはシチリア島カターニアの音楽家一家に生まれ、幼い頃から音楽の才能を発揮した。しかし 33 歳で夭逝したので、作品数は 10 作と少ない。最高傑作《ノルマ》のほか､《カプレーティとモンテッキ》《夢遊病の女》《清教徒》などは比較的上演される機会が多い。

２　この作品について

原作はヴォルテールの『ザイール』（1732 年）である。ベッリーニ第５作のオペラ作品として、1829 年 5 月 26 日にパルマのヌォーヴォ・ドゥカーレ劇場（現在のパルマ王立歌劇場）で初演されたが､失敗に終わった。音楽の多くが､翌年作の《カプレーティとモンテッキ》に転用されている。

３　あらすじ

第１幕

エルサレムにあるスルタンの後宮。奴隷のザイーラ（キリスト教徒）とスルタンのオロズマネ（イスラム教徒）との結婚が近づき、後宮は華やかな雰囲気に溢れている。宰相のコラズミーノはこの結婚を快く思っていない。同じく奴隷少女のファティマもザイーラに懸念を伝えるが、耳を貸さない。オロズマネはフランス人ネレスターノを迎え、キリスト教徒を解放するが、ルジニャーノだけは駄目だとする。だがザイーラの懇願により、ついにはルジニャーノの解放も命じる。

ネレスターノとザイーラがルジニャーノと面会すると､二人はルジニャーノの子ども（兄妹)であることが判明する。ルジニャーノは､娘がスルタンと結婚すると知って嘆く。ザイーラは心を動かされ、改宗しないことを父親に誓う。ザイーラだけは残ることにしたが、スルタンに結婚式を遅らせるよう懇願する。コラズミーノは、ザイーラとネレスターノは恋愛関係にあると誤解し、スルタンを騙そうとしていると考える。

第２幕

ファティマはザイーラに結婚・改宗しないよう説得する。オロズマネがやってくるが、ザイーラは秘密を打ち明けるまでもう１日待ってほしいと訴える。

ルジニャーノが死去し、フランス人騎士たちは集まって指導者を悼む。オロズマネはキ

リスト教式の葬儀と埋葬を許可するが、ザイーラだけは翌日が結婚式のため、葬儀への参列は許されず、ネレスターノたちの怒りを買う。

コラズミーノはオロズマネにザイーラが裏切って逃亡する計画を立てていると伝える。ネレスターノからザイーラへの手紙が発覚したのだ。その手紙を受け取ったザイーラは葛藤する。葬儀の詠唱が聞こえ、ザイーラは父親の死を知る。

後宮の敷地のはずれで、オロズマネとコラズミーノが身を隠してザイーラを待っていると、ザイーラとファティマが現れ、続いてネレスターノも現れる。裏切りを確信したオロズマネが飛び出してザイーラを刺す。オロズマネは、ザイーラの死に際の言葉で、ネレスターノは彼女の兄であることを知る。オロズマネは自分の愚かさを後悔し、自害する。

４　この対訳について

この作品の日本語対訳の商業出版（書籍、ＣＤの付録等）はなされていないと思われる。リブレットは Opera Arias Database を底本とし、www.librettidopera.it を補遺に用いた。また、Brilliant レーベル 92461/6（NUOVA ERA レーベル原盤、指揮：Paoro Olmi、歌手：Katia Ricciarelli, Simone Alaimo 他、1990 年 マッシモ・ベッリーニ劇場でのライヴ録音）のトラック番号を付けた。なお、このＣＤでは歌唱が省略されている箇所などがあり、このリブレットのとおりではない。

参考文献・参考ＣＤ・参考リブレット

・Brilliant レーベル 92461/6 付録ブックレット

・Opera Arias(web)

・Opera Arias Database (web)

・www.librettidopera.it (web)

Vincenzo Bellini «Zaira»

Libretto: Felice Romani
Prima Esecuzione il 16.5.1829 Teatro Ducale, Parma
Personaggi:
Musulmani:
Orosmane, Sultano di Gerusalemme, Basso
Corasmino, Visir, Tenore
Zaira, Soprano
Fatima, Schiave del Sultano, Mezzosoprano
Meledor, Ufficiale del Sultano, Basso
Francesi:
Lusignano, Principe del sangue degli antichi Re di Nerestano, Contralto
Castiglione, Cavalieri Francesi, Tenore

Cori e Comparse, Uffiziali del Sultano, Guardie, Schiavi e Schiave, Odalische, Cavalieri Francesi

La scena è in Gerusalemme nell'Harem del Sultano.

ATTO PRIMO

SCENA PRIMA

1

Magnifica Galleria che mette all'Harem del Sultano: di fronte ampia gradinata che conduce a lunghe logge praticabili, adorne di vasi di fiori e di profumi. Altre gradinate dalle parti comunicano con le logge e con gli appartamenti superiori. È festa nell'Harem, e si celebrano le vici-ne nozze del Sultano con Zaira. Esco-no da vari lati gli Schiavi e le Schiave: al suono di orientali strumenti le Odali-sche intrecciano danze: gli Eunuchi ar-dono profumi: tutti cantano il seguen-te

INNO
DONNE
Gemma, splendor di Solima,
Bella, gentil Zaira,
Qual cor più schivo e indomito
Ti vede e non sospira?
UOMINI
Sembiante a vergin Uri,
Premio dei dì futuri,
Fede tu fai del giubilo
A noi promesso in Ciel.
DONNE
Ma chi sarà fra gli uomini
Diletto al Ciel cotanto,
Ch'ei sol riporti, o Vergine,
Di possederti il vanto?
UOMINI
Egli è il Sultan possente,
È l'astro d'oriente,
Delle battaglie il folgore,
Terror dell'infedel.
TUTTI
A che pudica e timida
Stai nel tuo velo ascosa?

ベッリーニ作曲 歌劇《ザイーラ》

台本：フェリーチェ・ロマーニ
初演：1829年5月16日 デュカーレ劇場、パルマ
配役
イスラム教徒：
オロズマネ（エルサレムのスルタン）（B）
コラズミーノ（宰相）（T）
ザイーラ(S)
ファティマ（スルタンの奴隷）（Ms）
メレドール（スルタンの将校）（B）
フランス軍：
ルジニャーノ(古代エルサレム王の血を継ぐ王子)(Br)
ネレスターノ(A)
カスティリオーネ（フランスの騎士）（T）

合唱団とエキストラ、スルタンの将校、衛兵、男女の奴隷、オダリスク、フランスの騎士団。

場面はエルサレムのスルタンの後宮。

第１幕

第１場

スルタンの後宮へと続く壮大な回廊。
正面には長い開廊に続く大きな階段があり、花瓶や香水で飾られている。両脇の階段は開廊と住居をつないでいる。
後宮ではスルタンとザイーラの結婚式を祝っている。
四方八方から奴隷と奴隷少女が登場し、オダリスク(女奴隷)が東洋の楽器の音に合わせて踊る。宦官が香を焚く。
全員で以下の歌を歌う。

讃美歌
女たち
ソリマ(エルサレム)の素晴らしい宝石、
美しく、優しいザイラ、
これほど控えめで強い心をもつあなたを見て、
ため息をつかない人がいるでしょうか？
男たち
天国の乙女にも似て、
明日の日も讃えられます。
結婚指輪によって、天国が約束された歓喜が
私たちにもたらされます。
女たち
でも、これほど天に愛される人が
いるでしょうか？
おお乙女よ、彼だけが自慢できる人を
連れて帰ったということですか？
男たち
彼は偉大なスルタンであり、
東の空に輝く星です。
稲妻のように戦うので、
異教徒からは恐れられています。
全員
何と謙虚なのでしょう、
ヴェールの下のあなたは。

Non può sottrarsi al zefiro
La vereconda rosa:
Invan celar si sforza
Nella sua dura scorza
Conca del golfo persico
Le perle al pescator.
L'Eroe ti vede, e fervido
Di te desio l'accende;
Già nell'Harém recondito
Letto d'onor t'attende.
O de' Credenti speme,
Ambo splendete insieme;
Sia desso il Sol di gloria,
L'astro sii tu d'amor.
(Ascendono le gradinate ed entrano nell'Harem).

SCENA SECONDA

Corasmino con seguito di Ufficiali Mu-sulmani.

CORO
Odi tu? Già suona intorno
Lieto canto nuziale.
CORASMINO
L'odo, ah! l'odo. - Oh! in qual ritorno
Dì d'obbrobrio, dì fatale!
CORO
Una figlia de' Cristiani
Sovra il trono de' Sultani?
CORASMINO
Mentre accinto a nuove offese
Varca i mari il Re francese,
Qui d'amor deliro e insano
Orosmane languirà?
CORO
Qui la legge del Corano
Una schiava offenderà?
CORASMINO
Per chi mai, per chi pugnasti,
O mio duce, o Noradino!
Dell'impero che fondasti
Fia pur questo il rio destino?
Tralignato e cieco figlio
Al tuo trono insulterà?
Deh! tu ispira a lui consiglio,
Non soffrir la sua viltà!
CORO
A' tuoi detti, o generoso,
Di furor, di duol siam pieni.
A che resti neghittoso?
A vendetta, in campo vieni.
CORASMINO
A vendetta? no: giammai.
Al Sultan mia fè giurai:
Altra via miglior di questa
Un Eroe ci renderà.

赤く貞淑な西風から
逃れることはできません。
ペルシャ湾の低地では、
真珠を硬い甲羅の中に入れて
漁師から隠そうとしても
無駄なことです。
英雄があなたを見つめています。
熱烈な愛情をこめて。
後宮の離れでは、
栄えある床があなたを待っています。
おお、我らの希望よ、
あなた方お二人は輝いています。
栄光の太陽となられ、
愛の星におなりください。
（彼らは階段を昇り、後宮に入っていく。）

第２場

コラズミーノとムスリム将校の側近。

合唱
聞こえますか？
もう幸せな結婚の歌が流れています。
コラズミーノ
聞こえる、ああ！ 聞こえる。おお！ 不名誉で、
宿命的な日が戻ってくるのか！
合唱
キリスト教徒の娘が
スルタンの玉座に就くのだとか？
コラズミーノ
フランス王が海を渡っているうちに
次の攻撃の準備をするのだ。
オロズマネ様の正気とは言えぬ愛は
しぼんでしまうだろうか？
合唱
ここにコーランの教えがありますが、
奴隷は罪を犯すのでしょうか？
2 **コラズミーノ**
誰のために戦ったのですか、
おお、御主人様、ノラディーノ様！
これがあなたの築かれた
帝国の運命なのですか？
恥知らずで世間知らずのご子息は、
あなたの王位を穢すのでしょうか？
ああ！ご忠告申し上げます、
愚かな行為で悩まないでください！
合唱
あなたの言葉に、おお寛大な方よ、
私たちは怒りと悲しみでいっぱいです。
何もなされないのですか？
復讐のために戦場においでください。
コラズミーノ
復讐？いや、それはありえない。
私はスルタンに忠誠を誓ったのだ。
偉大な人物はもっとよい方向に、
導いてくれるだろう。

CORO
E la speri? e ancor ci resta?
CORASMINO
Il mio zel la troverà
Sì, d'un furor colpevole
Non ascoltiam l'impero:
L'indegno nodo a frangere
Lasciate all'amistà.
Non fia che tardi a sorgere
Lo spirto suo guerriero;
E d'Occidente ai popoli
Spavento ancor sarà.
CORO
Speranza in te, magnanimo,
Ripone un regno intero:
Non renda il fatto inutile
La nobil tua pietà!
(Si dividono, e partono da vari lati. Corasmino s'innoltra verso l'Harem).

SCENA TERZA
Zaira e Fatima.
ZAIRA
Della mia gioia a parte,
Fatima, non sei tu? Muta e pensosa
Vedrò te sola in questo dì ridente?
Favella.
FATIMA
Io volgo in mente
I dì che più non sono, i dì che meco
Abborrivi il Serraglio, e col desire
Volavi in Francia del Guerrier sull'orme
Che di spezzar giurò le tue catene.
ZAIRA
Molto il Guerrier giurò, nulla mantiene.
Un anno intero è corso
Da ch'ei fu sciolto, e più di lui novella
Non s'intese in Soria. Lieto alla corte
Del Re francese, del Giordan le rive
E i franchi prigionier pose in obblìo.
FATIMA
Zaira!... E s'ei tornasse?...
ZAIRA
Ah! nol desio.
A che guidarmi in Francia? Orfana io sono,
Miei padri ignoro, e della patria antica
Io non possiedo che quest'aureo segno
Della Fede di Europa.
FATIMA
E a questa Fede
Nata sei tu: quel sacro segno è impresso
Sulla tua fronte ancor... e tu ti appresti,
Cieca fanciulla, a rinegarlo in braccio
Di un Tartaro crudel, di un oppressore
Della tua Legge?

合唱
それを願うのですか？まだ残留されると？
コラズミーノ
私の情熱がそれを見つけるだろう、
そう、罪悪への怒りだ。
帝国には従わないことにしよう。
表面的な繋がりを残して、
友情は解消するのだ。
彼の戦士としての精神が
目覚めるのが遅いだけだ。
そして西洋人への恐怖感は
まだまだ存続するだろう。
合唱
希望をお持ちください、寛大なお方よ、
王国全土を統治してください。
無駄にならさずに、
あなたの高貴なお慈悲を！
（彼らは様々な方向に散る。コラズミーノは後宮に向かう）

第３場
ザイーラとファティマ。
ザイーラ
私の喜びはさておいて、
ファティマ、あなた大丈夫？
この喜ばしい日に一人で押し黙っているなんて。
お話しなさい。
ファティマ
二度と帰らない日々を想っているのです。
あなた私も忌み嫌った後宮に閉じ込められて、
自由のない日々。あなたは希望を持って
軛を断ち切ると誓ってくれた戦士の跡を追って
フランスへ飛びました。
ザイーラ
戦士が誓ったことは何も変わっていないわ。
釈放されて１年が過ぎたけど、
シリアでは彼の新たな消息は聞かれない。
フランス王の宮廷では幸せだったけど、
ヨルダン川のほとりのフランス人の捕虜たちは
忘れ去られたのです。
ファティマ
ザイーラ！彼が戻られたら？…
ザイーラ
ああ！そのような希望は持っていないわ。
私がなぜフランスに？私は孤児です。
父親のことも故郷のことも知りません。
ヨーロッパの信仰の黄金のしるし［十字架］
しか持っていないのです。
ファティマ
あなたはこの信仰のもとに生まれ、
その神聖な印は
今でもあなたの額に…
恋に盲目となった娘は
残酷なタタール人の腕の中、
道理を抑圧する者の腕の中に？

ZAIRA
La mia Legge... è amore.
Amo ed amata io sono
D'amor qual vampa ardente;
Più di ragion possente
Ei m'empie il cor di sé.
Egli mi è speme e vita;
Egli mi è scorta e lume;
E mio soltanto il Nume
Che nol contende a me.
FATIMA
Taci: vaneggi, o stolta.
Ch'io più non t'oda.
ZAIRA
Ascolta...
FATIMA
Lasciami.
ZAIRA
Ah! no... perdono...
Non mi scacciar da te.
Amo ed amata io sono
D'amor qual vampa ardente;
Più di ragion possente
Ei m'empie il cor di sé.
SCENA QUARTA
Ricomincia la musica dall'Harem: ri-compariscono gli Schiavi, le Odalische, gli Eunuchi.
CORO
Suoni di gioia il cantico:
Viva Orosmane! ei scende.
ZAIRA
Odi?... Il Sultan... Qual palpito,
Quale tremor mi prende!
FATIMA
Vieni: all'Harém riparati:
Fuggi...
ZAIRA
Fuggir? Perché?
Non è, non è tormento
Il palpito ch'io sento:
È forza del diletto
Che già m'innonda il cor.
Del core egli è il trasporto
Che anela al caro oggetto,
Che a lui sen vola assorto
In estasi d'amor.
FATIMA
Ahi lassa! in te non sei.
Ti arrendi ai preghi miei,
Meco ritratti.
ZAIRA
Ah! lasciami.
FATIMA
Vedi!... tu tremi ancor.

ザイーラ
私の規範は…愛です。
3 私は愛し愛されています、
燃える愛の炎に包まれているのです。
理性よりも強力な彼の愛で
私の心は満ちているのです。
彼は私の希望で命。
彼は私の守護神で光。
私だけの神、
私のために争ったりしない。
ファティマ
お静かに。大騒ぎしている愚か者ですね。
もう聞きたくないわ。
ザイーラ
聞いて…
ファティマ
いや。
ザイーラ
ああ、ご免なさい…
一人にしないで。
私は愛し、愛されています。
何と燃えるような愛の炎でしょう。
理性よりも強力な彼の愛で
私の心は満ちているのです。
第４場
ハーレムからの音楽が再開し、奴隷たち、オダリスクたち、宦官たちが再び登場する。
合唱
喜びの歌を響かせましょう。
オロズマネ万歳！彼がおいでになります。
ザイーラ
聞いた？スルタンが…ドキドキするわ。
身震いがします。
ファティマ
さあ、後宮へ非難して。
逃げるのです。
ザイーラ
逃げるって？なぜ？
私の感じる鼓動は
苦痛ではありません。
それは喜びの力です
それはすでに私の心を満たしています。
彼は心の運び手で、
憧れの愛の対象です。
愛の恍惚の中に
彼のもとへ飛んでいくのです。
ファティマ
ああ、あなたは我を忘れている。
私の祈りにお任せなさい。
私と一緒に行きましょう。
ザイーラ
ああ、私を構わないで。
ファティマ
ほら、まだ震えているわ。

ZAIRA
Del core egli è il trasporto
Che anela al caro oggetto,
Che a lui sen vola assorto
In estasi d'amor.
CORO
Luce del nostro cielo,
Da te rimovi il velo;
Del tuo ridente aspetto
Allegra il tuo Signor.
SCENA QUINTA
Orosmane e detti.
OROSMANE
Zaira, i bei concenti,
Gl'inni, le danze e gli odorati serti,
Onde il tacito Harém si allegra e abbella,
Dell'amor mio per te sono favella.
ZAIRA
(Oh cari accenti!).
FATIMA
(Ahi! come Sottrarla al seduttor!).
OROSMANE
Te sua Sultana
Già saluta la Siria, e tal sarai
Senza temer rivali a tua grandezza;
Ch'io dalla vil mollezza
D'Oriente rifuggo, e nel mio core,
Disgiunto da virtù non entra amore.
Dopo la gloria io t'amo
Sovra ogni cosa in terra, e amar mi déi
Sovra ogni cosa tu. Se pari al mio
Fuoco non t'arde, non pensar ch'io voglia
Tiranneggiar crudel gli affetti tuoi.
Libera ancor tu sei... parlar tu puoi.
ZAIRA
Signor!... Che dir poss'io
Che tu non sappia?... dell'umil tua schiava
Appien leggesti ogni più chiuso affetto, e...
SCENA SESTA
Meledor e detti.
MELEDOR
Offrirsi al tuo cospetto
Chiede lo schiavo, che partir per Francia
Lasciò la tua pietà sulla sua fede.
OROSMANE
Guidalo.
(Meledor parte).
ZAIRA
(Oh Ciel! in quale istante ei riede!).
SCENA SETTIMA
Nerestano con seguito e detti.
NERESTANO
Generoso Sultano, i giuri miei
A scioglier vengo e i tuoi: reco il promesso

ザイーラ
彼は心の運び手で、
憧れの愛の対象です。
愛の恍惚の中に
彼のもとへ飛んでいくのです。
合唱
私たちの空の光である
あなたからベールを取り去るのです。
あなたの笑顔で
陛下を元気づけてください。
第５場
オロズマネほか。
オロズマネ
ザイーラよ、演奏会は素晴らしく、
讃美歌、舞踏、甘い香りで、
静かな後宮は喜びに溢れ、美しく飾られる。
私はお前への愛を語るのだ。
ザイーラ
（ああ、愛しい話し方！）
ファティマ
（ああ！どうやって誘惑者から引き離しましょう！）
オロズマネ
スルタンとして、お前のことはシリアに伝えてあり、
お前はもう重要人物なのだから、
敵を恐れる必要はない。
東洋の卑しいひ弱さから逃れるため、
美徳とかけ離れた愛は
私の心の中には入ってこないのだ。
天上の栄光の次に、
地上のすべてのものよりも、私はお前を愛している。
そしてお前も私を愛するのだ。
私の炎がお前を焼かぬなら
お前に愛情を無理強いすることはない。
お前はまだ自由に…話すがよい。
ザイーラ
ええ！…何と申し上げたらいいのか分かりません。
陛下の慎ましやかな奴隷は
陛下の秘められた愛をすべて感じ取っています。で…
第６場
メレドールほか。
メレドール
この奴隷は陛下の御前に身を委ねています。
フランスへ立つ前に
自分の信仰へのお慈悲を陛下に求めています。
オロズマネ
下がれ。
（メレドール退場）
ザイーラ
（ああ、神よ！いつ戻れるのでしょう！）
第７場
ネレスターノと従者たち、ほか。
ネレスターノ
寛大なるスルタンよ、私は貴方との約束を
取り消しに来ました。約束のものを持って行きます。

Di Zaira riscatto, e insiem di dieci Cristiani
Cavalier servi in Sorìa.
Io, povero qual pria
E oscuro Cavalier, nulla potendo
Offrir per me, quando per altri io dono,
Riedo alle mie catene, e lieto io sono.
OROSMANE
Men generoso, o Franco,
Io non sarò di te: cento a tua scelta
Rivedran Cavalieri il patrio suolo.
Un sol n'escludo:
NERESTANO
Un solo! E il nome!
OROSMANE
Lusignan. Egli discende
D'odiata stirpe; ai Musulmani è in ira.
Schiavo in Siòn morrà.
NERESTANO
Lasso... e Zaira?
OROSMANE
Prezzo non v'ha che basti A riscattar costei.
NERESTANO
（Che ascolto!）E un dì giurasti
Sciolta mandar pur lei.
OROSMANE
Passò quel giorno, o Franco:
Or d'Orosmane al fianco
Lieta sen vive, e tale
Che a lei ventura eguale
Né tu; né re d'Europa
Potrebbe in terra offrir.
NERESTANO
Lieta!
ZAIRA
（A soffrir capace Gli sguardi suoi non sono.）
NERESTANO
Fia ver, Zaira?...
OROSMANE
Audace! Trascorri omai.
NERESTANO
Perdono.- Nata alla Fede istessa,
Suora d'amor mi è dessa...
Senza dolor non posso
Lei musulmana udir.
OROSMANE
Schiavi, non più sospenda
Altro pensier la festa.
CORO
Il temerario apprenda
Che tua diletta è questa,
Che imperi a lei tu solo,
Che legge è il tuo desir.
NERESTANO
Misera!

ザイーラの身代金と、シリアにいる
10人のキリスト教徒の騎士の従者たちを。
私は相変わらず貧しく無名の騎士ですから、
自分のためには何もできませんが、
他人のためなら寄付をすることができます。
そして絆を取り戻すことができ嬉しいです。
オロズマネ
それほど寛大ではないぞ、フランス人よ。
お前の考えには与しない。
100人の騎士が再び祖国の地を見ることだろう。
１人だけ例外があるが。
ネレスターノ
１人だけ！その名は？
オロズマネ
ルジニャーノだ。彼は憎むべき民族の末裔であり、
イスラム教徒に対して怒りを抱いている。
彼はシオンの奴隷として死ぬのだ。
ネレスターノ
惨めなこと…で、ザイーラは？
4 **オロズマネ**
彼女を返す代償としては不十分だ。
ネレスターノ
（何ということを！）いつか彼女を返すと
貴方は誓ったのに。
オロズマネ
その日は過ぎたのだ、フランス人よ。
彼女は今オロズマネのところで
幸せに暮らしている。
それ以上の幸せを
ヨーロッパの王も
彼女に与えることはできなかった。
ネレスターノ
幸せですと！
ザイーラ
（彼は苦しみに耐えることができないようね。）
ネレスターノ
本当か、ザイーラ？
オロズマネ
図々しい！もう手遅れだ。
ネレスターノ
お許しください。信仰の中に生まれ
愛する妹が私に与えられました…
悲しみなしには彼女がムスリムだと
聞くことはできません。
オロズマネ
奴隷たちよ、祝宴のことを考えるのは
止めにしなさい。
合唱
命知らずは学びなさい
貴方の最愛の人は誰なのか、
貴方だけが彼女を支配していることを、
貴方の願望が何であるかを。
ネレスターノ
惨めな！

ZAIRA
(Oh pena!)
FATIMA
(Oh duolo!)
OROSMANE
Zaira! e qual sospir?
Ritorni al tuo sembiante
Il bel seren primiero:
Io sfido il mondo intero
Ad involarti a me.
A più felice istante
Il tuo bel cor prepara:
E patria e tempio ed ara
È l'amor mio per te.
NERESTANO e FATIMA
(Gran Dio! quell'alma errante
Rischiara d'un tuo raggio.)
ZAIRA
(Oh! come in un istante
Mancato è il mio coraggio!
A lui d'innanzi io gelo,
Mi regge appena il piè.)
NERESTANO
(Un tuo nemico, o cielo,
Non la rapisca a te.)
CORO
Bell'astro, ognor ridente
Rifulgi in Oriente,
Né mai vapor terreno
S'innalzi infino a te.
(Orosmane prende per mano Zaira e seco la conduce: tutti lo seguono. Nerestano si allontana con Meledor.)

SCENA OTTAVA

Atrio sotterraneo che mette alle carceri ove sono rinchiusi gli schiavi francesi. Castiglione e Nerestano.

CASTIGLIONE
Vieni: l'albergo è questo
Del lutto e del dolor: qui gl'infelici
Di Solima campioni han da tre lustri
Carcere orrendo. - Oh! con qual gioia, amico,
Benediran redenti il tuo gran zelo!
NERESTANO
Al Ciel sia lode, al Cielo
Che a me concede Cavaliere oscuro
Grazia ottener presso il Sultan severo,
Tanti prodi far salvi, e te primiero.
Così pietoso avesse ogni mia speme
Udita il Cielo! Ma dolcezza umana
Sempre di amaro è sparsa.
CASTIGLIONE
E qual potresti
Voto formar che accetto al Ciel non sia?
Qual t'affligge pensier?

ザイーラ
(おお、哀れな!)
ファティマ
(何ということ!)
オロズマネ
ザイーラ!なぜため息を?
自分の姿に戻りなさい、
本来の美しく落ち着いた姿に。
私はお前を自分のもとに導くために
全世界に挑むのだ。
もっと幸せな時に向けて
お前の美しい心の準備を。
家、神殿、祭壇を用意するが、
これは私からお前への愛情だ。
ネレスターノとファティマ
(偉大なる神よ!あなたの光で
さまよえる魂を輝かせたまえ。)
ザイーラ
(おお!一瞬にして
私は勇気を失いました!
彼の前で私は凍り付き、
この足でかろうじて立っているのです。)
ネレスターノ
(あなたの敵よ、おお天よ、
あなたから彼女を奪わないでください。)
合唱
いつも微笑んでいる美しい星が
東の空に輝き、
地上の蒸気がお前に向けて
立ち上ることはない。
(オロズマネはザイーラの手を取って連れて行き、全員がそれに従う。ネレスターノはメレドールとともに退場)

第8場

フランス人奴隷が収監されている牢獄へと続く地下アトリウム。フランス人奴隷が収監されている。カスティリオーネとネレスターノ。

5 **カスティリオーネ**
こちらへ。ここは嘆きと苦しみの宿です。
ここでは、ソリマ(エルサレム)の覇者たちが
不幸にも15年間も投獄されているのです。
おお!嬉しいことです、友よ、
彼らはあなたの熱意を祝福することでしょう!
ネレスターノ
天に讃えあれ。
暗黒の騎士よ、
厳格なるスルタンから恩寵を得て、あなた始め、
多くの勇敢な者が救われますように。
私の願いがすべて天に聞き届けられたとしたら、
何と慈悲深いことでしょう!
しかし、甘みには常に苦みも混じっているもの。
カスティリオーネ
あなたは天に受け入れられないような誓いを
立てることができますか?
どのような思いがあなたを苦しめているのですか?

NERESTANO
Noto ti fia. Di sì bel dì turbata
Non sia la gioia.
CASTIGLIONE
Calpestio d'armati
Vicin risuona... De' guerrier disciolti
Vien condotto il drappello a te d'innante:
Godi dell'opra tua.
NERESTANO
Beato istante!
SCENA NONA
Coro di Prigioni francesi.
CORO
Chi ci toglie ai ceppi nostri?
Chi ci rende all'alma luce?
Tu? - sì, tu che in volto mostri
La pietà che ti conduce.
Oh contento! ecco, ecco impressa
Sul tuo sen l'insegna istessa.
Che in più lieta età felice
Ne guidava a trionfar.
NERESTANO
Sì, compagni, ancor vi lice
Di brandir per lei l'acciar.
CORO
Ma un Eroe con te non guidi?
Non ti segue Lusignano?
NERESTANO
A lui solo i patri lidi
Nega barbaro il Sultano.
CORO e CASTIGLIONE
Cielo! e noi, quand'ei non viene,
Scioglierem da queste arene?
Quando ei serba i lacci suoi
Voleremo a libertà?
Ah! giammai: ciascun di noi
Dove ei muor, morir saprà.
NERESTANO
Generosi! il vostro amore
Lui non salva, e a voi dà morte.
CORO e CASTIGLIONE
La sfidiam con fermo core:
Dell'Eroe seguiam la sorte.
Giuramento ognun ne fia
Sul Giordano, in Cesarea,
Presso il santo Monumento
Dove estinto un Dio posò.
Scritto in sangue è il giuramento:
Niun di noi tradir lo può.
(Per partire).
SCENA DECIMA
Zaira e detti, indi Lusignano sostenuto da due schiavi.
ZAIRA
Fermatevi.

ネレスターノ
仰ることは分かります。このような目出度い日に
喜びが邪魔されませんことを。
カスティリオーネ
近くから軍隊の行進が響いてきます。…
解散した軍隊の一部は
あなたのまえに整列します。
仕事を楽しんでください。
ネレスターノ
光栄です！
第９場
フランス人捕虜たちの合唱。
合唱
誰が私たちを束縛から解き放ってくれるだろう？
誰が私たちの魂を栄光に導いてくれるのだろう？
あなたですか？　そう、あなたのお顔には
導きのお慈悲が。
おお、ご覧なさい！ここに刻印が、
あなたの胸に刻まれている。
それはもっと幸せな時勢に、
私たちを勝利に導いてくださるのだ。
ネレスターノ
そうだ、同士たちよ、
彼女のために斧を振るえということだ。
合唱
でもあなたと一緒の英雄は？
ルジニャーノは手伝わないのですか？
ネレスターノ
彼だけが祖国のスルタンの
蛮行を否定しているのです。
合唱とカスティリオーネ
何と！彼が来ないのなら、
私たち自身でこの闘技場を解放しようか？
彼が作戦を実行すれば、
私たちは自由になれるだろうか？
ああ！それは無理だろう。
私たちは彼の死を知ることになるだろう。
ネレスターノ
寛大な愛！あなたの愛は救われず、
あなたに死をもたらすのだ。
合唱とカスティリオーネ
私たちは確固たる信念を持ち、
英雄の運命に従うのだ。
全員が宣誓する、
カエザリアのヨルダン川の、
聖なる祈念碑で、
死んだ神が横たわる場所で。
血判状にはこう書かれる、
誰も裏切ることはできないと。
（退場する）
第10場
ザイーラほか。そして２人の奴隷に支えられたルジニャーノ。
ザイーラ
ちょっと。

NERESTANO
Zaira! A che vieni, infedel?
ZAIRA
A' preghi miei Lusignan vi è concesso.
Ei mi segue: mirate.
TUTTI
Oh gioia! è desso.
LUSIGNANO
Dove son io?... Reggete
L'infermo fianco... a lunga notte avvezzi
Mal resiston quest'occhi ai rai del giorno.
NERESTANO
Fa cor. A te d'intorno
Vedi i compagni di tua gloria antica...
ZAIRA
Pianger di gioia che degnati il Cielo
Gli abbia al contento di vederti illeso.
LUSIGNANO
E fra ver ch'io vi trovi?.:. e a voi sia reso?
O preziosi avanzi
Degli eroi di Sorìa, mà rtiri illustri
Della verace Fede, a chi di tanto
Debitori siam noi?
CASTIGLIONE
Gli hai presenti, o Signor.
CORO
Mirali.
LUSIGNANO
Voi!
Bontà celeste! e quel che invan tentaro
Cento eserciti e cento hai tu concesso
A sì giovani destre! - Ah! vi appressate...
Ch'io vi contempli...
Oh dolci aspetti! oh quante
Soavi rimembranze in me destate!
NERESTANO e ZAIRA
(Mi balza il cor).
LUSIGNANO
Chi siete voi?... parlate.
NERESTANO
Nerestano io mi appello. In Cesarea
Fatto schiavo fanciullo, e per favore
Del re Luigi a servitù fuggito,
In corte accolto io fui; ma de' parenti
Il nome ignoro... e nol saprò giammai.
LUSIGNANO
Misero! -
(a Zaira)
E tu!
ZAIRA
Provai
L'istessa sorte anch'io nel dì fatale
Che Cesarea da Noradin fu vinta.

ネレスターノ
ザイーラ！何をしに来たのか、異教徒よ？
ザイーラ
私の祈りによってルジニャーノがあなたに。
彼は私に付いてきます。ほら。
全員
ああ嬉しい！彼だ。
ルジニャーノ
ここはどこだ？…病んでいる脇腹を
押さえてくれ…長い夜になれてしまったこの眼は
昼の光には耐えられない。
ネレスターノ
では心の眼で。あなたの周りには
かつての栄光の仲間たちがいます。
ザイーラ
天は無傷のあなたを見て安心されます。
そのことを涙を流して喜んでください。
ルジニャーノ
いずれ私があなたを見つけ、あなたの元に戻れると？
シリアの英雄の貴重な残党たちよ、
真の信仰の輝かしい殉教者たちよ、
私たちは誰に
恩義があるというのか？
カスティリオーネ
あなたは彼らをご存じですよ、旦那様。
合唱
天よ。
ルジニャーノ
あなただ！
天にも昇る心地だ！百の軍隊が試みても
無駄だったことを、あなたはこのような有能な若者た
ちにやらせたのだ！ああ、あなたが近づいてくる…
あなたに思いを馳せたい…
おお素敵な横顔だこと！
数多くの甘い思い出が呼び起こされたぞ！
ネレスターノとザイーラ
（胸が高鳴る。）
ルジニャーノ
あなたは誰？…教えてくれ。
ネレスターノ
ネレスターノと申します。カエザリアで
子供の時に奴隷にされ、ルイ王の恩寵で
奴隷から解放され、宮廷に迎えられました。
ですが近親者の名前は知りませんし、
知るつもりもありません。
ルジニャーノ
惨めな！
（ザイーラに）
あなたは！
ザイーラ
私も
カエザリアがノラディンに負けた運命の日に、
同じ運命を感じました。

LUSIGNANO
Ah! fu quel dì la mia famiglia estinta.
Due figli sol... due figli
Avanzaro alla strage... e schiavi anch'essi
Rimaser forse... Ambi sul fior degli anni
Sarian così... così gentili e umani
Agli atti, alla favella ed all'aspetto.
ZAIRA
(Cielo!).
LUSIGNANO
Ma qual dal petto
Monil ti pende? Onde l'avesti?
ZAIRA
Io l'ebbi... Fin dalle fasce.
LUSIGNANO
A me lo porgi... Oh vista!
È desso... è desso...
ZAIRA
Ah! che di' tu?... Qual pianto
Negli occhi tuoi vegg'io?
LUSIGNANO
Non tradir la mia speme, eterno Iddio!
L'età conforme, il loco,
Il sembiante... Ah! tu pur... dimmi... nel seno
Di una ferita hai tu la cicatrice?
NERESTANO
È vero.
LUSIGNANO
Oh me felice!
Oh ineffabil dolcezza!... io li ritrovo,
Io riveggo i miei figli...
ZAIRA NERESTANO
(Oh Dio! che sento!)
LUSIGNANO
Abbracciatemi...
o figli!
ZAIRA e NERESTANO
o padre!
TUTTI
Oh lieto evento!
LUSIGNANO
Cari oggetti! in seno a voi
Io rinasco a nuova vita.
NERESTANO e ZAIRA
Nei paterni amplessi tuoi L'alma mia si sta rapita.
LUSIGNANO
Voi riveggo in pria ch'io muoia!
NERESTANO e ZAIRA
Tu concesso al nostro amor!
TUTTI
Ah! cancella un dì di gioia
Mille giorni di dolor.
(Silenzio).

ルジニャーノ
ああ！私の家族は死に絶えてしまいました。
二人だけの…子どもたちも
虐殺のせいで…おそらく奴隷となったのでしょう…
幸福だった頃は、二人とも…
行動も言葉も外見も、
とても穏やかで人間的でしたのに。
ザイーラ
（何と！）
ルジニャーノ
ところで、あなたの胸のネックレスは？
どこで手に入れたのですか？
ザイーラ
私が…赤ん坊の時からです。
ルジニャーノ
ちょっと見せてください…　おお！ご覧なさい！
これです…これです…
ザイーラ
何を言っているのです？
あなたの眼に浮かぶ涙の訳は？
ルジニャーノ
永遠なる神よ、私の望みを絶ち切らないでください。
日時、場所、見た目が一致します。
ああ！教えてください、
胸には傷跡が残っていますか？
ネレスターノ
もちろんです。
6 **ルジニャーノ**
おお、嬉しい！
おお、言いようのない甘さ！…彼らを見つけました。
我が子たちに再会できたのです…
ザイーラ、ネレスターノ
（おお、神様！何を聞いたのでしょう！）
ルジニャーノ
私を抱きしめておくれ…
おお、我が子たちよ！
ザイーラ、ネレスターノ
おお、お父様！
全員
おお、嬉しい出来事です！
ルジニャーノ
親愛なる者たちよ！
お前たちの中で、私は生まれ変わるのだ。
ネレスターノ、ザイーラ
父親の抱擁の中で、私の心は奪われています。
ルジニャーノ
死ぬ前にまた会おう！
ネレスターノ、ザイーラ
あなたに私たちの愛を！
全員
喜びの一日は、
苦しみの千日を消し去ります。
（沈黙）

LUSIGNANO
Ma che miro?... e qual mi coglie
Rio timor, crudel sospetto?
ZAIRA
(Ah!).
NERESTANO
Favella.
LUSIGNANO
In franche spoglie
Te ben veggio, o mio diletto...
Ma costei... perché di questa
Vien coperta odiata vesta?... Perché?
(a Zaira)
Parla Impallidisci?
Piangi?... Intendo... Oh mio rossor!
ZAIRA
Ah! nol celo... Me punisci...
Musulmana io fui sinor.
(Lusignano si allontana con orrore, e si getta nelle braccia di Nerestano).
LUSIGNANO
Mi sostieni... A tal favella
Senza te sarei spirato.
NERESTANO
L'odi! ah l'odi! - O mia sorella!
Il suo core hai tu spezzato.
LUSIGNANO
Ciel! potei soffrir tant'anni
Pene orrende, atroci affanni;
Ma tal macchia al sangue mio
Io non posso, o Ciel, soffrir.
ZAIRA
Padre!... ahimè... che dir degg'io?
Io mi sento il cor morir.
LUSIGNANO
Qui, crudele, in questa terra
Del tuo Dio fu sparso il Sangue:
Qui spirar miei figli in guerra...
Qui tua madre io vidi esangue...
E tu puoi parenti e Dio
Rinegar, tradir così?...
Morto io fossi, ahi! morto anch'io,
S'io dovea mirar tal dì!
NERESTANO
Deh! ti calma... In tempo ancora
La ritrovi per salvarla...
Già di figlia, già di suora
La pietade in sen le parla.
Nel suo pianto appien vegg'io
Che il rimorso in cor sentì...
Non lasciar, clemente Iddio,
L'alma sua perir così...
ZAIRA
Ah! perdona... Io qui vivea

ルジニャーノ
しかし、私は何を探しているのか…
どんな恐怖と残酷な疑惑が私を襲うのか？
ザイーラ
（ああ！）
ネレスターノ
お話しください。
ルジニャーノ
率直に言って、
お前を良く見ると、愛する娘よ、
なぜこのような忌まわしい衣装を
身に纏っているのだ？…なぜ？
（ザイーラに）
話して。青ざめて？
泣いている？ つまり、赤面している！
ザイーラ
ああ！隠すつもりはありませんが､罰当たりなことに、
私はムスリムでした。
（ルジニャーノは恐怖のあまり背を向け、ネレスターノの腕の中に身を投げる。）
ルジニャーノ
お前たち…私を支えておくれ。
お前たちがいなければ、私は息絶えていただろう。
ネレスターノ
あなたはそれが嫌なのでしょう！おお、妹よ！
あなたは妹の心を傷つけてしまったのです。
ルジニャーノ
天よ！私は永年苦しんできた。
恐ろしい苦痛と残酷な苦悩に。
だが、このような血の汚れは、
ああ天よ、私は耐えられない。
ザイーラ
お父様！…ああ、何と言えばいいのでしょうか？
心が死にそうです。
ルジニャーノ
残酷なことに、お前の神のこの地で
血が流されたのだ。
ここで私の息子たちが戦死した…
ここでお前たちの母親が血を流しているのを見た…
それでお前は親族や神を裏切り
否定することができるのか？
もし私が死んでいたら、ああ、死んでしまっても
あの日のことを目撃せねばならなかった！
ネレスターノ
おお！落ち着いてください。
まだ彼女を救う方法は見つかります…
もうあなたの娘として、修道女として、
彼女に中の優しさが彼女に語りかけています。
彼女の涙からは、
後悔の念が感じられます…
慈悲深い神よ、お見捨てにならないで、
彼女の心を罰しないでください。
ザイーラ
ああ！お許しください…

A me stessa ignota e oscura;
Né un parente mi reggea...
Mi eran patria queste mura...
L'intelletto ed il cor mio
Nel Serraglio si smarrì...
Ah! morir, morir desìo,
S'io son rea, s'errai così...
CORO *(a Zaira),*
A che stai? perdono implora
Di lui degna omai ti mostra.
ZAIRA
Che far deggio?
LUSIGNANO
Il chiedi ancora? Confessar la Fede nostra.
ZAIRA
Padre l'imponi.
LUSIGNANO
Un solo accento. - Sei cristiana?
ZAIRA
Il giuro a te.
LUSIGNANO, NERESTANO, CORO
Ciel! ricevi il giuramento!
SCENA UNDICESIMA
Meledor e Soldati.
MELEDOR *(A Zaira)*
Il Sultan ti chiama a sé.
TUTTI
Il Sultan!
ZAIRA
Che fia?
MELEDOR
Tu dei Separarti da costoro.
(ai prigionieri)
Voi seguite i passi miei;
Custodirvi io deggio ancor.
TUTTI
Custodir! perché?
MELEDOR
L'ignoro.
TUTTI
Ahi! qual colpo! ahi nuovo orror!
LUSIGNANO *(Ai prigionieri)*
Obbediam - Coraggio, amici;
Di costanza il petto armate.
(a Zaira e Nerestano)
Voi vivete a dì felici,
E il segreto ognor serbate.
NERESTANO e ZAIRA
Lo giuriamo.
LUSIGNANO
Or basta: addio.
NERESTANO e ZAIRA
Oh dolore!

私はここで人知れずに生きてきました。
親族さえも助けてはくれませんでした…
この壁が私の故郷だったのです…
後宮の中で、私の心と知性は
失われてしまいました…
ああ！死にたい！
私が罪深いと仰るなら、それは誤りです…
合唱 *（ザイーラに）*
何をしているのですか？
彼に許しを請い、価値ある人間になってください。
ザイーラ
どうすればいいのですか？
ルジニャーノ
まだ尋ねるのか？お前の信仰を告白するのだ。
ザイーラ
お父様が強制させるのですか。
ルジニャーノ
要点は一つ。お前はクリスチャンか？
ザイーラ
誓います。
ルジニャーノ、ネレスターノ、合唱
天よ！誓いを受け入れ給え！
第11場
メレドールと兵士たち。
メレドール *（ザイーラに）*
スルタンがあなたを呼んでいます。
全員
スルタンが！
ザイーラ
何でしょう？
メレドール
あなたは彼らとの関係を断たねばならない。
（囚人たちに）
私に付いてきなさい。
私はあなたたちを護衛せねばならない。
全員
護衛！なぜ？
メレドール
知らぬ。
全員
ああ！ショックだ！新たな恐怖だ！
ルジニャーノ *（囚人たちに）*
従おう。勇気を出して、友よ。
胸には常に武器を。
（ザイーラとネレスターノに）
あなたたちは幸せな日々を過ごしているが、
秘密は守るように。
ネレスターノ、ザイーラ
誓います。
ルジニャーノ
それでいい。さらばじゃ。
ネレスターノ、ザイーラ
ああ、辛い！

CORO
Addio crudel!
TUTTI
Non si pianga, si nasconda
Il dolor che il sen c'innonda:
Questo addio non fia l'estremo:
Ci vedremo - almeno in Ciel.
(Partono tutti).
SCENA DODICESIMA
Interno dell'Harem. Orosmane, Corasmino e Guardie.
OROSMANE
Liberi tornin tutti: era il sospetto
Figlio del tuo timor. L'oste de' Franchi
La Sorìa non minaccia; essa è rivolta
Contro il Soldan d'Egitto, e mio nemico
Più che Luigi quel Soldan detesto.
CORASMINO
Nel tuo voler funesto
Troppo fermo sei tu, perch'io pur voglia
Porti d'innanzi il ver. Piaccia al Profeta
Che non ti sia fatal la libertade
Che a Lusignan tu dai!
OROSMANE
Presso alla tomba è l'egro veglio ormai.
Dimentica di lui,
Già da molt'anni, e delle sue sventure
Non curante è l'Europa.
CORO
A rovesciarla
Bastò sull'Asia di romito oscuro
La nuda voce; che farà l'aspetto
Di un re soffrente e oppresso?
OROSMANE
Specchio all'Europa, e insiem terror fia desso.
Ma sia qual vuolsi: il diedi
Ai preghi di Zaira, ed io non uso
Di ripigliar miei doni... Ella pur brama
A Nerestan dar l'ultimo congedo.
CORASMINO
Che sento! E tu, Signor!
OROSMANE
Io lo concedo.
CORASMINO
E a tanto giungi?
OROSMANE
Io dell'Harém le leggi
Tutte infrango, lo so: ma d'un rifiuto
Affligger lei non posso, e me crudele
A quel tenero cor tu invan vorresti.
SCENA TREDICESIMA
Meledor e detti.
MELEDOR
Signor, come imponesti,
Mi segue Nerestan.

合唱
残酷な人よ、さらば！
全員
泣くのはやめよう。
あふれる悲しみを隠そう。
この別れが最後ではない。
せめて天国で会いましょう。
（全員退場）
第12場
後宮の内部。オロズマネ、コラズミーノ、衛兵たち。
オロズマネ　　* フランス国王
全員が解放された。彼はお前が恐れていた奴の息子だ。
フランス人の信者たちが脅かされることはない。
それはエジプトのスルタンに向けられたもの。
それは私の敵。
私は、ルイ*よりもスルタンの方を警戒しているのだ。
コラズミーノ
陛下の御意志が硬いので、
真実を申し上げにくいのですが。
ルジニャーノに自由をお与えになったことが、
陛下にとって
致命傷にならなければよいのですが。
オロズマネ
その老人はもう墓場にいるようなものだ。
彼のことは忘れなさい。
もう永いことヨーロッパは
彼などに関心は持っていない。
合唱
その生の声は
アジアの闇の支配者を失脚させるには十分だった。
苦しみ抑圧された王の出現は
何をもたらすのか？
オロズマネ
ヨーロッパを映す鏡であると同時に、脅威にもなろう。
だが私の望み通りとなるだろう。
ザイーラへの祈りに捧げた贈り物を
取り戻すつもりはない。…彼女はネレスターノに
最後の別れを告げたいと思っている。
コラズミーノ
何ですって！陛下！
オロズマネ
それは認めるとも。
コラズミーノ
どこまで？
オロズマネ
私は後宮のあらゆる決まりを破っている。
しかし、私は彼女を拒否して苦しめることはできない。
私にとっても辛いことだが、
優しい気持ちを望んでも無駄なこと。
第13場
メレドールほか。
メレドール
陛下が命じられた通り、
ネレスターノは私に付いてきています。

OROSMANE *(Alle guardie che partono)*
Venga Zaira.
(a Corasmino)
E tu mi segui: alcun non fia che ardisca
Molesto spettator offrirsi a loro.
Questa è mia legge.
CORASMINO
(Il mio furor divoro!)
(Parte con Orosmane).
SCENA QUATTORDICESIMA
Meledor, Nerestano, indi Zaira.
MELEDOR
Qui rimaner tu puoi;
Tarda non fia Zaira.
(Parte).
NERESTANO
Oh! in quale stato,
In qual luogo degg'io sì caro pegno
Abbandonar per sempre! O mia Zaira!
Sarai tu al padre ed al tuo Dio rubella?
Alcun si appressa.
ZAIRA
Nerestan!
NERESTANO
Sorella! Ti abbraccio ancor... ci unisce
Un'altra volta il Ciel; ma il padre... ahi lasso!
Fia tolto al nostro amore
Forse per sempre.
ZAIRA
Ah! che mai dici!
NERESTANO
Ei muore. A tanti affetti e tanti
Quel core non bastò: misero, incerto
Della tua Fede, amaramente ei geme;
Grave gli è morte.
ZAIRA
E me spergiura ei teme?
No, nol son io, nol sono...
È mia la legge sua... Che più m'impone
Cotesta Legge?
NERESTANO
Detestar l'impero De' tuoi tiranni.
ZAIRA
Ed Orosmane?
NERESTANO
Odiarlo, Abborrirlo dei tu.
ZAIRA
Pietoso, umano,
Generoso è il Sultano...
Mi benefica... mi ama.
NERESTANO
E tu?
ZAIRA
Mia destra Sol la mia destra ei chiede.

オロズマネ *(退場する衛兵たちに)*
ザイーラを、こちらへ。
(コラズミーノに)
私に従うのだ。あえて大衆にその身を差し出す
勇気はないだろうに。
これが私のやり方だ。
コラズミーノ
(私は怒りを抑えられない！)
(オロズマネの前から去る)
第14場
メレドール、ネレスターノ、そしてザイーラ。
メレドール
ここにいても結構です。
ザイーラ様はじきにおいでになります。
(退場する)
ネレスターノ
おお！このような境遇で
自分を永遠に捨てるような
誓約をせねばならないのか？おお、私のザイーラ！
あなたは父親でもあり疫病神でもあるのか？
誰か来た。
ザイーラ
ネレスターノ！
ネレスターノ
妹よ！もう一度お前を抱きしめよう…神は再び
私たちを団結させる。しかし父上は…
残酷にも私たちの愛から
永遠に遠ざけられるだろう。
ザイーラ
ああ！何をおっしゃるのですか！
ネレスターノ
父上は死ぬだろう。多くの情愛と多くのものが
父上の心には十分ではなかった。
惨めで、お前の信仰に確信が持てず、呻いていた。
その死は重大なことだ。
ザイーラ
父上は私が誓約することを恐れていると？
いいえ、私はそのようなことはしません…
彼の決めたことに私は従います。
これ以上私に何を課すというのでしょう？
ネレスターノ
お前の暴君の帝国を憎むのだ。
ザイーラ
オロズマネを？
ネレスターノ
彼を憎み、忌み嫌うのだ。
ザイーラ
思いやりと人間味があって、
スルタンは寛大です。
私に恩恵を与え、私を愛しています。
ネレスターノ
お前は？
ザイーラ
彼は私に結婚を求めています。

NERESTANO
E tu? prosegui...
ZAIRA
Egli ha mia fè.
NERESTANO
Tua fede!
Oh! qual vibrasti orribile
Colpo al mio cor, Zaira!
Ahi! con qual fronte riedere
Al genitor che spira?
Che dirgli allor che il misero
Mi chiederà di te?...
Empia! al mio sguardo invólati;
Più non offrirti a me.
ZAIRA
Deh! non fuggirmi; svenami,
Se pur son rea cotanto...
Sola, inesperta e debole
Cessi a possente incanto;
Un Nume in mezzo agli uomini
A me il Sultan sembrò.
Ah! quest'incanto struggere
La mia ragion non può.
NERESTANO
Virtù lo puote: ascoltala;
Ella ti parla al core.
ZAIRA
Pietà di me! compiangimi:
Amo, e ne sento orrore.
NERESTANO
Sì; lo scompiglio orrendo.
Dell'alma tua comprendo:
Al Ciel resisti ancora!
Ma il Ciel vittoria avrà.
ZAIRA
Oh mio fratello!
(Gettandosi nelle sue braccia)
NERESTANO
Oh suora!
ZAIRA
Speme per me non v'ha!
NERESTANO
Segui, deh! segui a piangere
Nelle fraterne braccia:
Basta il tuo pianto a tergere
D'ogni fallir la traccia:
Odi del core il grido,
Che ti richiama al Ciel...
Torna, colomba, al nido,
Torna al tuo Dio fedel.
ZAIRA
Stringimi ancora, stringimi
Nelle fraterne braccia:
L'ombre che mi circondano

ネレスターノ
で、お前は？付いていくのか…
ザイーラ
私は彼を信頼しています。
ネレスターノ
お前は信頼していると！
おお、私の心には強烈な打撃だ、
ザイーラよ。
7 どんな顔をして死にかけた父親のところに
戻ればよいというのだ？
哀れな父親がお前のことを尋ねてきたら
何と答えればいいのか？
不信心者！私の視界に入るな。
私の前から消えるのだ。
ザイーラ
ああ、私から逃げないでください。気絶しそうです。
私がそれほど罪深いとしても、
孤独で、未熟で、弱い私は、
強い魔力から逃れることはできません。
私にとってスルタンは
人間の中の神に見えるのです。
ああ！私の理性では
この魔力を破壊することはできません。
ネレスターノ
美徳にできることは、彼女に耳を傾けることだ。
彼女は心の内を話すだろう。
ザイーラ
憐れんでください。同情してください。
愛していますが、それが恐ろしい。
ネレスターノ
そうだ。恐ろしい混乱だ。
お前の心は分かっている。
天国ではまだ抵抗している。
だが、天は勝利を得るだろう。
ザイーラ
おお、お兄様！
（彼の腕の中に身を投げる）
ネレスターノ
おお、修道女よ！
ザイーラ
私の希望は消え失せました！
ネレスターノ
ついてくるのだ。ああ、
兄妹の腕の中で泣き続けるのだ。
お前の涙は、あらゆる失敗の
痕跡を消すのに十分だ。
心の叫びを聞くのだ、
天へ呼び戻す心の叫びを聞くのだ…
戻るのだ、鳩よ、巣に戻るのだ。
忠実な神のもとに戻るのだ。
ザイーラ
もう一度抱きしめて、
兄妹の腕の中に抱きしめてください。
私を取り囲む影は

Lunge da me discaccia:
Sciogli la benda oscura
Che mi contende il Ciel...
Torno innocente e pura,
Torno a mio Dio fedel.

遠ざかっていきます。
天と私を争わせる
黒い包帯を解いてください…
私は純粋無垢に戻り、
忠実な神のもとに帰ります。

（Odesi lieta musica. Zaira si scuote）

（明るい音楽が聞こえる。ザイーラは身体を動かす）

ZAIRA
Ah! qual suon?

ザイーラ
ああ！何の音でしょう？

NERESTANO
Alcun si appressa.

ネレスターノ
人がやって来る。

ZAIRA
Il Sultan!

ザイーラ
スルタンです！

NERESTANO
Sorella! ardire.

ネレスターノ
妹よ！大胆な。

SCENA QUINDICESIMA

第15場

Orosmane, Corasmino, Uffiziali e Schiavi.
Tutto il Corteggio del Sultano.

オロズマネ、コラズミーノ、将校たちと奴隷たち。
スルタンの側近全員。

OROSMANE
Corsa è l'ora a lei concessa:
Cavalier, tu puoi partire.
Tu mi segui, andiam, Zaira;
Già l'altar ne infiora amor.

オロズマネ
お前に与えられた時間は過ぎ去った。
男たちは出て行くがよい。
私と一緒に行こう、ザイーラ。
祭壇は愛の花で飾り付けられている。

ZAIRA
（Lassa me!）

ザイーラ
（いやです！）

CORASMINO
（Che fia? sospira!...）

コラズミーノ
（どうしたんだ？はぁ！…）

OROSMANE
Non rispondi?

オロズマネ
答えないのか？

ZAIRA
Ah! mio Signor!...

ザイーラ
ああ！陛下！…

OROSMANE
Che mai veggo?... In tal momento
Tu sì mesta e sbigottita!
Perché? parla...

オロズマネ
どういうことだ？
お前は悲しそうで当惑しているようだが…
なぜだ？教えてくれ…

NERESTANO
Un tristo evento
Di dolore l'ha colpita...
Lusignan, Signor, sen muore:
Chi di noi potria gioir?

ネレスターノ
悲しい出来事が
彼女を襲ったのです。
陛下、ルジニャーノが亡くなったのです。
私たち誰も嬉しいわけがありません。

ZAIRA
Deh! ti piaccia a dì migliore
Queste nozze differir.

ザイーラ
ああ！よろしければ、
結婚式はしかるべき日まで延期するべきです。

OROSMANE
Differirle!

オロズマネ
延期だと！

CORASMINO
E qual pensiero D'uom morente aver tu puoi?

コラズミーノ
死者についてはどう思われますか？

NERESTANO
È francese.

ネレスターノ
フランス人のことです。

CORASMINO
È a lei straniero.

コラズミーノ
彼女にとっては異教徒です。

NERESTANO
Niun cristiano è tal per noi.

ネレスターノ
そのようなキリスト教徒はいません。

OROSMANE
Tutti, o franco, tutti il sono

オロズマネ
皆の者、要するに、すべては

Per colei ch'io pongo in trono.
Vieni omai...
ZAIRA
Signori...
OROSMANE
Ricusi! L'amor mio tropp'oltre abusi.
ZAIRA
Soffri, deh!.. ch'io mi ritiri...
Ch'io ti asconda i miei sospiri...
OROSMANE
Resta... il vo'... Tu forse, o franco,
Sei tu forse un seduttor!... Guardie, olà...
ZAIRA
T'arresta... Io manco.
NERESTANO
Ah Zaira!...
OROSMANE
Oh mio furor!
Ite, o schiavi, e differito Sia per ora il sacro rito.
E tu, trema... Sul Giordano
Non ti trovi il nuovo albor.
TUTTI
OROSMANE
Io saprò da qual deriva
Strana fonte il tuo dolore.
Sciagurato chi mi priva
Del mio bene, del tuo core!...
Fremerai d'aver negletta
Del Sultano la bontà...
Il furor di mia vendetta
L'Universo scuoterà.
ZAIRA
Non cercar da qual deriva
Fatal fonte il mio dolore.
Niun mortal di te mi priva,
Del destino è il rio terrore.
Ma da me, da me negletta
Non pensar la tua bontà.
Più crudel di tua vendetta
Tal sospetto a me si fa.
NERESTANO
(Dio de' padri, in lei ravviva
Di tua Fede il puro ardore:
L'empia fiamma che nutriva
Sia sepolta nel suo core:
Questa almeno in morte aspetta
Un Eroe da te pietà.
Ah! l'amor, non la vendetta,
Del Sultan, tremar mi fa.)
CORASMINO
(Ben vegg'io da qual deriva
Rea cagione il suo dolore.
Per lo Schiavo amor nutriva,
Ingannava il suo Signore...

私が王位に就かせる彼女のためなのだ。
さあ、来るのだ…
ザイーラ
陛下…
オロズマネ
拒否するのか！私の愛は虐げられている。
ザイーラ
ああ、苦しい！…なかったことにしたい…
陛下にため息は聞かせたくありません…
オロズマネ
残っている…声は…もしかして
お前は誘惑者だったのか！衛兵よ、ほら…
ザイーラ
待ってください…気を失いそうだわ。
ネレスターノ
ああ、ザイーラ！…
オロズマネ
ああ、我が怒りよ！
奴隷たちは神聖な儀式を延期するのだ。
そしてお前は震えている…　ヨルダン川の
新たな夜明けを見ることはないだろう。
全員
1 **オロズマネ**
お前の苦しみのおかしな原因を
私は知っている。
私から善を奪い、お前から心を奪うなんて、
惨めなことだ！…
お前はスルタンの善意を無視したことに
身震いするだろう…
私の復讐の怒りは
宇宙を揺るがすことだろう。
ザイーラ
私の苦しみの本当の原因を
詮索しないでください。
私から陛下を奪うことは誰にもできません。
運命自体が恐怖なのです。
でも、陛下の善意が理由で
私が陛下を拒絶したとは考えないでください。
陛下の復讐よりも、
私へのこの疑惑の方が残酷です。
ネレスターノ
（父なる神よ、彼女のうちに
御身への信仰の純粋な熱意を復活させてください。
彼女が育んだ穢れた炎を、
彼女の心に葬り給え。
せめて死の際には、
御身からの憐れみの英雄をお待ちしています。
ああ！復讐ではなく、
スルタンの愛が私を震え上がらせるのです。）
コラズミーノ
（彼女の苦しみが
どこから来ているのかよく分かる。
奴隷のために愛を育み、
主を欺いた。…

Di sua gente, di sua setta
Tutta è in lei l'infedeltà...
Ma l'oltraggio avrà vendetta;
L'arte mia l'affretterà.)
CORO
(Tal ripulsa al suo Signore!
Tal mercede a tanto amore!
Vile ancora, ancor negletta
Nel Serraglio languirà.)

彼女の民の、彼女の宗教の、
すべての不実が彼女の中にある。…
しかし、その暴挙には復讐がある。
私の技がそれを加速させるだろう。)
合唱
(陛下に対してこれほど反発するとは！
これほどの愛に、これほどの褒賞が！
卑劣な彼女は、後宮では無視され続け、
立場を失っていくだろう。)

ATTO SECONDO
SCENA PRIMA
Stanze di Zaira. Fatima e Zaira.
FATIMA
Fa' cor, Zaira: il sagrificio è amaro,
Ma necessario; e la pietà superna
Ti reggerà perché compiuto ei sia.
ZAIRA
Sì... la fralezza mia
D'ajuto ha d'uopo che non sia terreno...
A tanta guerra ogni valor vien meno.
FATIMA
Tu vincerai, mel credi:
Vittoria è nel soffrir.
ZAIRA
Ahi vana speme!
Invan dal cor che geme
S'alza preghiera al Ciel perch'ei ne tolga
D'Orosmane l'imago, e ad ogni istante
Fra il Cielo e me la cara imago io vedo.
FATIMA
Misera! e credi?...
ZAIRA
Il Ciel clemente io credo.
Odiar potrebbe ei tanto
Un magnanimo cor? Qual può cristiano
Vantar virtute che il Sultan non vanti?
Sorge talor fra tanti
Crudi pensier consolatrice idea,
Che, dove io salga di Sionne al trono,
Alla salute sua prescelta io sono.
Allor desìo mi prende
Di volar al Sultano, e a lui prostrarmi,
E l'esser mio svelarli.
FATIMA
Deh! nol tentar: perdi il fratel se parli.
T'ama Orosmane, è vero;
Ma più i Cristiani abborre, e, più di tutti,
Di Lusignan la stirpe. - Ah! serba, amica,
Serba al padre il segreto e la promessa.
ZAIRA
Odo rumor... Cielo! il Sultan si appressa.
SCENA SECONDA
Orosmane, Zaira, e Fatima che ad un cenno d'Orosmane

第２幕
2 第１場
ザイーラの部屋。ファティマとザイーラ。
ファティマ
元気を出して、ザイーラ。犠牲はつらいけど、
必要なことよ。そして崇高な信仰心が
あなたを支え、心が満たされることでしょう。
ザイーラ
そうね。私の弱さには
この世のものではない援助が必要なのです。
このような戦争にあってはどんな勇気も空しいこと。
ファティマ
あなたが勝つと私は信じています。
勝利は苦しみの中にあるのです。
ザイーラ
空しい望みだわ！
オロズマネの面影を取り払ってくださいと、
呻く心から天に向かって祈るのも空しいこと。
そして、天と私の間には、
どんな瞬間にも愛しい面影が見えるのです。
ファティマ
可哀想！信じているの？
ザイーラ
天は慈悲深いと信じているわ。
寛大な心ならこれほど憎むことができるでしょうか？
スルタンが誇らない美徳を
キリスト教徒が誇ることができましょうか？
時には、多くの過酷な思いの中から
慰めとなる考えが生まれることがあります。
シオンヌ生まれの私が王位に就く場所はどこであっても、私は彼が安寧であることを選びます。
そして、スルタンのもとに飛んでいき、
彼の前にひれ伏して、私の存在をさらけ出したい
という願望もあるのです。
ファティマ
おお、それは止めて。お兄様を失うことになります。
オロズマネは本当にあなたを愛しているのです。
でも彼はどんなキリスト教徒よりも、
ルジニャーノの一族を嫌っている。ああ、セルビア人の友よ、秘密とお父上との約束は守ることです。
ザイーラ
物音がするわ…何と！スルタンがやって来た。
第２場
オロズマネ、ザイーラ。ファティマはオロズマネの合図で

si ritira.

OROSMANE

Che a te mi guidi amore,
Zaira, non pensar.
Passò quel giorno
Che te dell'amor mio degna credei -
Né paventar tu dei
Che ai rimproveri io scenda, e ch'io t'astringa
Con mendaci discolpe a lusingarmi:
Troppo altero son io per lamentarmi.

ZAIRA

(Oh rie parole! oh sensi
Che mi spezzano il cor!)

OROSMANE

Ma generoso,
Del par che altero, io son; né finger teco
Vogl'io perciò. - Quanto t'amai ti sprezzo,
E i dì, perduti in amar te, detesto.

ZAIRA

(Da lui sprezzata!... ah! questo
Avanza ogni martir!)

OROSMANE

Al basso stato,
Dond'io ti tolsi, or riedi, e schiava abbietta
Nel fondo dell'Harém langui negletta.
Io troverò nell'Asia
Donna a cui dare un trono,
Che più di te lo meriti,
Che più ne apprezzi il dono,
Che al par dite non cangi
Gli affetti suoi così...

ZAIRA

(Misera me!)

OROSMANE

Tu piangi! Piangi, Zaira!...

ZAIRA

Ah! sì.
Piango; ma deh! non credere,
Lassa! ch'io pianga un trono:
Piango quel cor magnanimo
Che mel recava in dono;
Piango, infelice, e bramo,
Del primo amore i dì...

OROSMANE

E m'ami tu?

ZAIRA

S'io l'amo!
S'io l'amo, o Cielo!

OROSMANE

Ah! sì.
Ma se tu m'ami, o barbara,
Dimmi chi a me t'invola?...
Basta un accento a rendere
La calma a questo cor.

退場する。

オロズマネ

愛が私をお前へと導くのだ、
ザイラ、考えてはいけない。
お前が私の愛に値すると
信じたあの日は過ぎ去った。
お前が恐れる必要はない、
私から非難されたり、
私のご機嫌を取るよう強制したりしたとしても。
誇り高い私には文句も言えまいが。

ザイーラ

（おお、新たなお言葉！
心が砕けそうだわ！）

オロズマネ

だが、私は高慢そうに見えても実は寛大なのだ。
だからお前にだけは偽りたくないのだ。
どれほどお前を愛していたか、
お前を愛したために失った日々が私は憎い。

ザイーラ

（彼に軽蔑された！
ああ！これですべての殉教者が進撃できる！）

オロズマネ

お前は私が決めた低い地位に戻り、
後宮の奥で卑しい奴隷として
放置され、衰えていくのだ。
3 私は王位を与える女性を
アジアで見つけるのだ。
お前よりも王位にふさわしく、
その贈り物をもっとありがたく思い、
その愛情をお前のように
変えたりしない者を…

ザイーラ

（惨めだわ！）

オロズマネ

泣くがいい！泣くのだ、ザイーラ！…

ザイーラ

ああ！そうです。
私は泣きます。でも、信じないでください。
放っておいてください！王位のために泣かせてください。　私に贈り物をくださった
寛大な心のために泣かせてください。
泣いて、不幸になって、
初恋の日々を懐かしむのです…

オロズマネ

私を愛しているのか？

ザイーラ

もし彼を愛していたら！
もし彼を愛していたら、天よ！

オロズマネ

そうだとも！
もしお前が私を愛しているなら、蛮人よ、
誰がお前を私のところに送り込んだのか言いなさい。
この心を鎮めるには
ひと言だけで十分だ。

Spargi il furor d'oblio...
era delirio il mio...
Sola di me sei l'arbitra,
Sola ti adoro ancor.

ZAIRA

Ah! per pietà non chiedere
Quale tumulto ho in seno;
Io non lo posso esprimere
Se non col mio dolor.
Cessa e i trasporti affrena,
Pena mi accresci a pena...
Moro se m'odii, ahi misera!
Moro se nutri amor.

OROSMANE

E al mio pregar resistere
Ancor tu puoi, Zaira?
Forse un amico, un perfido
Contro di me cospira?

ZAIRA

Ah! tu temer non dei...
Per salvar te morrei.
Ogni sventura è mia...
Non domandar di più.

OROSMANE

Sventura! O ciel! qual fia?
Omai parlar dei tu.

ZAIRA

Deh! questo dì concedimi,
Sol questo breve giorno,
Accorda alle mie lagrime
Quest'ultimo favor.
Tutti del cor gli arcani
Chiari ti fian domani...
Vedrai, vedrai s'io merito
Da te disprezzo o amor.

OROSMANE

Ah! per un cor che palpita
È lungo spazio un giorno.
Non sai che triste imagini
Figura il mio timor!
Pensa che, s'io m'arrendo,
Fede da te pretendo;
Pensa che in odio orribile
Si cambia offeso amor.

(Partono)

SCENA TERZA

Luogo remoto presso il Quartiere assegnato ai Cavalieri francesi. Escono afflittissimi i Cavalieri liberati: piangono essi la morte di Lusignano.

CORO

1 Più non è...
2 Per sempre ei giace...
3 Fredda spoglia
4 Ignuda salma.

忘却の怒りを拡散させたことは…
私の錯乱だった…
お前だけが私の主人で、
お前だけを私は慕っているのだ。

ザイーラ

ああ！お願いですから、私の胸に
どんな動揺があるのかは訊かないでください。
痛みとしか
表現することはできません。
止めてください、
私の痛みは増すばかりです…
陛下が私を憎むなら、私は死にます、惨めな！
陛下が愛を育むなら、私は死にます。

オロズマネ

それでもお前は
私の願いに逆らうつもりか、ザイーラ？
もしかして友人や悪党が
私への陰謀を企てているのか？

ザイーラ

ああ！神をも恐れない陛下を救うためなら
私は死んでも構わない。
すべての不幸は私のものです…
これ以上は望まないでください。

オロズマネ

不幸な！天よ！何だ？
さあ、お前のことを話しなさい。

ザイーラ

ああ！今日という日を私にお与えください、
この短い一日を、
私の涙に最後の恩恵を
お与えください。
私の心の謎のすべては
明日になったら陛下に打ち明けます…
私が軽蔑に値するのか、陛下からの愛に値するのか、
お分かりになるでしょう。

オロズマネ

ああ！この鼓動する心臓にとって
一日は長い時間だ。
私の恐れがどのような光景を示しているのか
お前は知らないのだ。
私がもし諦めた際には
お前に忠誠を求めると思いなさい。
傷ついた愛が
恐ろしい憎しみに変わると思いなさい。

(退場)

第３場

フランス騎士団があてがわれた離れた土地。解放された騎士たちは悲しみながら出て来る。ルジニャーノの死を悼んでいる。

4 **合唱**

1　もはやあり得ない…
2　永遠に横たわるなど…
3　裸で冷たく…
4　裸の身体で。

TUTTI
Ei mancò sembiante a face
Che sé stessa consumò.
Pace alfine, eterna pace
Abbia in Ciel la sua bell'alma,
Coronata della palma Che col sangue meritò!

SCENA QUARTA
Castiglione, Nerestano e detti.

CASTIGLIONE
Giusto è il tuo pianto, amico;
Nol raffrenar. Tutti piangiam... perdemmo
Un padre tutti: ei tal per noi fu sempre
Agli avversi nel par che ai di felici.

NERESTANO
O Cavalieri! o amici!
Io lo conobbi appena... appena accolto
Nelle sue braccia ei m'ebbe... e a me fu tolto.
Oh qual mortal fu mai con tanti affanni
Provato in terra!... In morte ancora, in morte
Era il suo cor trafitto, e gli occhi erranti,
Pria di serrarsi al giorno,
Invan la figlia ricercar d'intorno.
O Zaira! In quel momento
Chi da lui ti allontanò?
Fu per te l'estremo accento
Che morendo ei pronunziò.
Per te l'alma sbigottita
Non Sapea lasciar la vita,
E sull'ali di un lamento
Per te mesta al Ciel volò...
O Zaira, in quel momento
Chi da lui ti allontanò?

SCENA QUINTA
Meledor con Guardie, e detti.

MELEDOR
Franchi, il drappel, che scorta
Oltre il Giordan vi fia, pronto vi attende
Di Solima alle porte: anzi che volga
All'occidente il sole
Il possente Sultan lunge vi vuole.

NERESTANO
(Cielo! e Zaira?...).

CASTIGLIONE
Ah! pria Ne conceda Orosmane in sacra terra
Dar tomba a Lusignan:.. L'ultimo voto
Era del veglio...

MELEDOR
Ed al Sultan fia noto...
(Per uscire)

NERESTANO
Dimmi, o Guerrier....non puote
Più lungo spazio al lagrimevol rito
Ottenerci Zaira?... Un di sua gente
Era l'estinto, ed a lei caro, il sai.

全員
彼には表情がなかった
ひどく消耗していた。
最後には平和を、永遠の平和を、
彼の美しい魂が天国で得られますことを。
彼の血に相応しい掌で戴冠されますよう！

第４場
カスティリオーネ、ネレスターノほか。

カスティリオーネ
あなたの悲嘆はその通りだ、友よ。
遠慮しないで。我々もみな悲しんでいる…
我々全員の父親を失ったのだ。そして我々が
不幸でも幸福でも常に味方してくれた。

ネレスターノ
おお、皆さん！おお、友よ！
私は彼のことをほとんど知らなかったが、彼の腕の中
に迎えられるやいなや…そして彼を奪われた。
これほどの苦しみが、この世にあっただろうか？…
死の間際も、死の中でも彼の心は刺し抜かれ、
その目は彷徨い、その日が暮れるまで、
彼の娘を捜し回ったが
無駄に終わったのだ。
5 ザイーラよ！その時お前を
彼から奪ったのは一体誰なのか？
彼が最後に発した言葉は
お前のことだった。
お前のために狼狽した魂は
人生を閉じるすべを知らなかったのだ。
そしてお前への嘆きの翼に乗り、
天国へと悲しく飛んでいった…
おお、ザイーラ、その時お前を
彼から遠ざけたのは一体誰なのか？

第５場
メレドールと衛兵たち、ほか。

メレドール
フランス人の皆さん、ヨルダン川を越えて
皆さんを護衛する軍隊が、
エルサレムの城門で待っています。
太陽が西に傾く前に
スルタンが皆さんを遠くへお連れします。

ネレスターノ
（神よ！ザイーラは？…）

カスティリオーネ
ああ！まずはオロズマネが神聖な地で
ルジニャーノに墓を与えてくれますようにと…
最後の誓いの時には意識はありました。…

メレドール
スルタンの耳にも入るでしょう…
（出て行く）

ネレスターノ
教えてくれ、兵士たち、ザイーラを得るための
涙の儀式を行う余地はあるのかどうか？…
彼女の仲間の一人が
亡くなったのはご存じかと。

MELEDOR
Da voi turbato assai
Fu di Zaira il cor. A lei l'accesso
Or chiedereste invano.
Sposa al novello dì fia del Sultano.
(Parte)

SCENA SESTA
Nerestano, Castiglione e Cavalieri.

NERESTANO
Odi? - Ei s'involа. - Oh perfida!
Sposa al Sultan! - spergiura!

CASTIGLIONE e CORO
No, nol sarà... nol credere.

NERESTANO
Certa è la mia sciagura.
Ed io dovrei partire?
Lasciarla, oh Dio, perire!
Soffrir tal macchia, e vivere
Per sempre infame! - Ah no!

CASTIGLIONE e CORO
Ciel! che mai dici....

NERESTANO
In Solima, Innanzi a lei, morrò.
Sì, mi vedrà la barbara
Giacer del padre accanto;
Dell'ombre nostre i gemiti
Uscir da un marmo udrà.
Perdóno alle sue vittime
Domanderà col pianto:
Ed un amor colpevole
Quel pianto estinguerà.

CASTIGLIONE e CORO
No, non sarai sì misero,
Non soffrirai cotanto;
O teco estinto in Solima
Ciascun di noi cadrà.
(Partono)

SCENA SETTIMA
Sala terrena nell'Harem: di fronte grandi archi con invetriate da cui si scorgono le falde del monte.
Orosmane, Meledor e Guardie.

OROSMANE
Altro ei non chiede?

MELEDOR
È questo L'unico prego che il guerrier ti porge
Del morto veglio a nome.

OROSMANE
Ebben: sia pago:
Obblio d'ogn'ira è morte. Abbia l'estinto
Sul sacro monte la bramata tomba
Per man de' suoi; né alcun sia tanto ardito
Fra i Musulmani di turbarne il rito.
(Meledor parte)

メレドール
ザイーラ様はあなたのことで
大変心を痛めておられました。
今、彼女に会うことはできません。
彼女は明日、スルタンの花嫁になるのです。
（退場）

第６場
ネレスターノ、カスティリオーネと男たち。

ネレスターノ
嫌なのか？彼女は飛び去ってしまう。おお、不実な！
スルタンの嫁だと！嘘だ！

カスティリオーネと合唱
いや、そんなことは…信じないでください。

ネレスターノ
私の不幸は確かなものだ。
私は去るべきだろうか？
おお、神よ、彼女は滅びるがいい！
こうした恥辱に苦しみ
悪名の中で永遠に生きるのだ！嫌なことだ！

カスティリオーネと合唱
何と！何を言っているのですか…

ネレスターノ
エルサレムで、彼女の前で私は死ぬのだ。
蛮人どもは私が彼女の父親の傍に
横たわっているのを見るだろう。
彼女は大理石から漏れる
我々のうめき声を聞くだろう。
彼女は涙ながらに
犠牲者に許しを請うだろう。
そして罪深い愛が
その涙を消し去るだろう。

カスティリオーネと合唱
いや、そんな惨めなことにはならないでしょう。
そんなに苦しむことはないでしょう。
あなたがエルサレムで亡くなったら
我々一人一人も死んでしまいます。
（退場）

第７場
後宮の１階の部屋。正面の大きなガラス張りのアーチからは山の斜面が見える。
オロズマネ、メレドールと衛兵たち。

オロズマネ
要求はそれだけか？

メレドール
これが死者に代わって戦士が捧げる
唯一の祈りです。

オロズマネ
よし、彼に償わせよう。
全ての怒りを忘れるのは死ぬ時だ。
聖なる山上の死者には、望んだ墓を
自らの手で持たせよう。その儀式を邪魔する者は
イスラム教徒の中にはおるまい。
（メレドール退場）

SCENA OTTAVA

Orosmane, indi Corasmino.

OROSMANE

E tu saprai, Zaira,
Ch'io prevenni i tuoi voti, e a mia pietade
Grata sarai. Tu nuovi affetti insegni,
Nuovi costumi a questo cor superbo.
Vinto quell'odio acerbo,
Che pei franchi io nutria, quasi fratelli
Mi fiano un giorno, poiché a te son tali.

(Corasmino si avanza)

CORASMINO

Fratelli i franchi! Essi ti son fatali.

OROSMANE

Che dici tu? qual deggio
Temer periglio?

CORASMINO

Il tradimento.

OROSMANE

Ed osi
De' tuoi vani timori ancor turbarmi?
Chi tradirmi potria?

CORASMINO

Chi più colmasti
De' benefici tuoi, quei ti tradisce;
Chi più credi fedel inganni ordisce.

OROSMANE

Oh! qual mi desti in seno,
Qual sospetto crudel!

CORASMINO

Cà lmati, e m'odi.
Da' veglianti custodi
Presso l'Harèm sorpreso, un vile schiavo,
All'infedel Zaira era di un foglio
Furtivo apportator.

OROSMANE

Un foglio! A lei!
Ov'è? - Chi lo vergò? - Cadde in tua mano?

CORASMINO

Eccolo.

OROSMANE

Nerestan!...

CORASMINO

Sì, Nerestano.

OROSMANE

«Cara Zaira. - Avvi segreta uscita
Vicino alla Moschea, per cui non vista
Puoi tu recarti nel giardin deserto.
Dalla notte coperto
Quivi io t'aspetto: se venir ricusi,
Al nuovo raggio mi vedrai tu spento».
Oh perfidia!

CORASMINO

（Io trionfo.）

第８場

オロズマネ、そしてコラズミーノ。

オロズマネ

ザイーラ、お前の誓いを私が予見していたことは
知っているだろう。そしてお前は私の慈悲に
感謝することになるのだ。 お前の高慢な心は
新たな愛情と新たな習慣を学ぶのだ。
私がフランス人に対して抱いていた憎しみを
克服することができたので、いつの日か彼らは
私にとって、お前と同じく兄弟同様となるだろう。

（コラズミーノが前に進む）

コラズミーノ

フランス人と兄弟ですと！それは致命傷になります。

オロズマネ

何を言っておる？
何を恐れねばならぬと？

コラズミーノ

裏切りをです。

オロズマネ

不安を煽って
私の邪魔をするつもりか？
誰が私を裏切るというのだ？

コラズミーノ

陛下の恩恵を受けた者は
誰でも陛下を裏切ります。
陛下が最も忠実だと信じていた者が欺きます。

オロズマネ

おお！何という言い草だ。
何と残酷な疑いだ！

コラズミーノ

どうぞ私をお憎みください。
後宮の衛兵たちは、
卑劣な奴隷で異教徒のザイーラが
こっそりと紙片を持ち込んだのを見て
驚いています。

オロズマネ

紙片だと？彼女が！どこにある？
誰が書いたのだ？お前が持っているのか？

コラズミーノ

こちらに。

オロズマネ

ネレスターノか！…

コラズミーノ

ええ、ネレスターノです。

オロズマネ

『親愛なるザイーラ。モスクの近くに
秘密の出口がある。誰にも見られずに
砂漠の庭園まで行くことができる。
夜の闇に紛れて、私はお前を待っている。
もしお前が来なければ、新たな日の光の下で、
私が消え去っているのを見るだろう。』
おお、不実な！

コラズミーノ

（私の勝ちだ。）

OROSMANE
O tradimento!
E pur ora, al mio cospetto...
(a se stesso)
Sospirava... amar parea!
CORASMINO
A sgombrar il tuo sospetto
L'infedel così fingea.
OROSMANE
Io deluso... io rispettava
Il segreto del suo cor!
CORASMINO
Nascondea l'audace schiava
Il suo vile, abbietto amor.
OROSMANE
Corri, vola; e in questo scritto
(con tutto lo sdegno)
Vegga l'empia il suo delitto...
La ricolmi di spavento
Il saper che è noto a me.
Poi con cento colpi e cento
Sia trafitta innanzi a te.
CORASMINO
Sì, lo devi, sì, lo chiede
L'onor tuo, la nostra Fede,
Del suo nero tradimento
Pronta morte sia mercé.
Sommo, estremo è il mio contento,
Ché l'eroe ritrovo in te.
(Corasmino si affretta per uscire: Orosmane lo trattiene fremendo)
OROSMANE
Odi... arresta... È se innocente Poi foss'ella!...
CORASMINO
Ahi debol core!
OROSMANE
Corasmin! non ho più mente... Vo' vederla.
CORASMINO
Tu, Signore!
OROSMANE
Vo' vederla. - Olà! Zaira
A me scenda.
(Le Guardie partono)
CORASMINO
Ah! che fai tu?
OROSMANE
Sorge amore in mezzo all'ira,
Manca, oimè! la mia virtù.
CORASMINO
Sconsigliato! ebben l'ascolta:
Cadi al laccio un'altra volta!
Di quel labbro menzognero,
Ai sospir dà fede ancor...

オロズマネ
おお、裏切りだ！
6 そして今でも私の目の前で…
（自分自身に）
愛のため息をついているようだ！
コラズミーノ
陛下の疑いを晴らすために
異教徒はこのように装ったのです。
オロズマネ
残念だ…私は彼の
心の秘密を尊重したのに！
コラズミーノ
大胆な奴隷は、
下劣で卑しい愛を隠したのです。
オロズマネ
走れ、行くのだ。この手紙をもって
（ありったけの軽蔑をこめて）
不信心者にその罪を悟らせるのだ。
私に知らたことを知れば
彼女は恐怖でいっぱいになるだろう。
そしてお前の目の前で
百回打たれ、百回突き刺されるのだ。
コラズミーノ
そう、そうしなければなりません。
陛下の名誉と我々の信仰がそれを求めています。
彼の腹黒い裏切りには、
速やかな死を。
私はこの上なく満足です、
陛下の中に英雄を見出したのですから。
（コラズミーノは急いで外に出る。オロズマネは震える彼を抱きしめる）
オロズマネ
聞け…逮捕するのだ…もし彼女が無実だったら…
コラズミーノ
ああ、何と弱気な！
オロズマネ
コラズミーノ！もう訳が分からん…彼女に会いたい。
コラズミーノ
陛下！
オロズマネ
彼女に会いたい。さあ！ザイーラ、
私のもとへ来てくれ。
（衛兵退場）
コラズミーノ
ああ！何をされるのですか？
オロズマネ
怒りの中に愛が生まれるが、
ああ、私の美徳は失われてしまった。
コラズミーノ
諦めるのです！お聞きください。
また罠に落ちてしまいますよ！
嘘つきの唇とそのため息を
まだ信じられるのですか…

OROSMANE
Vile io sono... è vero, è vero.
Mi consiglia... oppresso ho il cor.
CORASMINO
A lei rechi un tuo devoto
Questo foglio sciagurato.
OROSMANE
A qual fine?
CORASMINO
Il ver fia noto
Ch'or sarebbe a te celato...
OROSMANE
Sì, ben parli....
CORASMINO
A lei per poco
Fingi calma...
OROSMANE
Fingerò.
CORASMINO
Ella viene.
OROSMANE
Un gelo, un foco.
Scorre in me... Paventi...
CORASMINO *(arrestandolo)*
Ah! no.
Vieni meco; a me ti affida:
Tempo attendi a vendicarti...
Sei deluso, se all'infida
Campo dà i di lusingarti:
Di avverar il tuo sospetto
Certo mezzo è il simular...
Sempre cieco in ogni affetto
Il furor non puoi frenar!
OROSMANE
No, mi lascia... no, si uccida...
Ardo, anelo a vendicarmi.
Non temer: non ha l'infida
Più poter di lusingarmi:
È certezza il mio sospetto,
Più non giova il simular...
Ah! le furie del mio petto
Solo il sangue or può sedar.
(Partono)

SCENA NONA

Al partire di Orosmane, esce Zaira che s'innoltra verso lui. Esso le accenna fremente di rimanere. Corasmino lo trae seco. Rimane Zaira immobile e sorpresa.

ZAIRA
Che fia? mi lascia!... Minacciosi sguardi
Ei mi rivolse. Dissipati ancora
Non sono i suoi timori! E a' piedi suoi,
Non mi vide il crudel pianger d'amore?
Oh! se arrestar dell'ore

オロズマネ
私は下劣だ…本当に、本当に。
お前は助言する…私の心は抑圧されていると。
コラズミーノ
陛下の忠実な部下に、この邪悪な手紙を
彼女のところに持って行かせましょう。
オロズマネ
何のために？
コラズミーノ
今は隠れている真実が
明らかになるでしょう…
オロズマネ
よく言ってくれた…
コラズミーノ
少しの間、彼女に対して
平静を装ってください…
オロズマネ
そうしよう。
コラズミーノ
彼女が来ます。
オロズマネ
寒気、熱気。
恐怖が…私の中を駆け巡る…
コラズミーノ *（遮って）*
ああ、いけません！
私と一緒に来てください。私を信頼してください。
復讐の時を待つのです。
裏切者にご機嫌取りをさせても、
陛下は失望されるだけでしょう。
現実となった陛下の疑いについては、
ほぼシミュレーションしていました…
愛情にはつねに盲目な陛下は、
怒りを抑えることができないのでしょう！
オロズマネ
いや、放っておいてくれ…あの男を自害させよう…
私は復讐を切望している。
恐れることはない。もはや裏切者には
ご機嫌取りをする気力もあるまい。
私の疑念は確信に変わった。
もはやシミュレーションは不要だ…
ああ！私の胸の怒りを
鎮めることができるのは血だけだ。
（退場する）

第９場

オロズマネがその場を離れると、ザイーラが出てきてコラズミーノに近づく。コラズミーノは震えながら彼女に留まるよう合図し、彼女を引き寄せる。ザイーラは驚いて動かない。

ザイーラ
どうしたのです？放っておいてください！
威嚇するような眼差しを私に向けて。
彼の恐怖はまだ払拭されていない！そして彼の足元で
私が残酷な愛に涙を流すのを見なかったの？
おお！もし時の流れを止められるなら！

Potessi il corso! Oh! se il fratello avesse
Già varcato il Giordan!... Senza periglio
Svelar potrei questo fatal mistero
Che come grave, insopportabil pondo
Il cor mi opprime, e a lui gemendo ascondo.

SCENA DECIMA

Fatima, Zaira.

ZAIRA

Vieni, Fatima, vieni.
Tu non lasciarmi almen.

FATIMA *(Con mistero)*

Sole siam noi?

ZAIRA

Sole. - Che dir mi vuoi? Che rechi tu?

FATIMA

Da sconosciuto schiavo Questo foglio a te viene.
(Zaira legge. Fatima prosegue)
Egli in remota
Segreta parte tua risposta attende...
Tu tremi!
(Zaira porge il foglio a Fatima)

ZAIRA

Leggi... Un gelo al cor mi scende.

FATIMA

Oh gioia! alfin sei salva.

ZAIRA

Salva!... Da chi?

FATIMA

Mel chiedi? A Nerestano
La via di liberarti ha forse il Cielo
Aperta in sua pietà.

ZAIRA

Di liberarmi?
Crudel! che dici mai?... Fuggir! tradire
Un cor che in me si fida!
Ah! più tosto morir.

FATIMA

Spergiura! infida!
Al moriente padre,
Al fratel, che giurasti?

ZAIRA

I riti e fare l'are? Degli avi miei seguir.

FATIMA

E d'Orosmane
Fuggir l'impero, detestar l'amore,
Come i suoi Dei mendaci...

ZAIRA

L'amore!... Ah! nol giurai...

FATIMA

Che ascolto?

ZAIRA

Ah! taci.
Che non tentai per vincere
Questo fatale amore!

おお！もし兄がすでにヨルダン川を渡っていたら！…
重く耐えがたい重荷のように私の心を圧迫し、
彼に対してうめき声をあげている、
この宿命的な謎を、
危険なくして解き明かすことができるのに。

第10場

ファティマ、ザイーラ。

ザイーラ

来て、ファティマ、こちらへ。
せめて私から離れないで。

ファティマ *（不思議がって）*

私たちだけなの？

ザイーラ

そうよ。何を言いたいの？何を持って来るの？

ファティマ

見知らぬ奴隷からこの手紙があなたに。
（ザイーラは読む。ファティマは続ける。）
秘密の場所で
彼はあなたの答えを待っています…
震えているのね！
（ザイーラはファティマに手紙を渡す）

ザイーラ

読んだわ…心に寒気が走る。

ファティマ

おお、嬉しい！やっとあなたは救われた。

ザイーラ

救われた！…誰から？

ファティマ

それを訊くの？
ネレスターノ様への自由の道が
天のお慈悲によって開かれたのです。

ザイーラ

私を自由に？
残酷な！何を言っているの？…逃げるですって！
私を信頼する心への裏切りだわ！
ああ！すぐにでも死にたい。

ファティマ

嘘！裏切りだわ！
死にゆくお父上に、兄上に
あなたは何を誓われましたか？

ザイーラ

儀式や行為は？私はご先祖に従います。

ファティマ

そしてオロズマネの
帝国から逃がれ、愛を憎む、
彼の偽りの神々のように。

ザイーラ

愛！…ああ！誓ってはいないわ…

ファティマ

何ですって？

ザイーラ

ああ！静かに。
7 私はこの宿命的な愛に
勝利しようとは思わなかったわ。

Piansi; ma più per lagrime
Crebbe la fiamma in core:
Al Ciel mi volsi; e il Cielo
Mi si coprì d'un velo:
Ricorsi al mio rimorso;
E anch'ei mi abbandonò...
Ah! non ho più soccorso!...
Più che a morir non ho.

私は泣いたけど、涙はいっそう
心の炎を燃え上がらせたの。
天は私を見捨て、
私をヴェールで覆ったの。
私はひどく後悔したわ。
そして彼も私を見捨て…
ああ！私を救ってくれる者は誰もいない!…
私は死ぬしかないのだわ。

FATIMA
Qual vaneggiar!... Deh! càlmati.
Ritorna in te, Zaira!

ファティマ
おかしなことを！…さあ、落ち着いて。
気は確かなの、ザイーラ！

ZAIRA
Riprendi il foglio... ascondilo.

ザイーラ
もう一度手紙を…隠してちょうだい。

FATIMA
Padre, dal Ciel l'inspira!
(Odesi un lugubre suono: Zaira vi por-ge l'orecchio colpita. Un Coro canta in lontano il seguente.)

ファティマ
神様、天から彼女を励ましてください！
（悲しげな音楽が聞こえてくる。ザイーラは耳を傾ける。遠くで合唱隊が次のように歌う。）

INNO FUNEBRE
I. CORO
Poni il fedel tuo màrtire,
Ciel, fra gli eletti tuoi.
Gloria gli sia fra gli Angioli
Il suo penar quaggiù.

葬儀の讃美歌
Ⅰ. 合唱
汝の忠実なる殉教者、
天よ、汝の選民の中に定めよ。
ここで彼の苦しみを癒す
天使たちに栄光あれ。

ZAIRA
Qual mesto suono!
Quai voci di dolor!

ザイーラ
何て悲しい響きでしょう！
何という悲しみの声でしょう！

FATIMA
Scuotiti. Un Giusto
Al Ciel s'innalza, e la salvezza implora
Di traviata figlia innanzi a Dio. Mira.
(Vedonsi dal fondo passare i Cavalieri Francesi che si recano alla tomba di Lusignano.)

ファティマ
震えるのです。
義なる者は天に昇り、神の御前で、
誤ちを犯した娘の救済を懇願します。ご覧なさい。
（後方をフランス騎士団が通り過ぎるのが見える。彼らはルジニャーノの墓に向かっている。）

ZAIRA
Oh vista!... oh dolore!... oh padre mio!

ザイーラ
おお、見える！…ああ、辛い！…お父様！

II. CORO
Vegli beato spirito, Vegli sui figli suoi,
Serbi così fra gli uomini Viva la sua virtù.

Ⅱ. 合唱
祝福された魂を見守り給え､子どもたちを見守り給え、
そして彼の美徳が人々の間で生き続きますように。

ZAIRA
Fatima... i figli...
I figli ei chiama... Un solo... ahi lassa!... un solo
Ne benedice... e me condanna e scaccia...
Dell'eterno suo sdegno io son punita. Ah!
(S'abbandona fra le braccia di Fatima)

ザイーラ
ファティマ…子どもたち…
彼が子どもたちと呼ぶのは…一人だけ…ああ！
一人だけが私を祝福し、非難し、追い払います…
彼の永遠の怒りのために私は罰せられる。ああ！
（ファティマの腕の中に身を委ねる）

FATIMA
Zaira!

ファティマ
ザイーラ！

VOCI DI DENTRO
Qual grido!

舞台裏からの声
何という叫びでしょう！

FATIMA
Aita, aita!

ファティマ
助けて！助けて！

SCENA UNDICESIMA
Accorrono da varie parti le Schiave e le Guardie.

第11場
奴隷たちと衛兵たちがあちこちから駆けつける。

CORO
Ciel! che avvenne? Svenuta Zaira!
Al Sultano, al Sultano si voli.

合唱
神様！何が起きたのですか？ザイーラ様が気を失われて！スルタン陛下のもとへすぐに。

FATIMA
Arrestate... In sé torna... respira.
Tristo oggetto al suo sguardo s'involi...
De' Francesi la pompa ferale
Il pietoso suo core colpì.
(Copronsi le finestre di fronte)
CORO
E di un Franco pur tanto le cale!
Uno schiavo l'affligge così!
ZAIRA
Ah! crudeli, chiamarmi alla vita!
(Rinvenuta, si aggira sbigottita)
È serbarmi ad orrendo martire:
De' miei padri ho la Fede tradita,
Ho turbato d'un Giusto il morire:
Come tuono d'intorno rimbomba
Il lamento che al Cielo innalzò.
Ah! pietosa mi copra la tomba.
Ah! d'affanno, d'angoscia morrò.
CORO
Qual favella! vaneggia, delira.
FATIMA
(Deh mi segui...
ti perdi, o Zaira.)
CORO
De' Francesi la pompa ferale
Il pietoso suo core turbò.
Troppo, ahi! troppo è il terror che l'assale...
Al Sultano celarsi non può.
(Fatima e le Schiave traggono seco Zaira.
Le Guardie escono da altra parte)

SCENA DODICESIMA

Parte remota nei Giardini dell'Harem. In lontano, e traverso lepiante, sorgono i Minareti di una Moschea. Orosmane, indi Corasmino.

OROSMANE
È notte alfin... più dell'usato è cupa...
Cupa come il mio cor - Oh! in qual piombai
D'orrore abisso! Oh! come mai discesi
Dalla grandezza mia! Qual malfattore
Io mi aggiro fra l'ombre, e ad ogni fronda,
Agitata dal vento,
La mia vittima aspetto, e il ferro io tento.
(Esce Corasmino)
Sei tu?
CORASMINO
Son'io. Lo schiavo Riferì la risposta.
OROSMANE
Ed è?
CORASMINO
Zaira all'invito si arrende.
OROSMANE
Oh traditrice!
Oh inaudita perfidia! E qual poss'io

ファティマ
待って…息を吹き返しました。
悲しき物体が彼女の目の前を飛び去ったのです…
フランス人の猛々しい大胆さが
彼女の慈悲深い心を打ったのです。
（正面の窓のカーテンを閉じる）
合唱
フランス人のせいでこうなった！
奴隷がこうして彼女を苦しめる！
8 **ザイーラ**
ああ！残酷な。私を生き返らせてください！
（蘇生し、取り乱して歩き回る）
私を恐ろしい殉教者として留めておくために。
私は先祖たちの信仰を裏切り、
正義の人の死を妨害してしまいました。
彼が天に向けて発した嘆きの声は、
雷鳴のように周囲に響き渡ります。
ああ、慈悲深く私の墓を覆ってください。
ああ、苦痛と苦悩の中で私は死にます。
合唱
何ということ！戯言だ、うわごとだ。
ファティマ
（ああ、私に付いてきてください…
自分を見失ったのね、ザイーラ。）
合唱
フランス人の野獣のような尊大さが
彼女の哀れな心を掻き乱したのだ。あまりにも、
ああ！彼女を襲う恐怖はあまりにも大きい…
彼女はスルタンから隠れることはできない。
（ファティマと奴隷たちはザイーラを連れていく。
衛兵たちが反対側から出て来る。）

第12場

後宮の庭の遠隔地。遠く、植物の向こうにモスクのミナレット[尖塔]が聳えている。オロズマネ、そしてコラズミーノ。

9 **オロズマネ**
ついに夜が来た…いつもより暗い…
私の心と同じくらい暗い。
おお！私は何という恐怖の深淵に陥ったのか！
おお！私はいかにして偉大な存在から堕ちたのか！
私は犯罪者のように影の中を彷徨い、
風に揺れる枝葉の一つ一つのように、
犠牲者を待ち伏せし、刃を試すのだ。
（コラズミーノ登場）
お前か？
コラズミーノ
私です。奴隷が答えを報告してきました。
オロズマネ
それで？
コラズミーノ
ザイーラは誘いに乗りました。
オロズマネ
裏切り者め！
前代未聞の背信行為だ！

Supplizio immaginar che corrisponda
Alla nequizia di quel core infido?
CORASMINO
Signor...
OROSMANE
T'acqueta... Un grido non odi tu?
CORASMINO
Tutto è silenzio; e, tranne
I celati custodi, ormai nel sonno
Tutto quanto l'Harèm giace sepolto
OROSMANE
Veglia il delitto, e il congiurar ne ascolto.
Ah! Corasmin!
CORASMINO
Tu gemi?
OROSMANE
Il primo pianto io verso,
Pianto del cor... Com'io l'amai, l'ingrata!
Di qual tenero amor! Era al mio sguardo
Quanto di più leggiadro e di più santo
Amar ponno i Celesti; e il mio pensiero
Volava a lei rapito
Come a speranza di supremo bene...
Ed ora?... Oh mio dolor!...
CORASMINO
Taci... alcun viene.
(Si ritirano, e si tengono celati)
SCENA TREDICESIMA
Zaira accompagnata da Fatima, indi Nerestano e detti.
ZAIRA
Reggi i miei passi.
OROSMANE
(È dessa.)
CORASMINO
(Non iscoprirti, e mira.)
ZAIRA
Un calpestio s'appressa...
(Comparisce Nerestano)
FATIMA
È Nerestan.
NERESTANO
Zaira!
ZAIRA
Parla sommesso... io tremo.
NERESTANO
Soli siam noi: fa cor.
OROSMANE
(Odi l'infida!... io fremo.)
CORASMINO
(Soffri per poco ancor.)
NERESTANO
Qual ti ritrovo?
ZAIRA
Degna dell'amor tuo son'io.

その裏切り者の心の邪悪さに匹敵する拷問を
私は考えつくだろうか？
コラズミーノ
陛下…
オロズマネ
黙って…叫び声が聞こえるか？
コラズミーノ
すべてが静寂に包まれています。
隠れた守護者を除いて、
後宮は眠りに埋もれています。
オロズマネ
犯罪を見守り、陰謀に耳を傾ける。
ああ！コラズミーノ！
10 **コラズミーノ**
うめき声を？
オロズマネ
初めての涙、心の叫び…
恩知らずの彼女をどれほど愛したことか！
何と優しい愛だこと！私の目には、彼女は
天上人が愛することのできる
最も優美で最も神聖な人だった。
そして私の想いは、最高善を期待して
彼女に向けて飛んでいったのだ…
だが今は？…おお、嘆かわしい！…
コラズミーノ
お静かに…誰か来ます。
（二人は下がって身を隠す）
第13場
ザイーラがファティマを伴い、後からネレスターノほか。
ザイーラ
私に付いてきて。
オロズマネ
（彼女だ。）
コラズミーノ
（身を隠したまま狙いましょう。）
ザイーラ
足音が近づいているわ。
（ネレスターノ登場）
ファティマ
ネレスターノ様です。
ネレスターノ
ザイーラ！
ザイーラ
優しく話して…私は震えています。
ネレスターノ
私は一人だ。安心して。
オロズマネ
（不貞の女め！…私は震えている。）
コラズミーノ
（苦しみはもう長くはありません。）
ネレスターノ
何を探して？
ザイーラ
私はあなたに愛されるにふさわしい人間です。

FATIMA
Ella ti è resa.
OROSMANE
(Indegna!)
NERESTANO
Udì miei voti Iddio.
ZAIRA, NERESTANO e FATIMA
Lieto ci mira adesso,
O Lusignan, dal Ciel.
OROSMANE e CORASMINO
(O notte, a quale eccesso
Hai tu prestato il vel!)
NERESTANO
O mia Zaira! or seguimi,
Fuggiam da questa parte.
ZAIRA
Ah! sì... partiam solleciti;
L'ombra ci copre...
OROSMANE *(precipitandosi sopra Zaira)*
E morte.
(La ferisce.)
ZAIRA, NERESTANO e FATIMA
Ah!
SCENA ULTIMA
Al grido di Zaira, di Nerestano e di Fatima escono da varie parti gli Schiavi e le Guardie con faci.
NERESTANO
Che mai festi, o barbaro!
OROSMANE
Punita è l'infedel.
ZAIRA
Fratello... io moro...
TUTTI
Ahi misera.
OROSMANE
Fratello a lei!
CORASMINO
Fratel!
NERESTANO
Io l'era... io l'era... uccidimi...
Offro a' tuoi colpi il petto.
OROSMANE
Zaira!
CORASMINO
Vieni: invòlati Al sanguinoso obbietto.
OROSMANE
Zaira!
CORASMINO
A lui nascondasi.
OROSMANE
Mi amava!...
e uccisa io l'ho!
(Orosmane è immobile, inorridito, e come fuori di sé: prorompe quindi in un grido, e si aggira smanioso)

ファティマ
彼女はあなたに身を委ねました。
オロズマネ
（ふさわしくない！）
ネレスターノ
神は私の願いを聞いてくださった。
ザイーラ、ネレスターノ、ファティマ
おお、ルジニャーノが
天国から私たちを見つめています。
オロズマネ、コラズミーノ
（おお夜よ、お前は
何と隠し過ぎたことか！）
11 **ネレスターノ**
おお、私のザイーラ、私に従って
この道を逃げるのだ。
ザイーラ
ああ！はい…すぐに出発しましょう。
影が私たちを覆ってくれます…
オロズマネ *（ザイーラを急襲して）*
死ね。
（彼女は傷つく）
ザイーラ、ネレスターノ、ファティマ
ああ！
第14場（最終場）
ザイーラ、ネレスターノ、ファティマの叫び声で、奴隷たちや衛兵たちがあちこちから出て来る。
ネレスターノ
何をしているのだ、野蛮人め！
オロズマネ
不実の者を罰したのだ。
ザイーラ
お兄様…私は死にます…
全員
ああ、悲惨な。
オロズマネ
彼女の兄だと！
コラズミーノ
兄！
ネレスターノ
私を…私を…殺せ…
この胸をお前の一撃に差し出す。
オロズマネ
ザイーラ！
コラズミーノ
さあ。血まみれの身体に身を委ねてください。
オロズマネ
ザイーラ！
コラズミーノ
身を隠してください。
オロズマネ
私は彼女を愛していた！…
そして彼女を殺してしまった！
（オロズマネは恐怖で動けず、我を忘れたかのよう。そして泣き叫びながら歩き回る）

Un grido d'orrore D'intorno rimbomba:
Tremendo sul core Un peso mi piomba;
Quel sangue innocente S'innalza fremente,
M'incalza com'onda, Fuggirlo non so...
O Cielo, fa scempio D'un mostro, d'un empio!
Il sangue che gronda Vendetta gridò.

恐怖の叫び声が周囲に響き渡る。
とてつもない重荷が私の心にのしかかる。
無実の血が震えながら立ち上がり、
波のように押し寄せてくるが、私は逃げ方を知らない
… おお天よ、怪物を、邪悪な男を滅ぼしたまえ！
血の滴る復讐が叫ぶのだ。

CORASMINO e CORO
Deh! soffri...

コラズミーノと合唱
ああ！苦しみ…

OROSMANE
Partite.

オロズマネ
行くのだ。

CORASMINO e CORO
Deh! senti...

コラズミーノと合唱
ああ！聞け…

OROSMANE
Fuggite.

オロズマネ
逃げるのだ。

TUTTI
O notte funesta, Qual Dio ti guidò!...

全員
おお不幸な夜よ、お前が導いたのはどんな神だ！…

OROSMANE
Zaira!

オロズマネ
ザイーラ！

CORO
Ti arresta.

合唱
彼を捕まえろ。

OROSMANE
Ti seguo.
(Si uccide)

オロズマネ
お前に付いて行くよ。
（自害する）

TUTTI
Spirò.

全員
死んだ。

F I N E

―幕―

クラリネットの奏法指導・練習法

Practice and Teaching Methods for the Clarinet

佐　藤　友　香

１．はじめに

吹奏楽では一番人数の多いクラリネットだが、初心者が音を出す事が難しい楽器と言われている。

クラリネットの教則本は色々出ているが、それをそのままただやれば上手くなるわけではなく“何のためにその練習をしているのか”（目的）をしっかりと理解した上で練習していく必要がある。

実際に指導の中で、生徒たちに普段行っている基礎練習は何のためにやっているのか、何に気を付けてやっているかと質問すると、ほとんどの生徒が答える事ができない。答えは一つではなくその人それぞれの考えで良いと思うが、何も考えずにただ言われた事、本に書いてある事を行っている人が多いという事だ。

たくさん練習しているのに上達しない・逆に練習時間が限られていて決まったものしかできない・そもそも何をやったらいいのか分からない、というような人や、指導の参考になるよう私自身が中・高生に指導する際実際に実践している指導法、また普段の練習に取り入れている効率的な練習法をまとめようと思う。

２．クラリネットの種類

まずはクラリネットの種類を簡単に紹介する。クラリネットは実は種類が多く、その中でも使用される事の多いものに【Ｅ♭クラリネット】【Ｂ♭クラリネット】【Ａクラリネット】【アルトクラリネット（inＥ♭）】【バスクラリネット（inＢ♭）】がある。

一番主流のＢ♭クラリネット（Ｂ管）、オーケストラでよく使用されるＡクラリネット（Ａ管）は同じ運指で半音違いの音が出る楽器演奏だが、演奏する曲の調性によって吹きやすくするために持ち替えたり、音色の違いから（Ａ管の方が太く柔らかい音色）曲の雰囲気に合う管を指定されることがある。吹奏楽曲やポップス曲ではほとんどがＢ♭管で演奏される。

Ａ管といえばクラリネット曲の中でも有名なモーツァルト作曲【クラリネット協奏曲】を是非聞いていただきたい。



E♭クラリネット



B♭クラリネット



Aクラリネット



アルトクラリネット



バスクラリネット

３．ロングトーン

～何のために（目的）～

・息のコントロール
・呼吸法の練習
・いい音色
・正しい音程
・長く伸ばす（音の長さ）
・音の大小

など

～注意すること～

・アンブシュア（口の形）はできているか
・肩が上がらずしっかりと腹式呼吸で息が吸えているか
・自分がイメージするいい音色が出ているか
・正しい音程でしっかりと音が伸ばせているか
・音量が変わっても音色、音程が変わっていないか

など

上記はあくまでも例なので、これにプラスして少しずつ自分なりの練習目的、注意点を増やしていってほしい。

自分が出したいと思っている音＝いい音が分からずにロングトーンをしてもいい音にはならない。

当たり前の事だが、意外といい音というものが分からないで吹いている人が多い気がする。

分かりやすく例えると、美味しい料理を作りたい！となった時に美味しい物をたべた事のない人に作れるだろうか。この間食べたあの料理のような味はどうやったら作れるか？と求める味がある方が美味しい物を早く作れると思う。目的なしに何となく美味しい物を…という人も時間をかければその味にたどり着けるかもしれないが、美味しくできても美味しいと感じるかは分からない。音楽も同じで、いい音をまず知ること、そしてそのような音を出すためにはどうしたらいいかと考えながら練習する事がとても大切といえる。

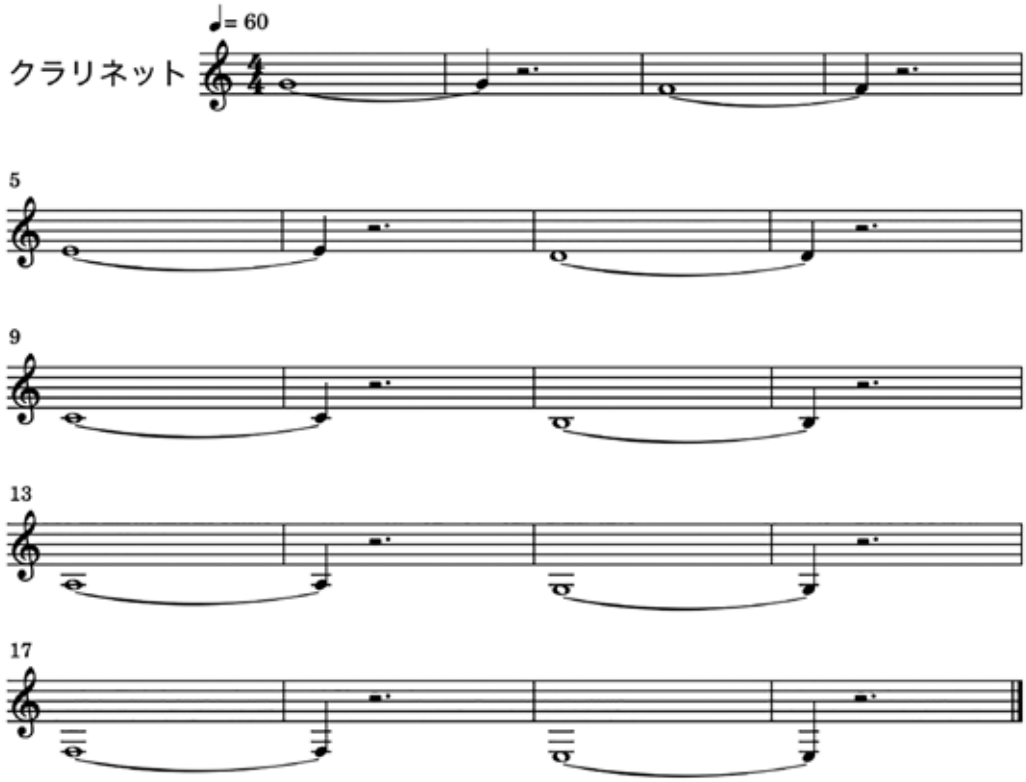
音を出す上で【腹式呼吸】も忘れてはいけない。私自身最初の頃は耳にたこができるくらい腹式呼吸という言葉を言われ続けた記憶がある。

腹式といってもお腹に息が入るわけではないので（もちろん肺）、吸う前にしっかりと肺にある息を吐ききってから肺の下の方から肺全体に息を入れるイメージで吸う。この時うまく吸えると横隔膜が肺によって上から押されお腹が膨らむ。うまく吸えても吐き方も大切で、ため息のようなゆっくりとした息ではなく、ろうそくを吹き消すような速い息をイメージする事。ｐなどの小さな音で吹く時にも息のスピードが落ちないように、そしてアンブシュアや身体に無駄な力を入れない事にも気を付けてほしい。

ロングトーンも色々なやり方があるが、初心者からでも行いやすい方法を２つ、そして１つはある程度音が安定して出るようになってからの時短バージョンを紹介するので自分に合った形で行ってほしい。ロングトーンは指が速く動くことはないので指に意識をしなくていい分、出ている音をよく聞きながら自分が出したいと思っている音が出ているか確認しながら練習しよう。

・開放の“G”から下がる練習法　　図（１）
・レジスターキーを押した上の音までのロングトーンをする方法　図（２）
・時間がない日などの時短バージョン　図（３）

（図１）



（図２）



（図３）



（図３）の形はレジスターキーを使うロングトーンだがこの時気を付けてほしい事はアンブシュアを変えない事。特に上の音に上がるときには口に力が入って噛みすぎてしまうことがよくあるので、チューナーを使い音程を確認しながら練習する事。

また、下の音から上の音に上がる際クレッシェンドをし、上の音でディミヌエンドして音程、音色を保つ。この練習をすると、低音から高音までの音色が揃うようになる。

どの形のロングトーンでも正しい音程で音が出ているかもとても重要で、息をたくさん入れることだけに集中すると音程は低くなり、広がった音色になってしまう。逆に力が入りすぎていると音程は高くなりつまった音色になりやすい。

これらの事を自分の耳で分かるようになるまではチューナーを正しく使い、しっかりとした響きを確認しながら練習を行う事もとても大切な事である。

クラリネットは発音しなくても音が出るためロングトーンの際に意識していない人も多いが、

１．舌をつかずにそのまま息を入れる柔らかい発音
２．リードの先端を舌で触れておき、アンブシュアをしっかり作った状態で息を入れ、最後に舌を離す発音

の２パターンがある。

基本的に曲を吹く時や他の楽器と合わせる時に１の発音の仕方だとぼやけた音になり合いにくいので、普段の練習でも基本的には２の発音で出られるようロングトーンの時から意識してほしい。

４．タンギング

～何のために（目的）～

・音を短く切る
・舌を速く動かせるようにする
・舌と指のタイミングを合わせる

など

～注意する事～

・アンブシュアが動いていないか
・音色、音程が変わっていないか
・音の出だしの息が弱くなってしまっていないか（強すぎも×）
・音が出る前にもしっかりと口の中に息の圧力がかかっているか

など

タンギングと聞くと音を切らないといけないと思い、息をぶつぶつと切ってしまう人がいるが、ロングトーンでのばした音をリードに舌を触れることで短くしているだけなので【アンブシュア・音色・音程】がロングトーン時と変わらない事が大切である。

（図１）



まずは舌のつく位置やついた時の音をよく聞きながらゆっくりと練習すること。

“トゥートゥートゥー”と発音するとタンギングしやすいと言われているが、ウという時に舌の位置が喉の方にいってしまうため、“ティーティーティー”と発音する事をおすすめする。実際に楽器を吹かずにトゥーとティーの発音時の舌の位置を確認すると理解できると思う。

（図２）



（図３）



タンギング練習の図１、図２は舌をつくことによって音が切れる事を感じ、舌の力を抜いて音が切れるように練習してほしい。強い音、弱い音がないよう、常に息はロングトーンのまっすぐな息で。図３はタンギング練習だけではなく音階要素が入っているためより実践的な練習ができる。舌と指のタイミングがずれないようメトロノームをつけて練習しよう。

慣れてきたら少しずつテンポを上げていってほしい。

最後に右手と左手の練習曲を紹介する。

Ａ、Ｂは右手、Ｃ、Ｄは左手の練習になっているが、BとDは２本の指を同時に動かすのでずれて音の間に違う音が入らないようよく聞きながら練習してほしい。



クラリネットを演奏するための練習として今回少しでも意味を分かりやすく、効率的な練習法でまとめた。基本的なアンブシュアや音階練習は載せなかったが、情報は色々な手段で手に入れることができるため同じ練習法ばかりやるのではなく、日々目的をもって様々な練習をしていれば楽しい楽器生活が送れる人が増えるのではないかと考える。指導者として今後も一人一人異なる生徒たちに対応できるよう練習方法の研究を続けていきたいと思う。

時短時代の基礎合奏 基本編

Basic Ensemble of shorter period

田　村　和　久

近年の傾向と対策

吹奏楽界でも部活動の地域移行や２校以上の合同バンド化が進んでいる。今後は社会人を中心としたいわゆる一般バンドとの差別化が曖昧になってくるであろうことが予想される。

一方の従来型の部活動においても練習時間の短縮により、さらなる運営の工夫が必要である。何を優先させ、どの手順で練習メニューを組み上げていけるかが技術維持、向上のポイントとなることであろう。

吹奏楽は主に管楽器と打楽器の編成で構成されている。そこには大きさはもちろん発音形態の違う、そして調性の異なる楽器が合奏をすることになる。

練習効率は上げたいが、集まってすぐに楽曲練習を開始するよりもその異なる楽器や様々な奏者のニュアンスを合わせるための基礎合奏を取り入れることで圧倒的に楽曲練習の効率が上がるのである。

また、一般バンドにおいては様々な職種、生活環境の奏者たちが時間に追われ練習にやってくる。楽器をケースから取り出し、すぐに合奏練習に参加する奏者も少なくない。そうなると基礎合奏がウォーミングアップとなる「音出し」となってしまう。

学校も一般バンドも一回の練習は通常２～３時間。季節や条件によってはこれ以下となってしまう事も多々ある。基礎合奏においてもその内容や、順番がその後の楽曲練習に大きく影響を与えることになるであろう。

既存、市販の基礎合奏メニューをきちんと実行しようとなると約 30 分～１時間が必要になる。もちろん指導者の采配により内容を選別し組み替えることで短縮は可能だが、ここではさらに効率を考えた内容を提案する。

基礎合奏メニューの演奏ポイント

今回のメニューでは様々な理由で編成に欠けがあっても成立するよう構成した。また、その日の状態や技術レベルに合わせてオクターブ違いでの演奏も可としたい。

先ず最初はユニゾン練習だが、ここでは吹奏楽団において構成される主な調性である B ♭音、E ♭音、F 音、C 音を４度、２度、５度、と跳躍に変化を付けた。テンポは通常 ♩ = 60 が多いが、♩ = 63 とやや早めに設定。2 分音符はパーカッションで演奏される 8 分音符を念頭に置きながら演奏して欲しい。これ以後の練習にも言えることだが、基本の音量は mf 以上としたいが、音出し序盤で音量が上がらないなどの場合は後押し音形にならないなど音量よりも音形に留意することが大切である。

リハーサルマークＡからは低音に中音、高音を重ねていくいわゆるバランス練習。パーカッションがいない、低音がいないなど参加者が不足している場合はトレーニング用キーボードなどでの代用も可能である。専用のトレーニングキーボードではない場合はピッチ調整が出来るものを使用するよう注意して欲しい。

リハーサルマークＢからはタンギングおよび発音練習、リズム練習となる。ここまででまだ発音がしにくい状態であっても、休まず演奏することで、息をリードに伝える、唇の振動を促す、または身体を楽器演奏モードに近づけるきっかけになることを期待して２番目に組み込んだ。

吹奏楽においてはＢ♭音を主音に持つ管調の楽器が多く、練習メニューも変ロ長調のものが多いが、ここでは音が響きにくい変ホ長調にし、テンポは♩＝80に設定した。そして時間短縮のため５音だけのハーフスケールとなっている。

17小節までで一度区切っても良いが、18小節目で急にテンポを変えることで単調になりがちな基礎合奏練習に変化を持たせる事、またメドレー曲など途中でテンポが変わる楽曲のためのトレーニングにもなるので、できれば続けて演奏することが望ましい。

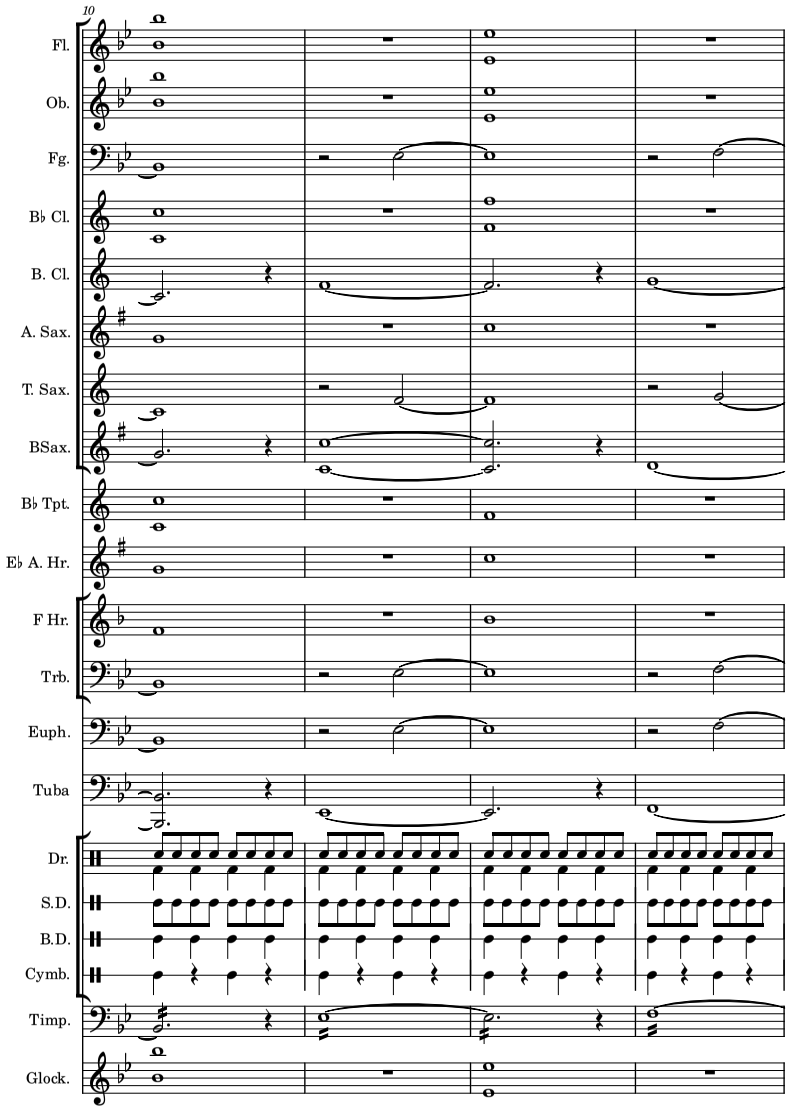
ティンパニがペダル式の場合は前の音を演奏しながら次の音を設定したり、瞬時に音替えをする練習として活用。鍵盤打楽器はグロッケンだけでなくシロフォンやヴィブラフォンなど他の鍵盤打楽器で演奏したり、一台の楽器を２名で演奏しても良い。複数人で演奏する時はマレットの高さや振り具合、トレモロの速さや叩き手順を揃えることも意識して欲しい。

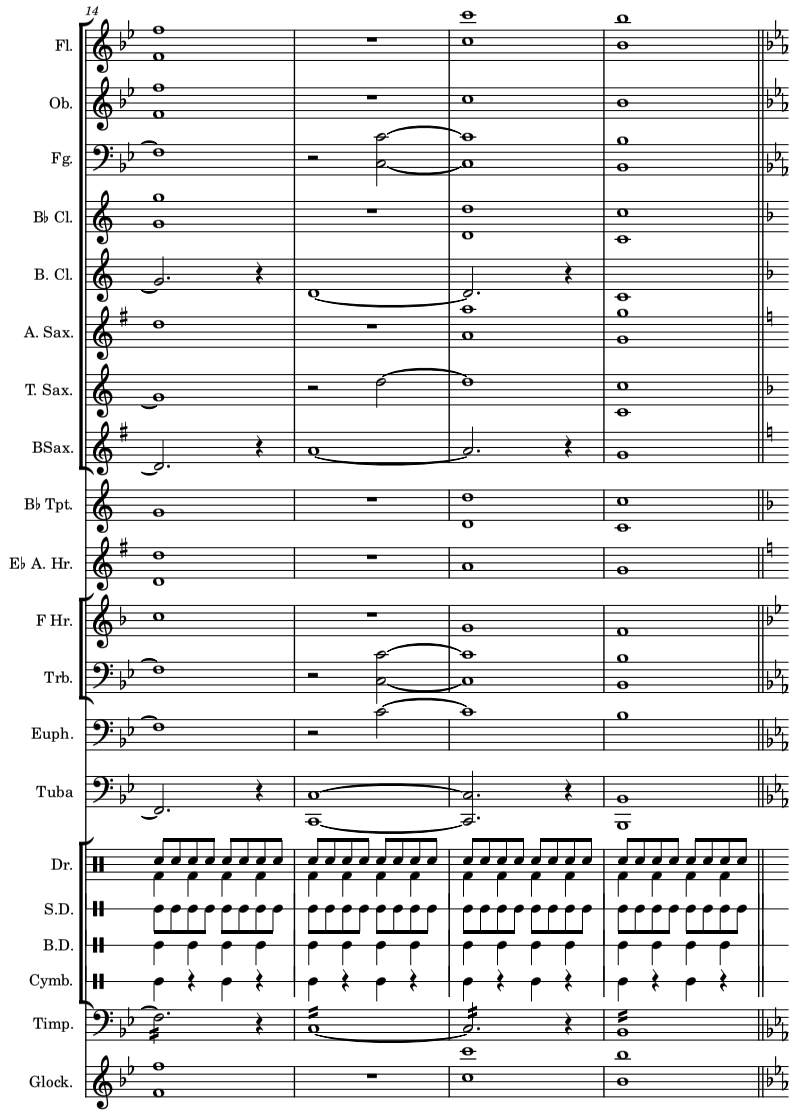
リハーサルマークＤ終わりまでは続けて演奏するが、49小節目Ｅと60小節Ｆには１小節間、それぞれ３連符や16分音符に切り替えるようパーカッションのみ演奏する場所を挿入した。

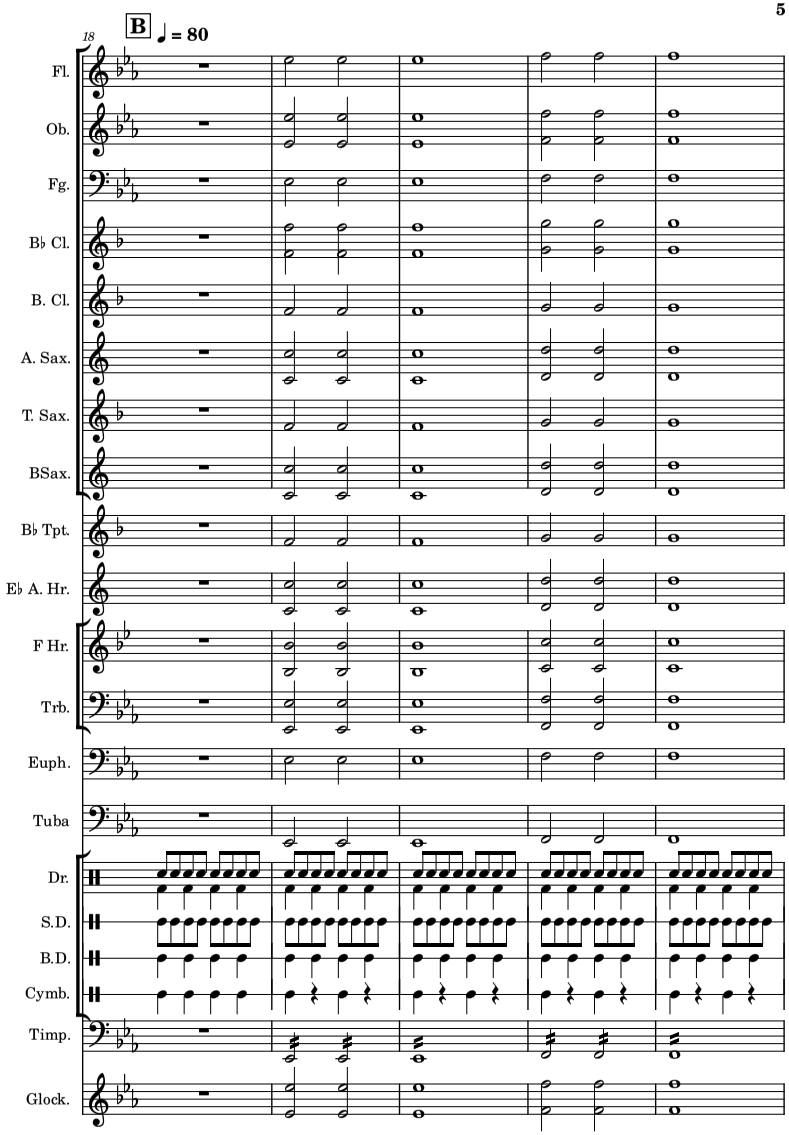
70小節では再び遅いテンポ♩＝60に設定したので、ここもパーカッション奏者がしっかりテンポをリードして欲しいが、この基礎合奏全体を通して指揮をしないまでも奏者の前に立ちリードしていくメンバーを選出することでより「合わせる」ことを意識できるようになるであろう。前に立つメンバーは独立した指揮者に限らず、楽器を持ったメンバーが演奏しながら区切り部分を合図することで自分も練習できるだけでなく、合奏の中でパートやセクション間の一体化を促す合図出しの練習にもなる。

最後のＧからは簡単なハーモニー練習である。ここまでで各奏者はピッチ調整をしながら進めていく事を心掛けて欲しいのだが、マイクを接続したチューナーから目を離さず演奏するのではなく、長く伸ばす音の後半で確認するにとどめ、それ以外は自分の音と周りの音を合わせる事、自分の発音や音の響きがどうなっているのか、そうしたいのかを考えながら演奏することが大切である。このメニューを基本に指導者が工夫することでその効果は倍増するであろう。

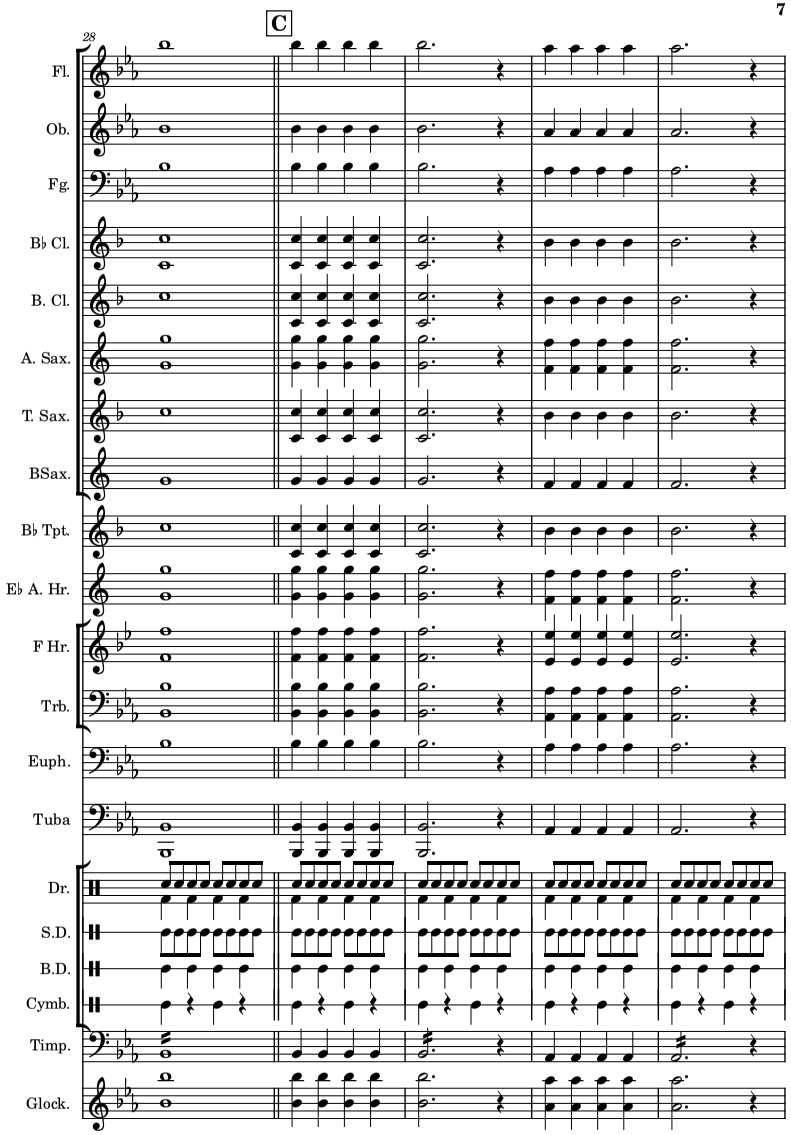

1
2
♩ = 63
A
6
Fl.
Ob.
Fg.
B♭ Cl.
B.Cl.
A.Sax
T.Sax
B.Sax
B♭ Trp.
E♭ A.Hr
F Hr.
Trb.
Euph.
Tuba
Dr.
S.D.
B.D.
Cymb.
Timp.
Glock.
B. Cl.
A. Sax.
T. Sax.
BSax.
B♭ Tpt.
E♭ A. Hr.

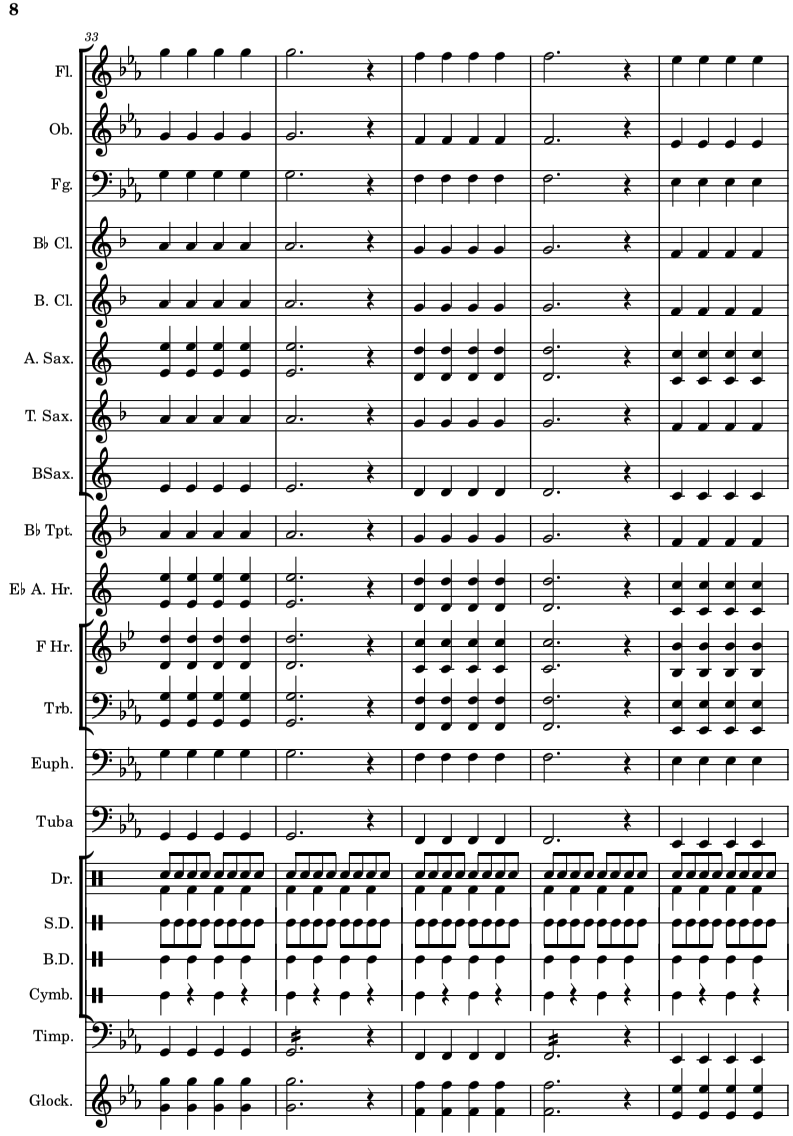

10
Fl.
Ob.
Fg.
B♭ Cl.
B. Cl.
A. Sax.
T. Sax.
BSax.
B♭ Tpt.
E♭ A. Hr.
F Hr.
Trb.
Euph.
Tuba
Dr.
S.D.
B.D.
Cymb.
Timp.
Glock.

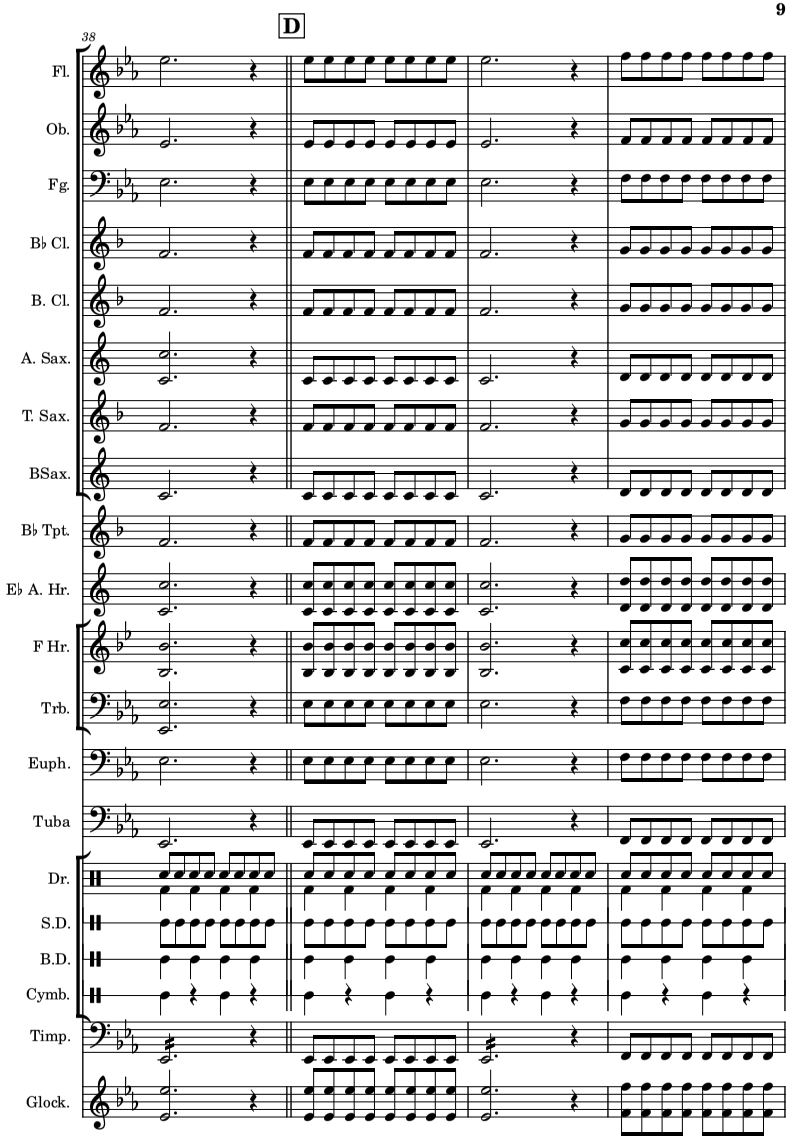

14
Fl.
Ob.
Fg.
B♭ Cl.
B. Cl.
A. Sax.
T. Sax.
BSax.
B♭ Tpt.
E♭ A. Hr.
F Hr.
Trb.
Euph.
Tuba
Dr.
S.D.
B.D.
Cymb.
Timp.
Glock.


B
♩ = 80
18
Fl.
Ob.
Fg.
B♭ Cl.
B. Cl.
A. Sax.
T. Sax.
BSax.
B♭ Tpt.
E♭ A. Hr.
F Hr.
Trb.
Euph.
Tuba
Dr.
S.D.
B.D.
Cymb.
Timp.
Glock.

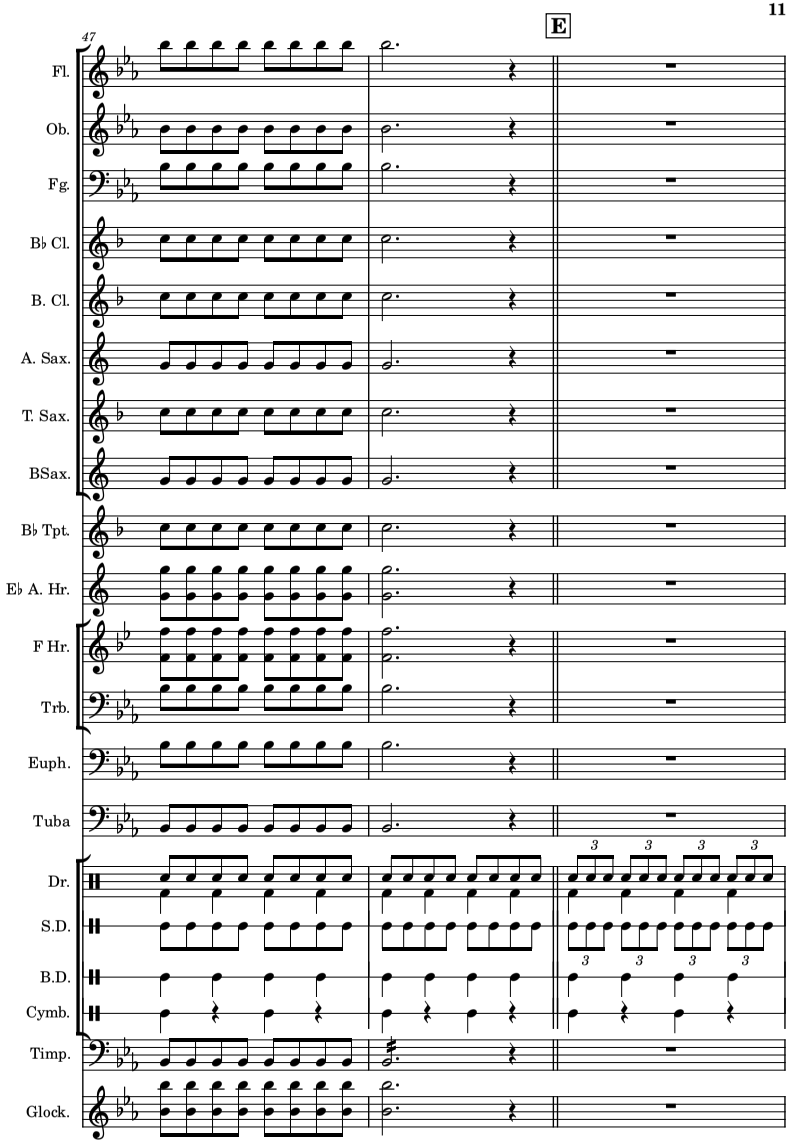

23
Fl.
Ob.
Fg.
B♭ Cl.
B. Cl.
A. Sax.
T. Sax.
BSax.
B♭ Tpt.
E♭ A. Hr.
F Hr.
Trb.
Euph.
Tuba
Dr.
S.D.
B.D.
Cymb.
Timp.
Glock.

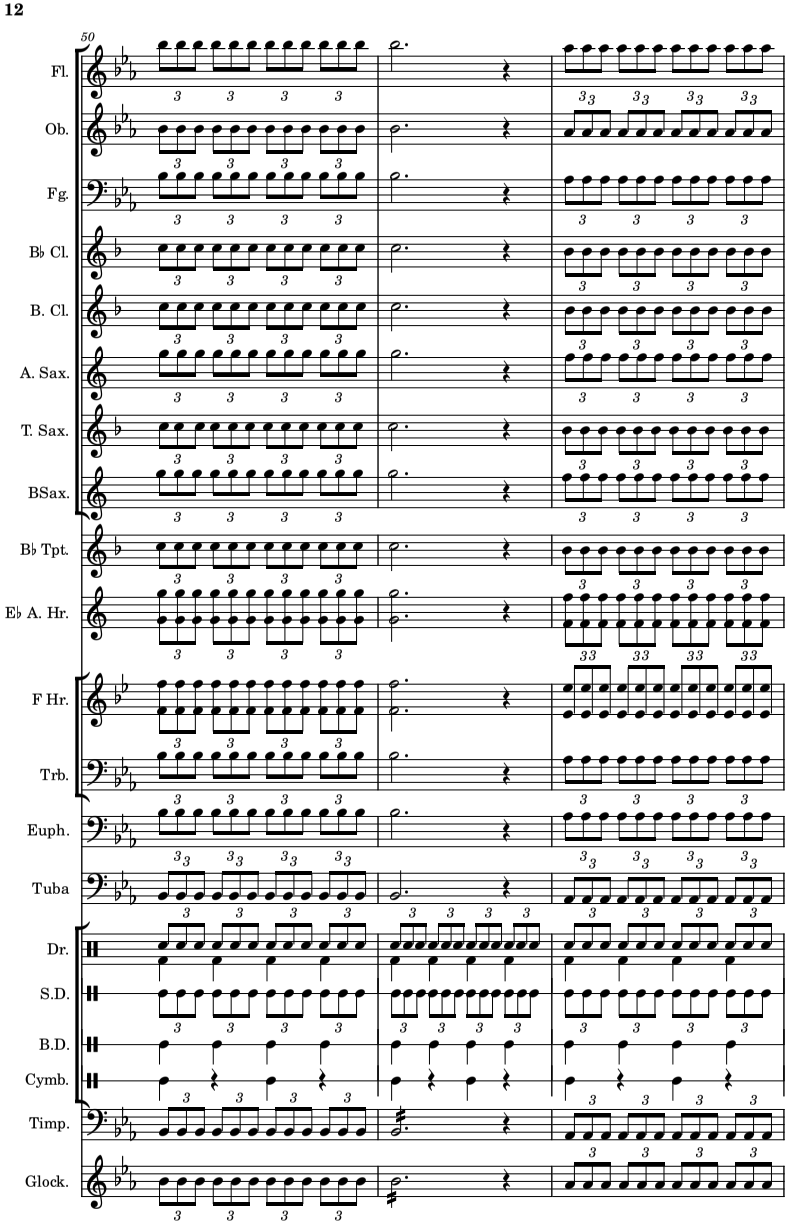

C
28
Fl.
Ob.
Fg.
B♭ Cl.
B. Cl.
A. Sax.
T. Sax.
BSax.
B♭ Tpt.
E♭ A. Hr.
F Hr.
Trb.
Euph.
Tuba
Dr.
S.D.
B.D.
Cymb.
Timp.
Glock.


33
Fl.
Ob.
Fg.
B♭ Cl.
B. Cl.
A. Sax.
T. Sax.
BSax.
B♭ Tpt.
E♭ A. Hr.
F Hr.
Trb.
Euph.
Tuba
Dr.
S.D.
B.D.
Cymb.
Timp.
Glock.

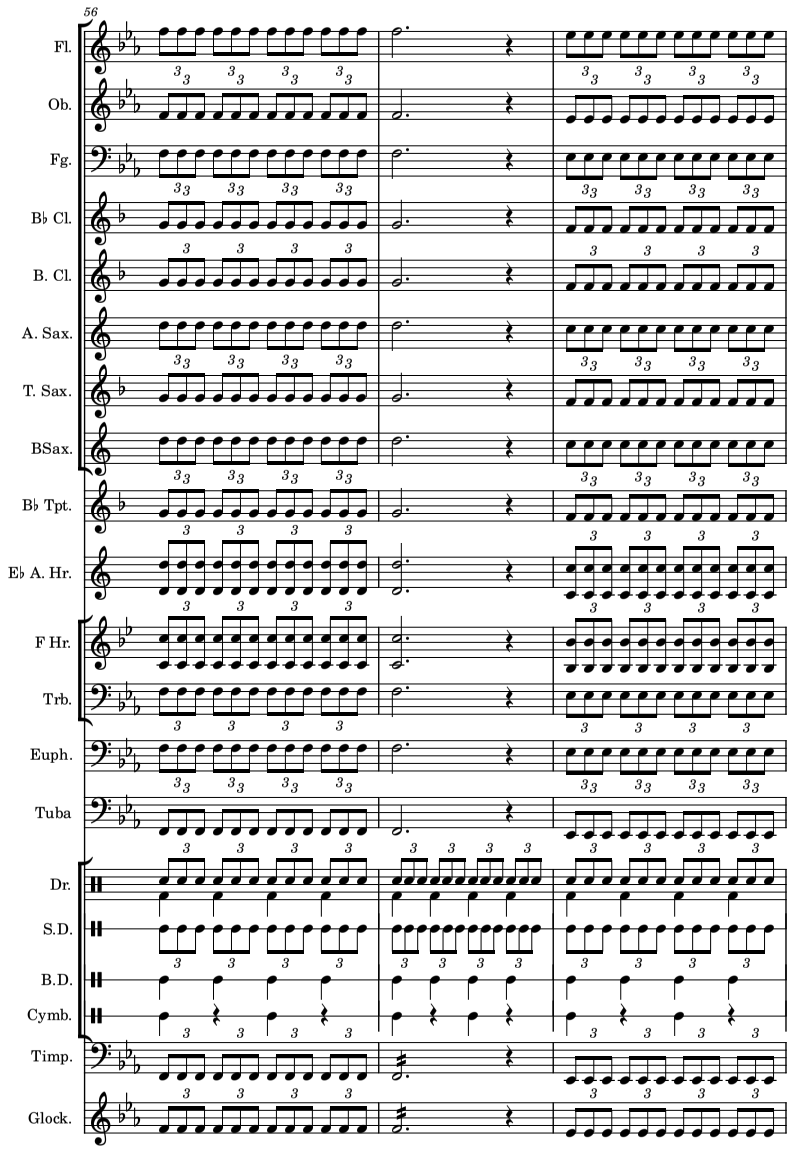

D
38
Fl.
Ob.
Fg.
B♭ Cl.
B. Cl.
A. Sax.
T. Sax.
BSax.
B♭ Tpt.
E♭ A. Hr.
F Hr.
Trb.
Euph.
Tuba
Dr.
S.D.
B.D.
Cymb.
Timp.
Glock.

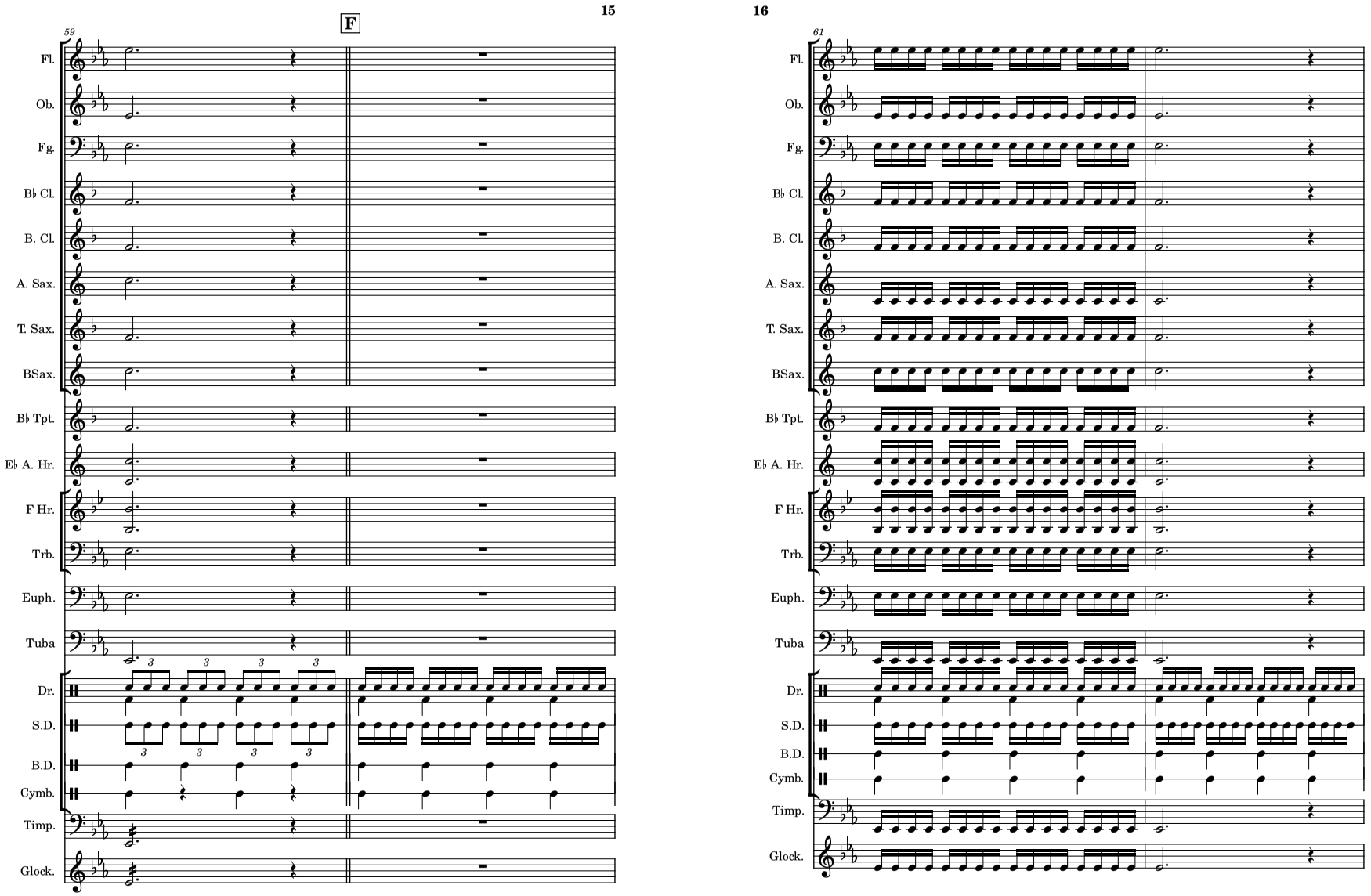

42
Fl.
Ob.
Fg.
B♭ Cl.
B. Cl.
A. Sax.
T. Sax.
BSax.
B♭ Tpt.
E♭ A. Hr.
F Hr.
Trb.
Euph.
Tuba
Dr.
S.D.
B.D.
Cymb.
Timp.
Glock.

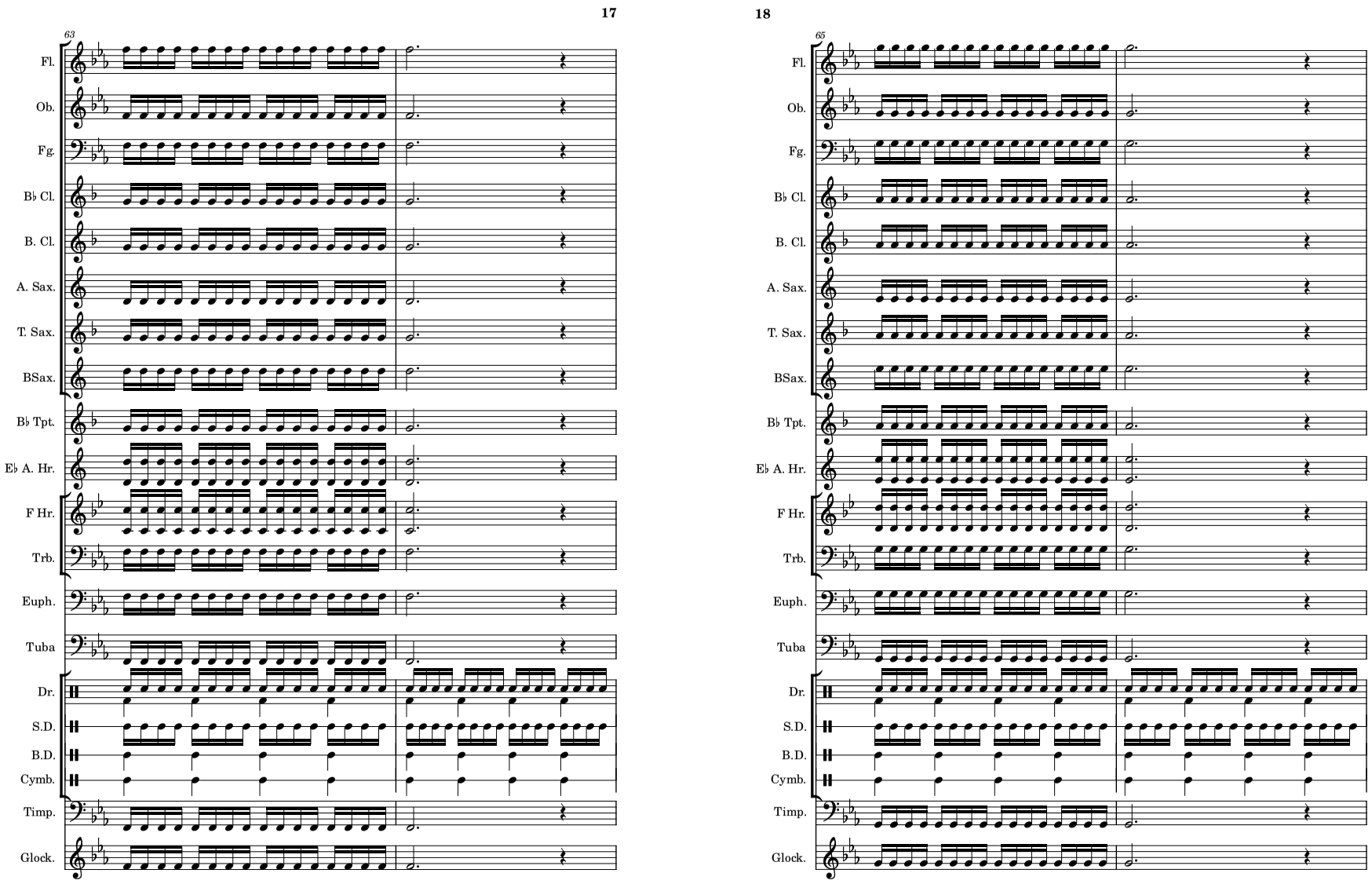

E
47
Fl.
Ob.
Fg.
B♭ Cl.
B. Cl.
A. Sax.
T. Sax.
BSax.
B♭ Tpt.
E♭ A. Hr.
F Hr.
Trb.
Euph.
Tuba
Dr.
S.D.
B.D.
Cymb.
Timp.
Glock.

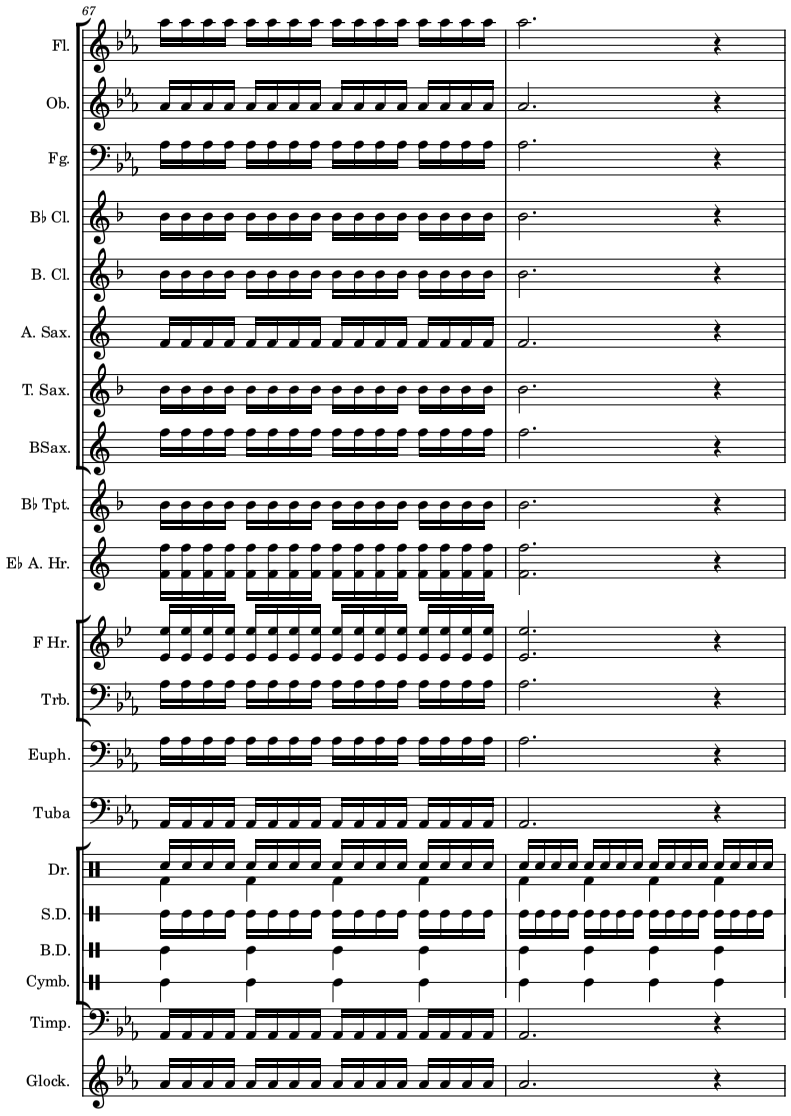

50
Fl.
Ob.
Fg.
B♭ Cl.
B. Cl.
A. Sax.
T. Sax.
BSax.
B♭ Tpt.
E♭ A. Hr.
F Hr.
Trb.
Euph.
Tuba
Dr.
S.D.
B.D.
Cymb.
Timp.
Glock.

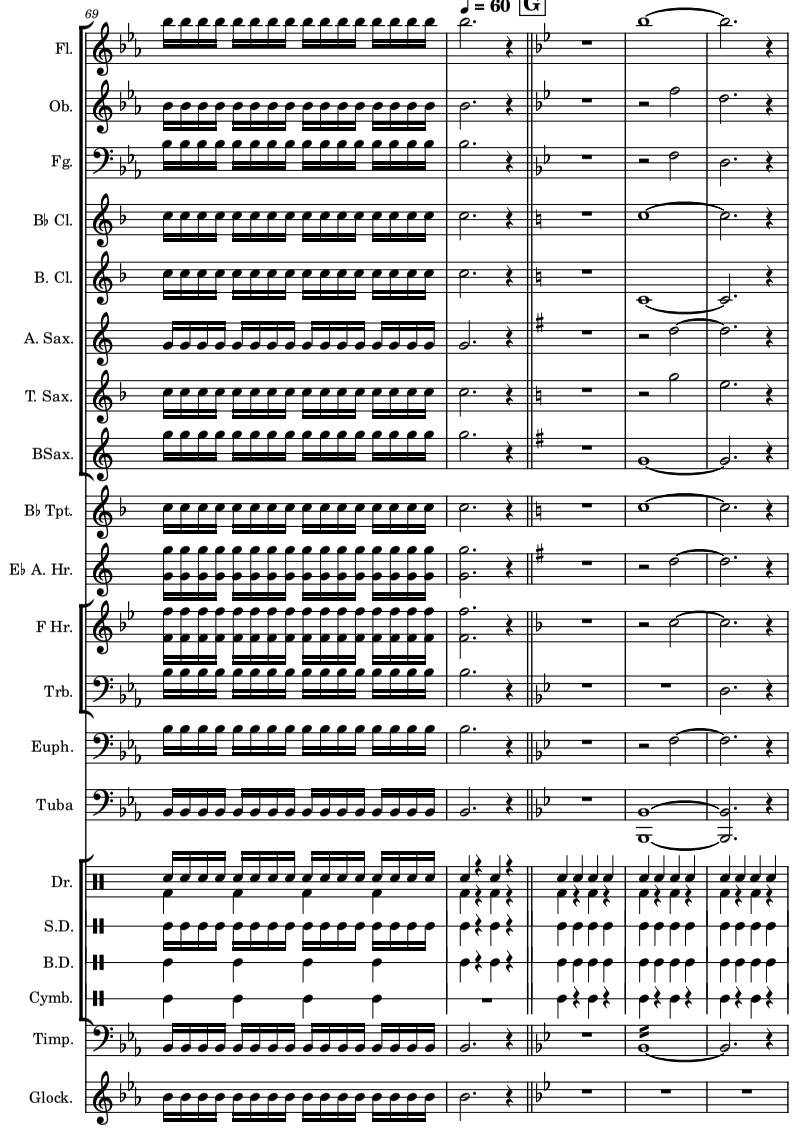

53
Fl.
Ob.
Fg.
B♭ Cl.
B. Cl.
A. Sax.
T. Sax.
BSax.
B♭ Tpt.
E♭ A. Hr.
F Hr.
Trb.
Euph.
Tuba
Dr.
S.D.
B.D.
Cymb.
Timp.
Glock.

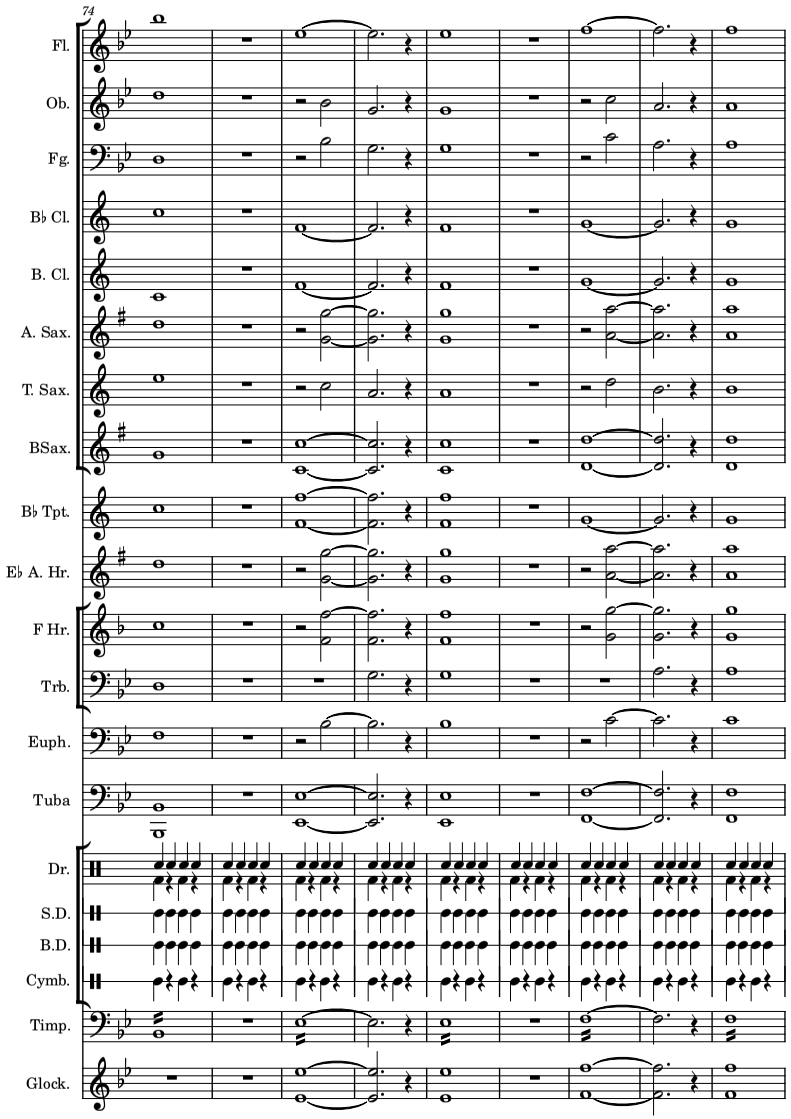

56
Fl.
Ob.
Fg.
B♭ Cl.
B. Cl.
A. Sax.
T. Sax.
BSax.
B♭ Tpt.
E♭ A. Hr.
F Hr.
Trb.
Euph.
Tuba
Dr.
S.D.
B.D.
Cymb.
Timp.
Glock.

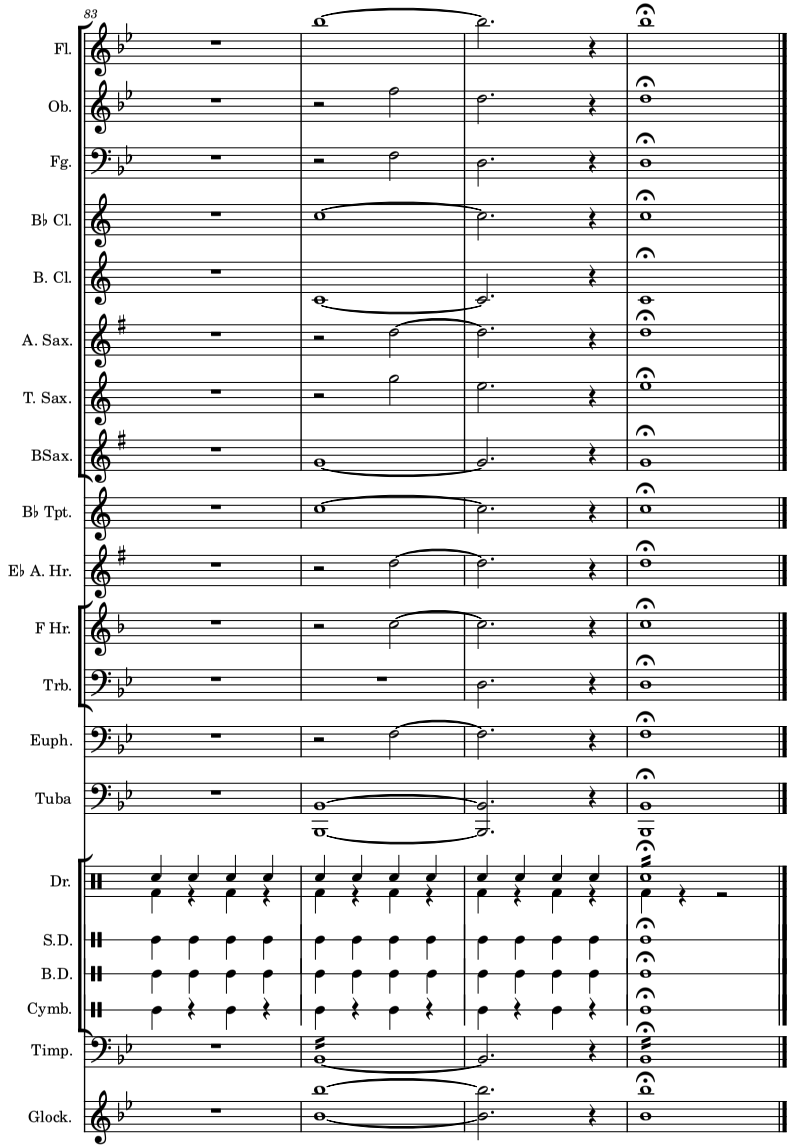

15
F
59
Fl.
Ob.
Fg.
B♭ Cl.
B. Cl.
A. Sax.
T. Sax.
BSax.
B♭ Tpt.
E♭ A. Hr.
F Hr.
Trb.
Euph.
Tuba
Dr.
S.D.
B.D.
Cymb.
Timp.
Glock.
16
61
Fl.
Ob.
Fg.
B♭ Cl.
B. Cl.
A. Sax.
T. Sax.
BSax.
B♭ Tpt.
E♭ A. Hr.
F Hr.
Trb.
Euph.
Tuba
Dr.
S.D.
B.D.
Cymb.
Timp.
Glock.


17
18
63
65
Fl.
Ob.
Fg.
B♭ Cl.
B. Cl.
A. Sax.
T. Sax.
BSax.
B♭ Tpt.
E♭ A. Hr.
F Hr.
Trb.
Euph.
Tuba
Dr.
S.D.
B.D.
Cymb.
Timp.
Glock.


67
Fl.
Ob.
Fg.
B♭ Cl.
B. Cl.
A. Sax.
T. Sax.
BSax.
B♭ Tpt.
E♭ A. Hr.
F Hr.
Trb.
Euph.
Tuba
Dr.
S.D.
B.D.
Cymb.
Timp.
Glock.


69
♩ = 60
G
Fl.
Ob.
Fg.
B♭ Cl.
B. Cl.
A. Sax.
T. Sax.
BSax.
B♭ Tpt.
E♭ A. Hr.
F Hr.
Trb.
Euph.
Tuba
Dr.
S.D.
B.D.
Cymb.
Timp.
Glock.


74
Fl.
Ob.
Fg.
B♭ Cl.
B. Cl.
A. Sax.
T. Sax.
BSax.
B♭ Tpt.
E♭ A. Hr.
F Hr.
Trb.
Euph.
Tuba
Dr.
S.D.
B.D.
Cymb.
Timp.
Glock.


83
Fl.
Ob.
Fg.
B♭ Cl.
B. Cl.
A. Sax.
T. Sax.
BSax.
B♭ Tpt.
E♭ A. Hr.
F Hr.
Trb.
Euph.
Tuba
Dr.
S.D.
B.D.
Cymb.
Timp.
Glock.

ブルクミュラー没後150年：展示とレクチャーの記録
～教育的な意義と試み～
150 Years After Burgmüller's Death：Exhibition and Lecture Records, Educational Significance, and Initiatives

田　島　恵　理

1　はじめに

2024 年は作曲家 J.F. ブルクミュラーの没後 150 周年を迎えた。この節目の年に際し、彼の作品が再評価され、その教育的価値が改めて注目を集めている。ブルクミュラーの作品は、長年にわたりピアノ教育において重要な役割を果たしてきた。多くの書籍や楽譜が出版され、出版各社は多様なアプローチを試みており、教育的観点からの新しいアイディアが次々と提案されている。これによりブルクミュラーの作品を用いた学習方法が多岐にわたることが示され、多くの音楽家や研究者がその挑戦に取り組んでいる。このような背景から、本研究ではブルクミュラーの作品を通じて、新しい演奏スタイルを提案し、その教育的・文化的意義を探ることを目的とする。

2　ブルクミュラー没後 150 周年記念図書展示
～図書館での楽譜展示と学生のイラスト展示の試み～

本学では例年、来場者に図書館を開放しており、一般の方はもとより本学卒業生の関心を集める場となっている。この機会に、その年のアニバーサリー作曲家を取り上げ、関連する図書や CD、DVD 等を展示している。そこで今年はブルクミュラー没後 150 周年を記念し、彼の作品を取り上げた。「なぜここまで幅広い年齢層にブルクミュラーの作品が愛されるのか」をテーマとした。

～図書館における展示項目と展示物～

展示項目１　　ブルクミュラー紹介（画像と紹介文）
・展示物１　　①ブルクミュラー肖像　②弟ノーベルト　③父アウグストの画像
・展示物２　　生地レーゲンスブルクの画像
・展示物３　　ブルクミュラーの作品『ちいさなフランツ・リスト』としての記録
展示項目２　　ブルクミュラー図書館収蔵の楽譜・CD 展示・DVD 放映
展示項目３　　ブルクミュラーと同時代に活躍した作曲家コーナー
・展示物１　　①シューマン　②リスト　③メンデルスゾーン　④シューベルト画像一覧
・展示物２　　リスト　パガニーニ大練習曲４番の楽譜と『つばめ』

展示項目４　　ブルクミュラー『25 の練習曲』に関する物語やイラストコーナー
・展示物１　　新刊ブルクミュラー絵本　25の物語
・展示物２　　ブルクミュラーのアドベントカレンダー
　　（ピアノ指導法受講生によるイラスト課題展示）
・展示物３　　AIによるブルクミュラーに関するイラスト
展示項目５　　アンケート　筆記具　回収箱

～展示の目的とその意義～

楽譜展示の目的は、ブルクミュラーに関する多様な書籍を通じて、彼の作品の教育的価値とその広がりを示すことである。出版各社がブルクミュラーに関する多くの書籍を出版しており、それらを一堂に会して展示することで、どのようなアプローチで作品を紹介しているのかを知ることができる。例えば、イラストが豊富に含まれた子供向けのもの、譜読みがしやすいように工夫されているもの、ページがめくりやすいデザインのもの、さらには情景が思い浮かぶような題名が付けられたものなど、幅広い対象に向けた出版物が揃っている。

これにより、来場者はブルクミュラーの作品がどのように教育的に活用されているか、各書籍の特徴や目的を知ることができる。これらの展示は、ブルクミュラーの作品が幅広い年齢層に愛される理由を明らかにし、その教育的意義を確認する場となる。

～教育的な側面と効果～

図書展示イベントにおいては、教育的な価値を強調するために、ピアノ指導法の授業での課題を組み合わせた。ピアノ指導法の授業では、学生たちが将来のピアノ指導者として、ブルクミュラーの作品をどのように教育的な教材として活用するかを検証している。その一環として、視覚的なアプローチを取り入れ、イラストを用いた指導方法を試みた。

ヨーロッパにはクリスマスまでの 25 日間をカウントするアドベントカレンダーという伝統がある。毎日一つずつ小さな窓や袋を開けて、中に隠されたお菓子や小さな贈り物を楽しむ習慣である。この展示ではブルクミュラーの 25 の練習曲をアドベントカレンダーに見立て、一曲ずつを子供たちへの贈り物として考えた。

ブルクミュラーの練習曲は、子供たちが楽しみながらピアノの技術を身につけるために作られた作品であり、それぞれの楽曲には特定の技術や表現力を養うための工夫が凝らされている。もしブルクミュラーがアドベントの時期に子供たちにプレゼントを送るとしたら、この曲集を選んだかもしれないと考えることで、来場者の興味を喚起することができた。

展示コーナーでは、各曲の楽譜の表紙となるようなイラストを作成し、曲の特徴を視覚的にも楽しめるようにした。この工夫により、子供たちには曲に何が書かれているのかを考える動機を提供できる。また 19 世紀に確立された標題音楽やキャラクターピースの音楽スタイルの違いを知る機会ともなり、さらに絶対音楽を演奏していく上での学習の側面も含まれている。これにより、子供たちは音楽の多様なスタイルを学び、表現力を豊かにすることができる。

この試みの結果、学生はブルグミュラーの作品を教材としたピアノ指導の価値を認識し、

来場者にはイラスト展示を通じて作品を楽しんでいただいた上で、その教育的価値を伝えることができた。

3　ブルクミュラー没後 150 周年記念レクチャーコンサート
～朗読を交えた演奏スタイルの試み～

レクチャーコンサートは、展示で紹介した出版物に関する情報や、彼の音楽的背景をさらに掘り下げ、実際の演奏を通じてより明確に音楽の価値を伝えることを目指した。具体的には、ブルクミュラーの経歴や生まれた場所、時代背景がわかるように、作品 100「25 の練習曲」を題材に、朗読を交えた物語を創作した。この物語には、以下の主な登場人物が登場する。

- ヨハン先生（ブルクミュラー本人）
- テレーゼ（ヨハン先生の母親）
- ヨアヒム（少年聖歌隊員でヨハン先生の弟子）
- トビアスとエマ（ヨハン先生の弟子）

物語の構成に際しては、できるだけ実在する人物を基にし、ブルクミュラーの家庭環境を想像することから始めた。教育者であったブルグミュラーの作品には、ピアノの楽しさや魅力を伝えるだけでなく、後にヴィルトゥオーゾ作品を演奏できるピアニストに成長してほしいという願いが感じられる。また、ピアニストとして将来を有望視された弟（ノルベルト）の 26 歳での夭折という事実からも、ブルクミュラーがどのようにしてこれらの作品を作曲するに至ったのかを想像することもできる。それらを彼の母親との会話を通じて創作した。物語の冒頭は、シューマン「子供の情景」を弾いている母親を登場させたが、これも母親のテレーゼが歌手でピアノ教師であったことを引用している。また、キャラクターピースの代表曲ともいえるこの作品は、ブルクミュラーが標題音楽とキャラクターピースの両面の要素を含んでいることを踏まえて選曲した。

このようにして、ブルクミュラーの作品に込められた思いや背景を想像し、物語形式で新しい視点を提供し、作品の理解を深めることを目指した。この演奏スタイルを試みたことで、ブルクミュラーという人物をより身近に感じ、理解を深めることができたことはアンケートの結果にも反映された。※後述

～朗読を交えた演奏スタイルの可能性と考察～

このような朗読を交えた演奏スタイルに関心を寄せ、意欲を示した学生もいた。これを受けて、朗読を交えた演奏スタイルを身に付けるための工夫を考察している。

授業では、まずレクチャーコンサートの本来の目的を学ぶことから始めている。台本はファンタジックな創作だけでなく、レクチャーとしての本来の目的を持ち、事実や歴史的背景に沿うものでなければならない。その軸を外すと、興味を惹くための創作となり、教育的な立場からは非常に危ういと判断している。そのために、まず作曲者の意図や背景をしっかりと文献等で調べた上で、それらをどのように伝えれば理解が深まるのかを考え、その延長線上に物語や例え話が生まれてくることなど、創作の順番を守ることが重要となることを伝えている。このようなアプローチにより、学生たちは音楽の背後にある事実を

学び、それを効果的に伝える方法を考察していく。これらは、朗読を交えた演奏スタイルの教育的意義として、今後の音楽教育における新しい可能性を示している。

～レクチャーコンサート実施内容の記録～

演奏前に伝えたこと

・ブルクミュラー「25の練習曲」は小さな手でも弾けるように書かれている。初心者が段階的に技術を習得できるように作られており、５本の指で５つの鍵盤を押さえるという奏法から始まり、段階的に技術を習得できるようになっている。原題は『ピアノのためのやさしく段階的な25の練習曲　小さな手をひろげるための明解な構成と運指』。
・作品には標題が付けられており、そこから物語を広げることができるため「練習曲」という技術習得を目的とした中にも、ピアノ曲の味わいが感じられる。
・ブルクミュラーの作品はシューマンやメンデルスゾーンなどの影響を受けており、文学と音楽の融合が特徴的な時代。作品を通じて、幅広い年齢層の人々が自由な発想で楽しむことができるのも魅力のひとつであること。
・作品は標題音楽的要素と同時に、シューマンやメンデルスゾーン、ショパンなどの大作曲家たちが手がけたキャラクターピースの要素の両面を含んでおり、ヴィルトォーゾの作品へ近づくための重要な役割を果たしている。
・朗読部分の創作にあたり、どのように組み立てを行ったかということ。例えば、ブルクミュラーのお母さんが貴族の出身であったことを踏まえ、彼は子供のころから『貴婦人の乗馬』の光景を見ていたと考えることで、広がりを持たせたこと。
・天才ピアニストとして将来を期待されていた弟ノーベルトがメンデルスゾーンと親友であったことから創作のヒントをえたこと。ブルクミュラーの人物に関する文献や資料は少ないが、このような事実から想像を膨らませたこと。
・来場者には資料を配布し、登場人物がわかるようにした。

～演奏と朗読部分の詳細『ブルクミュラー 25 の情景』～

朗　　読：ここはデュッセルドルフにあるブルクミュラー家のお屋敷。窓から日差しが差し込み、Wohnzimmer では　ヨハン先生のお母さん、テレーゼががピアノを弾いています。
演　　奏：シューマン子供の情景より 知らない国の人々
ヨ ハ ン：Guten Morgen ！
テレーゼ：おはよう。ヨハン。Was für ein schöner Tag heute…今日は本当に素敵な日ね。庭がとても綺麗だわ。
ヨ ハ ン：母さんのピアノも今日は特に美しく聞こえるよ。
テレーゼ：ロベルトの曲ですものね。ロベルト シューマン「子供の情景」
ヨ ハ ン：ロベルトの音楽は本当に素晴らしいよ。僕の生徒たちも、こんな曲を弾けるようになったら、もっと美しい世界を見ることができるのに。
テレーゼ：なら、あなたが生徒たちのためにロベルトのような曲を書いてあげたらいいわ。
ヨ ハ ン：僕の生徒たちはまだ手も小さいし、両手でやっと弾けるようになってきたとこ

ろだ。ポリフォニーは難しい。（考え込むように）でも、どうかな、ロベルトの子供の情景 Fremden Lände und　Mänchen 知らない国、知らない人々に offenen Sinnes 心を開く、Offenen Sinnes　これだ。

演　　奏：ブルクミュラー 25 の練習曲１番　素直な心

朗　　読：ヨハン先生が弾いていると、生徒のヨアヒムが部屋に入って来ました。

ヨアヒム：Guten Morgen Herrn Burgmüller.

テレーゼ：おはようございます。Du bist gut angekommen.

朗　　読：ヨアヒムはアラビア風のアラベスク模様の布から、楽譜を取り出します。

ヨアヒム：先生、今日はラモーの楽譜を持ってきました。この布の模様がとても素敵でラモーの繊細なメロディーにぴったりだと思いました。

ヨ ハ ン：Sher Schöen ヨアヒム。アラベスク模様がとても魅力的だ。

テレーゼ：アラベスク、きっとロベルトもこんな布を持っていたのよ。

演　　奏：ロベルト シューマン　アラベスク冒頭部

ヨアヒム：ヨハン先生、僕もアラベスクを弾いてみたいです！

ヨ ハ ン：ヨアヒム、ロベルトのアラベスクは君にはまだ難しいなぁ。それなら君にはこんなアラベスクはどうかな？

演　　奏：ブルグミュラー 25 の練習曲２番「アラベスク」

ヨアヒム：ファンタスティック！ Schön まるで異国に行ったみたいだ。ヨハン先生、こうやって音楽で旅をすることができるって素敵だね。僕は音楽でいろいろなところに旅してみたいよ。丸一日馬車に揺られて、途中はずっと田園風景があって、羊飼いもいるのかな……

演　　奏：ブルグミュラー 25 の練習曲３番「田園風景」

ヨアヒム：Danke Schöen　僕は今、旅をしているような気分だ。聖歌隊の演奏旅行で行った小さな町を思い出す。子供たちが輪になって、何かお話しをしていて、僕も仲間に入りたいなって思った。

演　　奏：ブルクミュラー 25 の練習曲４番「子供の集会」と５番「無邪気」

ヨアヒム：うわー、僕の嫌いな音階が出てきた。ドレミファソラシド！

ヨ ハ ン：ヨアヒム、音階の指遣いは正しく弾くんだよ。そして、モーツァルト大先生のように、喜びをかけ上がるんだ！

演　　奏：ブルクミュラー 25 の練習曲６番「進歩」

朗　　読：ヨハンとお母さんのテレーゼは食卓に向かっていました。

テレーゼ：今日のレッスンに来たヨアヒム、あなたのピアノで目を輝かせていたわね。もっとたくさん曲を作ってあげたらどうかしら？ロベルトは「謝肉祭」という曲を作っているらしいわ。その中には、彼の好きな女性の名前や生まれた場所を入れているって。

ヨ ハ ン：へえ、ロベルトは本当にすごいなぁ。僕もバッハを入れてみようか。（ＢＡＣＨ音名）こんな使い方すると、ノーベルトの大親友だったフェリックスに叱られそうだよ。

ヨ ハ ン：そういえばフェリックス・メンデルスゾーン、「マタイ受難曲」を復活させるために、ベルリンへ行ったよ。ヨハン・セバスチャン・バッハとは、まさに神

のような存在だった。

テレーゼ：そうね、ところで、バッハはバッハでも、セバスチャン様ではなくて、小川のバッハはどうかしら？

ヨ ハ ン：Gute Idee ！Ｂを抜いて残りのＡ、Ｃ、Ｈを反対から弾いてみよう。これならヨアヒムの親指を抑える勉強にもなって、バッハ様を弾くときに役に立つよ。

演　　奏：ブルクミュラー 25 の練習曲７番「清らかな流れ」

エ　　マ：Guten Tag Herrn Friedrich.　フリードリヒ先生、こんにちは。

ヨ ハ ン：こんにちは、エマ。フリードリヒ先生と呼んでくれるのは久しぶりだね。パリに来てからは「ヨハン先生」とばかり言われているから、フリードリヒと呼ばれると新鮮な気持ちだ。

エ　　マ：先生、私、バレエの発表会に出るんです！先生が作曲した『ラ ペリ』の妖精役です。ピルエットが上手なのは、私が１番ですって！

演　　奏：ブルクミュラー 25 の練習曲８番「優美」

朗　　読：エマのレッスンが終わると、ヨハン先生はトビアスの家に向かいます。トビアスはいつもヨハン先生が教えに来るのを楽しみに待っています。トビアスは狩りの時以外はおうちから出ることができません。家には、狩りで取った鹿の首などが飾られていて、アルペンホルンの大きな楽器も置かれています。

トビアス：Willkommen Herrn Burgmüller.　先生、ようこそいらしてくださいました。これ、見てください、自慢のアルペンホルンです。狩りの時に使います。使い方を間違えると動物たちが怒って、苦しんでしまいます。僕は、本物の狩人になりたいのです。

演　　奏：ブルクミュラー 25 の練習曲９番「狩り」

朗　　読：ヨハン先生が家に戻ると、母親のテレーゼは本を広げて詩を読んでいました。
Sah ein Knab' ein Röslein stehn, Röslein auf der Heiden,

ヨ ハ ン：母さん、ゲーテかい？

テレーゼ：そう『野ばら』。明日の演奏会で歌うわ。少年が野に咲くバラを見つけて、その美しさに惹かれてへし折ろうとするのよ。バラは自分を守ろうとするのよ。

ヨ ハ ン：その少年は、ゲーテ本人ということかな。文学と音楽、どっちが偉いかって！

テレーゼ：音楽と文学が融合することで、深い表現が生まれるのよ。

ヨ ハ ン：僕はフェリックス（メンデルスゾーン）の無言歌のように、言葉のないピアノ曲の奥深さも表現したいよ。

テレーゼ：パリにいるフレデリック（ショパン）は『バラード』なんていうピアノ曲を作ったわよ。それも、ゲーテの影響かしら。

ヨ ハ ン：幸運を呼ぶ　青い花、青い鳥　僕の生徒もそんな作品を弾けるようになってほしい。

演　　奏：ブルクミュラー 25 の練習曲 10 番「やさしい花」、11 番「せきれい」

ヨ ハ ン：ところで、母さん、そのゲーテの詩集、それ、父さんの本だね。

テレーゼ：この本はあなたが 17 歳の時に父さんがあの世に行ってしまった時からずっと大事にしているの。

ヨ ハ ン：あんなに辛いことはなかったよ。僕は本当に悲しかった。声を出して、息が苦しくなるほど泣いたのを覚えているよ。
演　　奏：ブルクミュラー 25 の練習曲 12 番「別れ」
テレーゼ：ヨハン、あなたがあの時どれだけ辛かったか、よく覚えているわ。そして、弟のノーベルトが召された時も本当に辛かったわね。
ヨ ハ ン：うん、母さんも辛かったろうね。
演　　奏：ブルクミュラー 25 の練習曲 13 番「なぐさめ」
ヨ ハ ン：母さん、覚えている？昔、みんなでシュタイヤーに行ったのを。お父さんが大好きだった場所。
テレーゼ：そうね。父さんと弟のノルベルトと兄さんのフランクと、家族みんなで最後に行った旅行もシュタイヤーだったね。デュッセルドルフに来て、毎日忙しく音楽監督として活躍した父さん、まるで皇帝 August のようだった。
ヨ ハ ン：踊り子のお姉さんたちが僕たちに近寄ってきたよね。
テレーゼ：そうそう、アコーディオンオルガンを持っているお腹の大きなおじさんがいて、それがまるで父さんだねって。ノーベルトはピアノの練習ができないから、３日分下手になるって言い出して。
ヨ ハ ン：うん、あの光景、今でも鮮明（せんめい）に思い出せるよ。お父さんも本当に楽しそうだった。
演　　奏：ブルクミュラー 25 の練習曲 14 番「スティリエンヌ」※１
ヨ ハ ン：あの時、ハルス地方から来た、ちょっと不気味なおばあさんがいた。
テレーゼ：ええ、覚えているわ。
ヨ ハ ン：確か４つの鐘が鳴ると何かが起こるっていう話をしていた。
テレーゼ：４つの鐘？そうだったかしら、あれはゲーテの『ファウスト』に出てくる「バルプルギスの夜」のお話で、ブロッケン山で魔女たちが集まって踊り狂うという話だったと思うわ。
ヨ ハ ン：ブロッケン山！頂上に行くと巨大な人影が迫ってくる。
テレーゼ：見る人の影が霧に映って巨大に見えるのよ。ゲーテも魔女たちの集会と結びつけて書いているわ。
演　　奏：ブルクミュラー 25 の練習曲 15 番「バラード」
ヨ ハ ン：そういえば、このお話の後で、後に急に泣き出した青年がいた。怖くて泣いているのかと思ったら、失恋したと言って泣き始めて。彼女とっても可愛かったんだろうなぁ。
演　　奏：ブルクミュラー 25 の練習曲 16 番「あまいなげき」
ヨ ハ ン：そのあと、彼の周りにどんどん小鳥たちが集まって、彼の食べていたプレッツェルをつっつきはじめた。泣いてた青年が追い払って、みんな大笑いした。
演　　奏：ブルクミュラー 25 の練習曲 17 番「おしゃべり」
ヨ ハ ン：帰りは、さよならも言わずに一気に解散。馬車に飛び乗ったよ。早くガストホフに戻らなければって。
テレーゼ：そうだったわ。嵐が来たわ。馬が濡れないうちに早く早くって。クッチャーが、

馬に鋭くムチを入れて。戻れなかったらと心配したわ。
演　　奏：ブルクミュラー 25 の練習曲 18 番「気がかり」
ヨ ハ ン：あー　なんと美しい思い出の数々。マリア様、ありがとう。
朗　　読：日曜日の朝、教会の鐘が静かになり、少年聖歌隊の合唱が聞こえてきます。
そこには、ヨアヒムもいます。
演　　奏：ブルクミュラー 25 の練習曲 19 番「アヴェマリア」
朗　　読：聖歌隊の出番が終わったヨアヒムは、今日もヨハン先生の家に立ち寄ります。
ヨアヒム：先生、演奏旅行中に大変なことがありました。合唱団の一人がツェッケンに刺されてしまったのです。
ヨ ハ ン：それは大変でしたね。
ヨアヒム：最初はみんなパニックになりましたが、校長先生が冷静に対処してくれました。ピンセットでツェッケンの頭を潰さないように上手に取り除いてくれました。みんな怖がっていましたが、友達の一人がタランテラの毒蜘蛛の話をしました。
演　　奏：ブルクミュラー 25 の練習曲 20 番「タランテラ」
ヨアヒム：ファンタスティック！！聖歌隊のみんなに聞かせたい。僕はこの曲が弾けるように頑張るよ。ヨハン先生は、どんな情景もピアノで弾けるのですね。
ヨアヒム：僕は聖歌隊の演奏旅行でいろいろな大聖堂に行きました。大聖堂の鐘が街中に響き渡って、その後ろに虹がかかるのを何度も見ました。
演　　奏：ブルクミュラー 25 の練習曲 21 番「天使のハーモニー」
ヨアヒム：Seher Schön.
ヨ ハ ン：Danke ヨアヒム。君のお父さん、イタリアにいるのだったね。
ヨアヒム：そうです。ベネチアにいるお父さんから手紙が届きました。そこには、ゴンドラに乗って船頭さんたちが歌っている絵が描いてありました。そして、僕たちの幸せを祈っていると。
ヨアヒム：僕は行ったことがないけど、いつか行ってみたい。父さんにも会いたい。
演　　奏：ブルクミュラー 25 の練習曲 22 番「舟歌」
ヨアヒム：ヨハン先生、今日は素晴らしい曲をありがとうございました。
Vielen Dank für das wunderbare Lied heute.
ヨ ハ ン：ヨアヒム、そろそろ門の前で馬車が待っているよ。
ヨアヒム：はい、途中の森で魔王に襲われないように、気を付けて帰ります。
ヨ ハ ン：Auf Wiedersehen，bis nechstemal.
ヨアヒム：Auf Wiedersehen，Herrn Burgmüller.
演　　奏：ブルクミュラー 25 の練習曲 23 番「帰り道」
朗　　読：ヨハン先生と母親のテレーゼは夕食のアーベントエッセンを取ると、再びピアノの前で話ではじめます。
テレーゼ：ねえ、ヨハン、あなたはフランツ、フランツ（リスト）の音楽、どう思う？ロベルトの奥さんはとっても毛嫌いしているわ。
ヨ ハ ン：鍵盤の魔術師と Zeitung に載っていたよ。パガニーニの魂が乗り移ったと。
テレーゼ：パガニーニの演奏はまるで悪魔のようですって。デュッセルドルフの教会でも、

その話で持ちきりだったわ。
ヨ ハ ン：母さん、フランツのパガニーニ大練習曲というのを知っている？悪魔の超絶技巧さ。
演　　奏：リスト パガニーニ大練習曲 4 番冒頭
ヨ ハ ン：うわー、弾いているだけで、魔法使いになった気分だ！！大練習曲か。
そうだ母さん、フランツが大なら、僕は小、Kiein でいくよ。
演　　奏：ブルクミュラー 25 の練習曲 24 番「つばめ」
テレーゼ：ヨハン、ニュースよ。あなたの作品を小さなフランツリストとして、記録することになったわよ。※２
ヨ ハ ン：それは嬉しいな。ヨアヒムやトビアスたちも、リストが弾けるピアニストなるだろう。
テレーゼ：町の人はあなたの弟、ノーベルトのようなピアニストを期待しているわ。
ヨ ハ ン：お母さん、明日はイースターの日曜日で、みんなが集まる日だね。お母さんのファミリーはみんな乗馬が得意だったね。
テレーゼ：そうよ、乗馬は貴族のたしなみなの。乗馬の技術や優雅さを競うのが好きなのよ。エミリアおばさんはお友達を連れてくるわ。
ヨ ハ ン：大丈夫？ツァント家人たちと、仲良くできるの？
テレーゼ：大丈夫よ。乗馬の得意な人は、馬の気持ちだけでなく人の気持ちもわかる人たちよ。トリュフを用意したわ。子供たちにはイースターエッグ。バウムクーヘン、アップフェルクーヘンも用意したから、きっと喜ぶわよ。
朗　　読：エミリアおばさんは、さっそく馬のご機嫌を伺っています。
演　　奏：ブルクミュラー 25 の練習曲 25 番「貴婦人の乗馬」
ヨ ハ ン：今日は特別な日だったわね。
テレーゼ：そうね、ヨハン。こうしてみんなが集まるのは、本当に素晴らしいことよ。
ヨ ハ ン：母さん、僕はヨアヒムやトビアスのために『練習曲』を書いてみるよ。
ロベルトの子供の情景のような曲も、リストの大練習曲も弾けるピアニストになってほしい。
テレーゼ：それはいいわ。天国の父さんとノーベルトも喜ぶわ。
朗　　読：ヨハン先生は、さっそく筆をとり、ブルグミュラー 25 の練習曲を書き上げました。おしまい。

※１　演奏の際のリピートについて。初版の記録を重んじて、昨今では冒頭部へのリピートが一般的となっているが、このレクチャーコンサートでは第５小節に戻り演奏した。
※２　ブルクミュラーの作品は、Kleine Franz List（小さなフランツ・リスト）の 180 の音楽的なピアノ曲として記録が残されている。

４．研究の総括と今後の展望

本研究では、展示とレクチャーの二つの形式からブルグミュラーの魅力と教育的価値を多角的に伝えるための試みを行った。展示では、様々な出版社の楽譜を提示し、それらを比較することで異なるアプローチや共通点を探った。ここから浮かび上がる共通点は、作曲者自身が伝えたかった核心部分であると考えてもよいであろう。展示を通じて、情報の

整理が進み、音楽への興味を喚起する場として有意義であったと感じている。さらに、ピアノ指導者や学習者がこのようなイベントを手がけることも、今後の新しい試みとして大きな展望があると考えている。

レクチャーでは、朗読とピアノ演奏を組み合わせた形式に挑戦した。通常、演奏者と朗読は別々であるが、演奏者が朗読も担う形で行った。昨今では指揮者の佐渡裕氏が朗読を交えたコンサートを行ったが、すでにクラシック音楽が幅広い層に浸透している日本においては、背景を理解しやすい形で提供することが求められている。物語形式のレクチャーは、その方向に沿ったもので、教育的な手法としても今後さらに発展していくであろう。以下は来場者によるアンケートの記録である。このアンケートからも本研究で試みた朗読と演奏を組み合わせた形式に対して、興味関心が高いことがうかがえる。

５．来場者によるアンケート

「展示をご覧になった感想をお願いします。興味の惹かれた展示とその理由をお書き下さい」

【展示項目１】

・ブルクミュラーの顔が見られて面白かった。（一般）・ブルクミュラーがかっこよかった。（子ども生活学部学生）・顔がとても面白かった。・とても興味を持った。（音楽科卒業生）・ブルクミュラーさんを知ることができた。（人間福祉学科卒業生）

・写真を見て興味を持った。興味がひかれた。（一般）・３人の性格の違いが現れていて、面白かったです。（一般）・名前は知っていたし、いろいろな作品を私も弾いてきたが、こんな顔だとは思わなかった。（音楽科学生）

【展示項目２】

・実際CDの内容を手に取って見させていただけるのは面白いです。（一般）

・曲のイメージを絵にして伝えることを『ピアノ指導法』の学習に取り入れている点が素晴らしいと感じた（一般）

【展示項目３】J.Fブルクミュラーと同時代に活躍した作曲家とその影響

・様々な楽譜があって興味深い。（子ども生活学部学生）・具体例を持っての関連性の考察、もっと詳しく他の作品についてもあれば見たかったです。（一般）・姉が使っていた楽譜の本があり、親近感が湧いてきた。（一般）・同じ楽譜でも、様々な出版社がそれぞれ出版していて、とても興味深かった。（音楽科学生）・ブルクミュラーは、いろいろな人に影響与えていたことに驚きました。（食物栄養学科学生）・ブルクミュラーを練習しているので、とても興味を持ちました。（一般）

【展示項目４】J.Fブルクミュラーのアドベントカレンダー（ピアノ指導法受講生による作品）

・絵を見て、昔弾いた曲を思い出し、懐かしい気持ちになった。もう一度改めて弾きたくなった。穏やかで楽しい気持ちになった。（子ども生活学部学生）・とても興味を持った。（音楽科学生）・教育が素晴らしいと思います。（一般）・絵がうまい。どれも個性



学生作成によるブルグミュラーの
アドベントカレンダー

が出ていて見ていて飽きなかった。(一般)・子どもが毎日音楽を勉強しているので、25練習曲に興味がひかれました。(音楽科保護者)・絵が可愛かった。(食物栄養学科学生)
・かわいい絵がたくさん並んでいて、私も描いてみたくなりました。(一般)・アドベントカレンダーにすると言う発想が面白かったです。素敵ですね。(一般)・曲の内容を絵にするのが楽しいなと思いました。(一般)・ブルクミュラーコンクールに出る息子によかった。(一般)

◎レクチャーコンサートを聴いた方の寄せ書き

・普段あまりこのような音楽は聞かないのですが、勉強してみたいと思うようになりました。(一般)・世界感がとてもよく現れていて、どの曲も物語と合っていて素晴らしかったです。もう一度聞きたいです。(音楽科学生)・娘が先生の授業を受けているので来ました。素晴らしい先生の指導を受けていることを知り感激しました。(音楽科学生保護者)
・演奏も素晴らしく感動しました。このような演奏会を無料で聴かせていただいき申し訳ないです。お友達も連れてくればよかったです。(音楽科学生保護者)・同じコンサートをまたしてほしいです。その時は必ず行きます。(音楽科学生保護者)・初めてピアノ演奏を拝聴したのですが、お話と演奏で情景をイメージするのが楽しく今後もこのような演奏会を聞いてみたいと思いました。(一般)・やった曲の背景がわかって嬉しかった。とてもためになった。また機会があればやって欲しい。(音楽科学生)・ブルクミュラー part2お願いします。 モーツァルトの日常もお願いします。(一般)・とても素晴らしかったです。娘が幼少の頃ピアノ教室に通っていました。年に1度の発表会、本人より親の方がとても楽しみにしていたものでした。あれから時が流れて本日、演奏を聴かせていただきました。美しい絵と物語が素晴らしく、娘に聴かせたかったなぁと思いました。私の胸には、幼い娘の顔が浮かびました。ありがとうございました。(中略)・演奏はクオリティーが高く、ドイツ的な香りや、ロマン派の持つ内面的な響きをたたえていて、品格高い時間が流れていた。・朗読はオリジナルストーリーながら、登場人物やストーリーが自然で、センス溢れる内容。興味深く聞くことができた。・ブルグミュラーの25の練習曲という、小さい子が必ず通るであろう題材で、小さい子にも保護者にも、とてもためになり、興味深い題材だった。・統制のある構成で、レクチャーに相応しい勉強になる内容だった。・馴染みある作品として、一般の来客にも飽きさせないテーマであり、創意工夫のある設定であった。・音の洗練がされ、アンサンブルホールに適した音響バランスでした。クリアな音色から深い音色まで、ピアニストとして学び多き演奏内容でした。・万全な準備で、伝えたい主旨のわかる素晴らしいレクチャーと演奏だった。・どなたにも馴染みやすいテーマ（ブルグミュラー）でしたので、一般の方々にもわかりやすかったと思う。・西欧の息吹を感じる演奏だった。・内容が極めて充実していた。準備には相当の労力がかけられていたと拝察します。・物語形式で、最後まで


レクチャーコンサートの様子

飽きさせなかったと思う。・今後のレクチャーPRとして、テーマとなる作曲家のキーワード（今回ならば、楽譜のコピーや、顔写真、Bluetoothを使用した音源発信など）で、飾り付けに取り込んだり、来場者の気を引かせる音を流すことも一案かと思います。・ドイツ語で言いっぱなしのことが数回あった。日本語を付け加えると良かったのでは。・配布された資料は、大変分かり易いものでした。個人的には先生の流暢なドイツ語がナレーションとして生かされていたので、配布資料にドイツ語による解説（邦訳付き）でさらに世界観を堪能出来たらと思いました。

実施日

・2024年11月16日（土）・17日（日）10：00～15：00

特別展示　本学図書館閲覧室

・2024年11月16日（土）13：15～14：15

記念レクチャーコンサート１号館アンサンブルホール



2024図書特別展示と
レクチャーコンサートのチラシ


彩音祭 2024 宇都宮短期大学図書館 特別展示

レクチャー＆コンサート

2024年11月16日(土) 13：15～14：15 アンサンブルホール
演奏＆レクチャー：田島恵理

ブルクミュラー没後 150 年記念企画

J.F.Burgmüller
ヨハン・フリードリヒ・フランツ・ブルクミュラー
1806 年 12 月 4 日　生誕
1874 年 2 月 13 日（67 歳没）

ブルクミュラーはドイツのレーゲンスブルクで生まれた。父はオルガン奏者指導者のヨハン・アウグスト・フランツ・ブルグミュラー（1766 年～1824 年）。のちにデュッセルドルフ市音楽監督となった。1832 年以降は 1874 年に没するまでパリを中心に活動し、ピアノ曲（25 の練習曲作品 100 や 18 の練習曲作品 109 など）のほか、少数のオペラバレエ音楽などを作曲している。同のノルベルト・ブルクミュラーも作曲家・ピアニストとして将来を有望視されていたが、26 歳で夭折した。デュセルドルフで行われた葬儀では、ノルベルトの親友であったメンデルスゾーンの葬送行進曲に合わせて葬られた。(https://ja.wiki.org)

ブルクミュラー自身について詳しく知る人は少なく、演奏会で取り上げられることも余りありませんが、25 練習曲作品 100 は、ピアノに親しむ者が一度は手にし、ロマン派作品を味わう入口の教材として親しまれています。レクチャーではヴィルトゥオーゾ作品との共通点やその魅力を紹解きます。

Burgmüller 25 Etudes faciles
25 の練習曲　作品 100
『ピアノのためのやさしく段階的な 25 の練習曲
小さな手をひろげるための明解な構成と運指』

1　すなおな心
2　アラベスク
3　牧歌
4　小さな集会
5　無邪気
6　進歩
7　清らかな流れ
8　優美
9　狩り
10　やさしい花
11　せきれい
12　別れ
13　なぐさめ
14　スティリエンヌ
15　バラード
16　あまいなげき
17　おしゃべり
18　気がかり
19　アヴェ マリア
20　タランテラ
21　天使のハーモニー
22　舟歌
23　帰り道
24　つばめ
25　貴婦人の乗馬

レクチャーコンサート当日配布資料

リトミック実践講座を実施して

Report and discussion on the implementation of the Eurhythmic Practice Course

小　倉　郁　子

１．企画した経緯

私は高校～短大までの５年間、リトミックを授業の一環として受けてきた。私の音楽表現に対する土台は、そこで養われたと思っている。しかし現在の学生は、学生時代にリトミックに触れることがなく卒業していく。そして演奏者や指導者となる。その現状を残念に思う。そこでリトミックを体験して、自らの表現に、そして指導者になるための拠り所として活用して欲しいと思い、特別講座を企画した。将来は私同様に授業として単位を認定できるようにすることを目指したいと思っている。

２．リトミックとは

はじめにリトミック創案者のジャック＝ダルクローズの言葉を記しておこう。

「指がいくつかの鍵盤のキーの上を柔らかくすべってゆくためには、ある特定の音を韻律的に、あるいは情動的にアクセントをつける必要がある。指と手首は軽く･重く･活動的に･受動的に･微妙にそして厳格に・交互にその性質を切り替えなければならない。そのために、演奏するには様々な強さや感触･ニュアンス等を、全身を通して感じることが出来なくてはならない。」

当初、演奏において音楽の良い流れを効果的に作り出すことが目的であった頃の言葉である。その後プログラムを進めるにつれて、リトミックは演奏に大きく影響すると共に目的以上の結果を与え得ることが判ったのである。

当時ダルクローズが教鞭をとっていたジュネーブ音楽院の学生たちの、音楽家としての資質とリトミックの影響が生活の中にまで及んでいった結果から、リトミックは心の健康と身体の動きの均衡化を図る方法として発展し実践された。そして、身体の感覚組織・情動を喚起することへの影響を理解し、心の記憶と創造的機能を調和させる方法を発見し、人間の行動における３つの側面「身体・頭脳・心」をバランスよく育むことが大切であるとの考えに至った。この３つの側面がうまく働いた時に、人は自然で均衡の取れた状態になり表現力・洞察力・想像力のレベルが高まることに彼は気づいたのである。最終的に、身体と心と精神の統合はダルクローズの教育原理となった。リトミックは音楽的感覚と音楽的知識を調和させ探求する方法である。ダルクローズにより、教育原理に基づいた学習能力を増大させる方法と音楽教育・教育一般の質の向上をさせる方法が考案された。

その後リトミックは音楽教育を超え、人間性を増すための一般教育となった。現在では音楽分野だけでなくセラピー（治療）・リハビリテーション・特殊教育の分野へと広がった。またダンサー・演劇人・体操家・詩人・画家の訓練にも有効であり、実践されている。各

分野において、リトミックの理解・定義・範囲・関心・目標などに大きな相違が出てきているのはこの広範囲への浸透の結果である。

３．開催目的

・音楽で感じたことを身体で表現することを体験させる。
・音楽に対する感受性や想像力を高める。
・自身の演奏表現力を磨く。
・幼児への音楽指導をする場合に役立つ。
　以上の目的をもって学内・学外の２コースを実施した。

［学内リトミック特別講習会］
・演奏するにあたって必要なリズム感、音感、表現力などを身につける。
・リズムをベースに表現するための基礎的な動きを習得させる。
・生きたソルフェージュ・音楽理論の融合を身体で感じ表現することを実践する。
・将来音楽指導をする場合に役立つ指導法や即興演奏の方法を学び、実践できるようにする。

［学外リトミック公開講座］
・音楽指導者に、本学でもリトミックが学べることを周知する。
・一流のリトミック指導者による体験を提供することで来校の機会を作る。
・同窓生や一般の指導者でリトミック指導をしている指導者にスキルアップの機会を提供する。

４．学内リトミック特別講習会の状況報告

形　　態：５回シリーズ、４回以上受講した
　　学生には修了証を発行する。
担当講師：大島美知恵先生
会　　場：５号館　保育実習室



［講習内容］

１年目　令和３年実施日（5/12、7/12、8/30、11/8、12/20　いずれも月曜日）
受講時間　９・10限
修了認定者　１年生：10名　２年生：７名　合計17名

２年目　令和４年実施日（5/16、7/11、8/29、11/7、12/19　いずれも月曜日）
受講時間　９・10限
修了認定者　１年生：８名　２年生：４名　研究科：２名　合計14名

３年目　令和５年実施日（4/27、5/18、5/25、7/13、7/27　いずれも木曜日）
受講時間　１年生　３限　２年生・研究科　２限
修了認定者　１年生：11名　２年生：４名　研究科：３名　合計18名

４年目　令和６年実施日（4/25、7/4、7/11、7/18、7/25　いずれも木曜日）
受講時間　１年生　３限　２年生・研究科　２限
修了認定者　１年生：５名　２年生：２名　研究科３名　合計10名

５．学外リトミック公開講座の状況報告

形　　態：毎年９月23日（秋分の日）に実施する。
第１講座（13：00～14：30）　第２講座（14：45～16：15）２講座開催
２講座を受講した参加者には修了証を発行する。

招聘講師：大城　依子先生

プロフィール：国立音楽大学教育音楽科リトミック専攻卒業。
ジュネーヴ、ダルクローズ音楽院卒業。ダルクローズ・ライセンス取得。ジュネーヴ高等音楽院にてダルクローズ・リトミック修士課程修了。
現在、國學院大学非常勤講師。
都立高等学校市民講師。

会　　場：１年目（令和３年）多目的アリーナ
２年目～４年目（令和４年～６年）
５号館　保育自習室



講座内容

令和３年　第１講座「身体を使っての基礎講座」
ダルクローズのメソッドについて／ビート（拍）を感じる他。
第２講座「実践的キーボードの研修」
様々な和声／長３・短３和音／全音音階・メシアン音階他。

令和４年　第１講座「身体を使っての基礎講座Part2」
ダルクローズの３要素「リトミック・ソルフェージュ・即興」
第２講座「実践的ソルフェージュ＆ティーチング講座」
ソルフェージュエクササイズ／テレマン「スケルツィーノ」他。

令和５年　第１講座「子どもたちの公開レッスン」
歩く／拍／即時反応／フレージング／身体表現他。
第２講座「ダルクローズ・リトミックの理論と実践」
生徒との関わり方Q&A ／即興演奏Q&A他

令和６年　第１講座「基礎講座（ダルクローズ・リトミック体験)」
リズム感覚を磨く／リトミック教具紹介他。
第２講座「発表会やイベントでできる動きと音楽（クリエーション活動)」
アンサンブル／形式／拍子／グループワーク他。

修了認定者　令和３年　一般：22名　学生：９名　　合計31名
令和４年　一般：22名　学生：９名　　合計31名
令和５年　一般：27名　学生：８名　　合計35名
令和６年　一般：14名　学生：５名　　合計19名

アンケート結果

［学内講座］2021年～2024年　４回実施　回答者４年間延べ人数53名

⑴　講習会を受けて楽しかったですか？
「とても楽しかった・やや楽しかった」を併せると４回とも100％であった。

⑵　リトミックを学んで為になったことは何ですか？
子どもたちへの指導法：36名　自分の音感を養う：26名　音楽を楽しむ：28名

⑶　今後もリトミックを学びたいですか？
「とても思う・やや思う」を併せて51名　どちらともいえない：１名　無記名：１名

⑷　今後どちらをより多く学びたいですか？
自分のためのリズムゲームやエクササイズ：８名　子どものための指導法：38名
無記名：７名

⑸　次年度の学内リトミック特別講習会を受講しますか？（１年生のみ）
はい：13名　検討中：21名　いいえ：６名　無記名：２名

⑹　リトミックの指導資格を取得したいですか？
「とても思う・やや思う」を併せて42名　どちらともいえない：７名
あまり思わない：３名

以上の結果により、参加者は、リトミックの楽しさ及び自分の表現力を養うためのツールとしても理解しつつ、受講していたことがわかる。しかし項目３－⑸の質問に対して「検討中」が多いのは改善の必要があると言えよう。その理由として､学生からは「９－10限ではなくもっと早い時間帯にしてほしい」という要望があった。それに応え３回目からは早い時間帯にしたものの、他の授業との兼ね合いもあり、思うようには改善されていないのが現状である。

リトミックを単位認定教科にするには、多くの課題があることを認識した。

一方、子供への指導法を学びたいと思っている学生が多いという結果は喜ばしいことである。しかしながら、少子化のためか、音楽の指導者としての将来の人生設計が立てづらいようで、将来の職業として音楽の指導者を選ぶ学生が激減している。実に悲しいことである。それでも項目３－⑷で指導法を学びたいと思っている学生が多いということが判明し、私にとっては朗報である。演奏する人が増えても、次の時代を担う子どもたちを指導する者がいなければ、音楽の分野は衰退してしまう。指導者は潤滑油として音楽の世界を機能させなければならない。将来有望な子ども、才能ある子どもたちを育成できる指導者、世の中の光として夢や豊かな心を届ける演奏者がバランスよく機能してこそ音楽の価値があると思う。

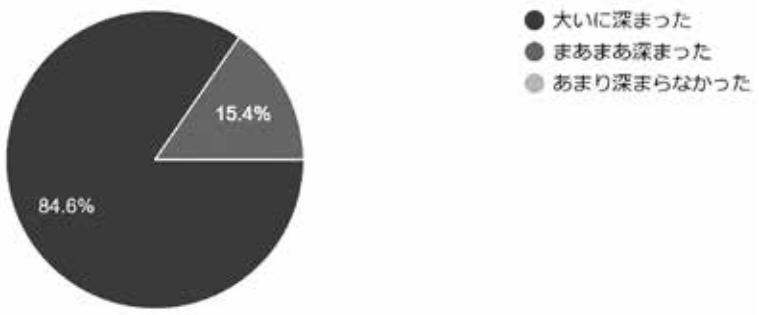
［学外講座］　2021年～2024年　４回実施

⑴　講座に参加して関心や興味が深まりましたか

2022年



2024年



2021年～2123年は94％以上であった。2024年が低いのは次のような要因が考えられる。すなわち、リトミックの集大成としての表現（クリエーション活動）を発表会やイベントでどのように披露するかという内容であったが、受講された方々には高度な内容であり、方法を知るということは大切だが、すぐにレッスンに役立つかという点ではまだ先の話ということであろう。

自由回答のところでは、

・実際に役立つ指導法を知りたい。
・楽器を使った指導法を希望する。
・親子で参加できるリトミックを教えて欲しい。

リトミック指導の入り口でのノウハウを希望している受講者が多いことを示している。

⑵　公開講座を知ったきっかけ

2022年



2023年



「知り合いからの方からの誘い」は４年とも50％弱で安定している。３年目から「チラシやＨＰを見て」が急増していることは、数ある催事等でチラシを配布してきた効果と考えられる。

⑶　次回に参加したいか

2024年



「是非参加したい」と「都合がつけば参加する」を含めると４年間とも100％である。

この結果から、参加者は受講して充実感が得られるのではないかと考えられる。リトミックの講座は、頻繁に開催されないことと、知識を得るための講座ではなく参加型であることが影響しているのであろう。また、オンラインでは習得しづらい内容なので、地道に会を重ねて参加者を募る努力を続けることが必要と考える。参加者の中には個人のリトミック指導者だけでなく、幼稚園教員の方々も参加くださっていたので、これからは幼稚園・保育園にも周知するように改善していきたい。

６．現在のピアノ指導者の現状

現在のリトミックは音楽の分野だけでなく､福祉･演劇･身体で表現する分野（体操､ダンサー、

バレー等）でも活用されている。ここでは自分がピアノ指導者として長年携わってきたことと、学内・学外でリトミックの講座を立ち上げたという立場の視点で音楽分野に限って述べる。

リトミックは幼児教育の導入として定着している。しかし、音楽学習の入口として定着しても、その後に発展させた指導ができているだろうか。長年ピアノ指導に携わってきたが、上手にリトミックを活用している指導者が少ないように思える。リトミックを学ぶ指導者は多勢いるが、リトミックを極めるには厳しい道のりのためか、生徒と同様、入口だけのノウハウを学ぶところで習得をストップしている指導者が大半のように思う。そのためにリトミック教育を土台にして発展させることができていないようである。これは実に残念なことと考える。

項目２で記述したように、ダルクローズは音楽の演奏効果を上げるためにリトミックを考案したのが発端である。より良い演奏をするために身体で表現することを学び、其々の楽器演奏に繋げていくことを目指したのである。そして、その習得には幼い頃から学ぶことが有効であると考え、幼児指導の指導法として確立していったと思われる。しかし、導入期にリトミック教育を受けた生徒が、一人前の演奏が出来るようになるまでリトミックを学び続けている例は少ない。リトミックの必要性を感じているのは導入期のレッスンを担う指導者に他ならないのではなかろうか。指導方法の一つとしては定着しているものの、音楽を学ぶ子どもたちが豊かな演奏力のある生徒に育てていくためのリトミックとしては浸透していないように思う。リトミックは人間形成まで大きな影響を及ぼすのであるから、人格が完成するまで継続してその全体像の習得に努めるべき分野だと思う。しかし導入期だけのリトミック教育までで滞ってしまうのは、「リトミック＝幼児教育」というイメージの定着が足かせになっているのではないだろうか。

７．講座を実施しての成果と今後の課題

学内講座を実施してみて、学生にリトミックという存在を周知できたことは一歩前に進めたと自負している。受講している様子から、「リトミックってなに？」から始まり、身体で音楽を表現することの面白さは伝わったと思う。笑顔の絶えない時間であった。リズムや和声も楽譜や和声学の授業でしか知らなかった学生が、生きたソルフェージュとしてリトミックの中で体験する。空間認知能力を高めることや立体的に表現することを、身を以て学ぶのがリトミックだと実感できたと思う。１年間にわずか５回という体験回数でも、１年生から研究科２年までの世代が、最も多い場合には最長４年間で20回受講することになる。４年目の本年に20回受講した学生が卒業を迎える。この学生はピアノ指導者を希望しており、その成果を期待するところである。実際この学生は演奏力も向上し、自信も持てるようになった。この学生だけでなく研究科の学生は皆、演奏力・人間的成長もバランスよく育っている。まさにダルクローズ教育の成果と言えよう。

ここから今後の課題について考えてみる。現実としては、将来指導者を希望する学生が減少している。演奏には魅力を感じても、指導者になりたいとは思わないようだ。その実態を鑑みて、１年生は入学直後であるため、演奏力を磨くことに力を注ぎたいと考えている学生が多いと推測される。そこで募集の段階では、演奏表現に大いに影響を及ぼすことをアピールする。その後徐々に幼児指導の指導法を導入するのはどうか。学生のニーズに沿った周知内容やカリキュラムへと見直すことが必要と考える。

学外講座の方では、全国的に有名な講師をお招きしたことで、参加者に充実感のある講座を提供できたと思う。４回８講座というハードなスケジュールであったが、大城依子先生のカリキュラムに自然と導かれ、２講座終了時には爽やかな快感を得て身体も心もリフレッシュした面持ちだった。

最初の２年間はリトミックを指導者が習得すべきことを中心に学んだ。身体でソルフェージュを習得する体験は集中力と即時反応を必要とし、楽しい中にも緊張感のある講座だった。３年目は子どもたちのレッスンを見学した。大城先生のアイデア豊富なレッスン、子どもたちの反応を見ての導き方等解説を交えての充実した講座となった。大城先生の即興演奏を間近に聴くことができたことは貴重な経験であった。美しい響きとともにハーモニー進行の素晴らしさ。リトミックの伴奏にベートベンのソナタやバッハの作品が使われるとは驚きであった。そして４年目は集大成としてのクリエーション講座であったが、アンケートのところでも述べたように、今回の受講者たちには高度な内容であったようだ。

今後の開催において受講者のニーズに沿った内容を主としつつ、受講者の実力が向上するような学びの場を提供することを目標にしたいと思う。そしてリトミックで培ったソルフェージュや空間認知能力などを駆使して、豊かな表現のできる生徒へと導ける指導者を育成する講習会として位置付けていきたい。

参考文献

ジュリア・ブラック他　2012. ピアノレッスンのためのリトミック. カワイ出版

L. チョクシー他　1994. 音楽教育メソードの比較. 全音楽譜出版社

栃木県の音楽文化事情について

～下野新聞「日曜論壇」（令和6年3月～8月）寄稿の報告として～

About the music culture situation in Tochigi Prefecture

～As a contribution report to Shimotsuke Shimbun "Sunday Rondan"（March to August2024）～

新　井　啓　泰

栃木県民から広く愛読される県域新聞、「下野新聞」には、文化・教育・経済・政治等の話題を、各分野の専門家がわかりやすい形で伝える読み物コーナーとして、日曜論壇というコーナーがある。

日々目まぐるしく入れ替わる時事ニュースとは違い、栃木県の今を、市民目線に寄り添いながら、具体的に肌感覚で感じられる読み物として、人気である。

今回、私は令和６年３月から８月の間、月一回、計６回にわたって、寄稿させていただいた。

自分の専門である音楽や大学の教育に軸を置きながら、地域の音楽文化や、文化的な市民生活などについて、思うところを書かせてもらった。

都心の真っ只中で、世界の一流アーティストの公演に日頃から親しんでいるのも文化的な生活かもしれないが、地方都市で、その土地の文化や、芸術家、地域の特性を活かした街づくりとともに、文化的な生活のあり方を考えることこそ、大切なことだと思っている。

生活の中で「音楽」との接点は、多かれ少なかれ、どんな人にもあるだろう。ただ、それが文化や教育、生活の面でどのような意味があるのかは、機会がなければ、思い返すこともないのではないだろうか。

なるべく栃木県民に身近な話題で、わずかな時間でも読者が文化的な部分に想いを寄せてもらうきっかけになれば嬉しい、との願いを込めている。

故郷・栃木が、より音楽と共に文化の香り高い街になることを願い、本学紀要に新聞投稿から一部修正し、改めてまとめることにする。

アーティストが果たす役割（下野新聞令和６年２月18日掲載）

エフエム栃木の番組「音楽のミナテラスとちぎ」でパーソナリティーを担当している。毎週土曜日の朝、本県ゆかりのクラシック、ミュージカル、吹奏楽、邦楽、ジャズといった音楽家や文化団体関係者など多彩なゲストを迎え、トークと演奏、音源などから、その魅力に光を当てる、という内容である。日頃華やかなステージで活躍する人たちの、普段着のままの飾らない話しぶりが好評である。

ゲストに共通しているのは、自分を育ててくれた本県への郷土愛と、地元の文化振興にその力を還元したいという強い思いである。昨年秋、番組に出演された「とちぎミュージカル協会」会長の稲見けい子さんも、そのような高い志を持った一人だ。

1992年、現在の「こどもミュージカルどりーみんぐ」を設立。多くの作品を手がけ、指導を通して後進の育成や次の世代を担う人づくりに貢献されてきた。また「いちご一会とちぎ国体とちぎ大会」の文化プログラム事業としてオリジナルミュージカルの総合プロデュースを務め、大きな功績を残された。

これまでの歩みを話される際、出会う方が次々と稲見さんを助け、活動の幅が大きくなっていく過程が印象的だった。本年度の県文化功労者にも選ばれた。ミュージカルの分野で本県初の受賞である。

ミュージカルは総合芸術で、ストーリーが分かりやすく、歌唱、ダンス、振り付けなど親しみやすいのが特徴だ。稲見さんの手がける作品は、本県の民謡や八木節などもご自身で収集され、伝統と時代のスタイルを見事に調和しながらまとめ上げていく。一つの作品にかける情熱とまれな手腕に敬服する。また多様なジャンルの専門家が魅力的な人柄にひかれ、惜しまぬ協力で一つの作品に凝縮されていく。まさに舞台裏にある人間ドラマといえよう。

その大きな流れは、次女でとちぎミュージカル協会副会長の井波知子氏に引き継がれ、さらに県内初の高校ミュージカル専攻が宇都宮短期大附属高音楽科に新設されるなど、次の世代の活躍も期待されている。

文化・芸術に携わる人とは、その土地の風土、空気、街、人と生活から、芸術的な作品と感興を生み出し、社会課題に光を与える。その存在は、人間の営みの発露そのものである。発信する作品や声とその魅力は、まさにその土地の魅力を反映している。

とちぎ未来づくり財団は「とちぎアーティストバンク」というウェブサイトを運営している。本県ゆかりのアーティストや文化関係者の情報をインターネット上で発信し、文化施設や事業者のみならず、市民レベルでのマッチングを図っている。

県民の芸術文化への関心を高めるためには、行政や民間、教育機関など多方面からアプローチしていくことが大切である。県民一人一人へ、そして県外や世界へ、本県の魅力、文化力を発信し、つなげていくのは、本県を愛するアーティストたちの役割なのではないだろうか。

教育機関が支える文化力（下野新聞令和６年３月24日掲載）

卒業シーズンを迎え、今年も無事に学生を送り出した。卒業生は社会人になって、どんな未来を描いてくれるのだろうか。

卒業式でマスクを着けずに全員で校歌や「蛍の光」を歌ったのは５年ぶり、という学校も多かっただろう。青春時代を過ごした仲間と声を出して歌う特別な感情や思い出は、かけがえのないもの。卒業の喜びと別れの寂しさを、学生とともにかみ締めることができた。

宇都宮短期大は1967年に創立され、現在は音楽・人間福祉・食物栄養の三つの学科がある。音楽で心を豊かに、福祉で困っている人を助け、食から健康を守ることを目的として、地域の暮らしに必須な「エッセンシャルな専門職」を育てている。

附属高では県内初の音楽科を創設して今年で60周年を迎えた。卒業生は３千人を超え、世界的な演奏家や地域の音楽指導者を輩出している。

短大・高校のキャンパスには、それぞれ県内屈指の音響を誇る音楽ホールがあり、学内

行事だけでなく、著名な演奏家によるコンサートや、コンクール、ピアノ発表会など、活気にあふれている。教育機関でありながら、地域の文化活動の拠点となっている。

卒業生が中学校の音楽教員や地域で活躍する音楽指導者となり、生徒を連れて本学ホールで演奏会を開催したり、学び直しのリカレント研修会に参加したりするといった姿を、週末ごとに見ることができる。地域の文化活動を支える人材を育成し、卒業後も支援する。つまり、地域に開かれた大学として、教育・研究活動の柱になっている。

新型コロナ禍の際には音楽の文化的・教育的な価値が問われた。しかし本学では、PCR検査機器を学内に設置し、感染予防パネルや強力な換気装置を用いて、実技レッスンを一日も休まなかった。

自家用車の中からFM電波を利用して鑑賞する「ドライブ・イン・コンサート」、配信型のピアノ発表会、大谷地区振興の屋外音楽祭、幼児向けの音楽ワークショップ、ホールでの無料ピアノ体験など、次世代の文化の担い手を育てることに努力してきた。

制約の多い苦しい時期だったからこそ、心に潤いを与える文化的な活動が、人間にとって不可欠なものだと改めて認識することができた。人との共感、社会とのつながりがあってこそ、心が安らぎ、寄り添い、感興を愉しみ、生きる喜びを感じられるのだ。

アフターコロナの今、ほぼ以前の状況に戻り、コンサートはどの会場もすごい熱気だ。人々は文化の絆により、結束を取り戻した。

「文化力」という言葉がある。文化の持つ、人々に元気を与え、地域社会を活性化させて、魅力ある社会づくりを推進する力、という意味である。

文化的な活動の価値を理解し、守り、育て、循環させ、活気に満ちた地域社会づくりを目指す。そのために地域の教育機関には、社会のハブとしての役割を担う使命があると確信している。

地域が育てる新人の舞台（下野新聞令和６年４月28日掲載）

栃木県出身のクラシック音楽家といえば、どんな方を思い浮かべるだろうか。

例えば、故小澤征爾（おざわせいじ）氏に見いだされたチェリスト宮田大（みやただい）や令和天皇御即位国民祭典で国歌を独唱したオペラ歌手の森谷真理（もりやまり）は、本県が世界に誇る演奏家だ。スポットライトに浮かび、華やかな舞台で称賛の拍手を浴びる姿は、音楽を学ぶ若者を魅了する。

芸術家の卵たちは、そんな先輩の背中を追いながら、自らの技量と個性を、いつの日か大勢の聴衆に示せるよう日々、切磋琢磨（せっさたくま）している。

四半世紀前の東京芸術大の入学式での学長あいさつの一言は、私にとって忘れられない衝撃だった。「大勢の新入学生の中で、将来、アーティストとして輝けるのは、たったの１人か、２人です」と。最難関の入試を乗り越えた気鋭ぞろいの若者に、見事なまでに冷や水を浴びせる「呪い？」の言葉であった。

芸術の世界の厳しさを表す、精神論染みた物言いだったかもしれないが、大変な世界に飛び込んだものだと受け止めざるを得なかった。

今、Ｚ世代と言われる若い芸術家に同じ言葉が放たれたならば、それは、どう心に響くのか。デジタルコンテンツや交流サイト（SNS）を使いこなし、自分自身の表現方法を身

に付け、発信することにたけている。

こうした新しい時代の潮流を感じられる機会が、５月12日に県総合文化センター大ホールで開催される県新人音楽家演奏会だ。県や企業の協賛を得て、とちぎ未来づくり財団が主催し、今年で４年目を迎える。

宇都宮大共同教育学部や宇都宮短期大音楽科に加えて東京芸大、桐朋学園大、東京音大、国立音大、武蔵野音大、洗足学園大、昭和音大、上野学園大など、首都圏音大の学長推薦を受けた本県ゆかりの学部新卒者だけが出演できる。まさに登竜門であり、故郷に錦を飾る凱旋（がいせん）ステージである。

県のサポートには、文化振興による地域の魅力向上への熱い思いが込められている。当日のロビーには、各大学のブースが設けられ、同窓生たちの交流の場となる。音大を目指す生徒児童が、真剣に情報を集める姿も印象的だ。県内の音楽関係者が一堂に会して、大にぎわいとなる。

行政、財団、教育機関、音楽に携わる企業、プロからアマチュアまでの音楽関係者が見守り、応援する。このような理想的な新人演奏会は全国的にもまれであり、本県の文化力の高さを物語っている。

音楽の世界で身を立てることは、確かに厳しい。この舞台に立ったとして、一流の演奏家としてやっていけるとは限らない。それでも地元が用意してくれたステージは、温かい応援と未来を担う芸術家への期待にあふれている。出演者には、ひたむきに精いっぱい、最高の演奏を奏でてほしい。

私たちは、こうした若者のみずみずしい音楽に耳を傾け、世界に羽ばたく次代の音楽家を地域の力で育てようではないか。

地域の発展促す音楽活動（下野新聞令和６年６月２日掲載）

明治維新後の教育改革で創設された県内の多くの小中学校が昨年、創立150周年を迎えた。

筆者は勤務校の学生や教員と共に、いくつもの学校の式典で記念演奏の機会をいただいた。子どもたちが、クラシックに集中して耳を傾け、ディズニーソングを口ずさみ一緒に踊り、多様な曲想を自然な感性で楽しむ健やかな様子に、新型コロナウイルス禍の終息を実感した。締めくくりには、校歌を大きな声で誇らしげに歌ってくれた。

学校教育における音楽教科の目的は、単に音楽史の理解や演奏技術の習得にとどまらず、世界や地域に関わる文化の理解や多様性の尊重など多岐にわたる。幼少期から思春期における演奏の感動や体験は、子どもの成長に欠かせないものである。

授業での合唱や吹奏楽部の活動は、人格の調和的発展に資するという教育的な意義が大きい。さらに成長し社会人になると、さまざまなコミュニティーでの合唱団やオーケストラ、吹奏楽団などへの参加につながる。

こうした活動は、街の活気を生み出す。そして、学校や街からプロの演奏家や音楽教師も輩出されるようになる。

その実践例が、県内の市民オーケストラで最も伝統ある県交響楽団だ。1970年、宇都宮短期大学・宇都宮大学の有志や宇都宮交響楽団等を母体として結成された。地方のオーケストラとして初めてサントリーホールで演奏会を開催し、本県の友好交流先である中国・

浙江省にも遠征するなど、積極的な演奏活動を行ってきた。

ファミリーコンサートや初心者向け入門講座なども定期的に開催している。客席には地域の音楽ファンや家族、職場の同僚が駆けつけて温かさに包まれ、演奏も音楽への愛情と情熱にあふれている。

団員は140人を超え、来年度の創立55周年記念演奏会に向けて、毎週木曜日夜の練習にも熱が入っている。

本県出身の世界的なチェリスト宮田大（みやた・だい）さんとは、高校時代から度々、共演してきた。まさに「県民の誇りと郷土とちぎへの愛着をメロディーにのせて」のスローガン通り、草の根の音楽文化の振興に貢献している。

市民オーケストラは多様なメンバーと楽器が集まり、音を重ねることで響きを生み出す。それぞれが感性を受け入れ合い、目的を理解し、協調しながら、美しい表現を磨いていく。他にはない、集団の対面ならではの表現活動である。街の文化活動の象徴であり、街の文化力を表す貴重な地域資源とも言える。

音楽は人間の心を豊かにする。地域に根付いた音楽活動は、街の健全な発展を促し、次世代の子どもたちに文化的な橋渡しをするものと信じている。

音楽活動を支える学校・市民・プロ、この三つの階層がそれぞれ影響し合い、循環することによって、地域全体が、文化芸術の力により持続的に発展していく。自分もその一翼を担うことが使命だ、と心に念じている。

LRTで文化楽しむ街に（下野新聞令和６年７月７日掲載）

ピアニストとして欧州に留学中、さまざまな都市を訪問した。中でも文化豊かな街として印象深かったのはウィーンだ。

音楽の都では毎晩のように著名なアーティストの演奏会が開催され、それを目当てに世界中から大勢の観光客が訪れる。ドナウ川の景観やシェーンブルン宮殿、シュテファン教会などの伝統ある建築物、ホイリゲ（酒場）での白ワインとシュニッツェルといったご当地グルメも楽しめる。

宇都宮に次世代型路面電車（LRT）ライトラインが開業した際、思い出したのは、ウィーン市内を走る赤と白の昔ながらの路面電車の車窓から見える歴史的な街並みだった。ライトラインを乗り降りする人の姿は、どこか穏やかで心に余裕があるように感じるのは、その思い出に浸る私だけだろうか。

先日、ミュージカル鑑賞のため、東武宇都宮駅から県総合文化センターまで大通りを歩いて往復してみた。

飲食店街は、公演前の子供連れでにぎやかだ。帰路では信号待ちの間、俳優の感想や次の公演への期待を語り合っている。車で移動する日常とは違う景色を発見して、「歩いて楽しい街づくり」の大切さを実感した。

LRTがJR宇都宮駅西側に延伸する際には、土日の昼間は駅前大通りを歩行者専用のトランジットモールにすれば、にぎわいが期待できるのではないか。来街者には門前町・城下町・宿場町としての歴史と文化を感じて、音楽やグルメを楽しんでほしい。

市民が魅力ある文化的な生活を楽しむためには「文化の薫り高い街」と「利便性や質の

高い文化施設」が欠かせない。文化芸術に親しみやすく、音楽をはじめとする活動が盛んな環境が整えば、市民の文化への意識も高まる。ひいては、市民のアイデンティティーや地域への誇りが醸成される。

今、県内では文化施設の建て替えや新設が進んでいる。宇都宮駅東口交流拠点施設ライトキューブ宇都宮は、商業施設ウツノミヤテラスやLRTとともに新しい街づくりの旗手となり、筆者も演奏の機会を度々いただいている。足利では会館建て替えが待たれている。日光には、国際観光地にふさわしい音楽ホールの建設が望まれる。

宇都宮の県体育館跡地に、県立の美術館・図書館・文書館を「『文化と知』の創造拠点」として一体的に整備する計画も進行中だ。県立博物館から国立病院機構栃木医療センターに至る桜通り・日光街道は、かつて旧陸軍第14師団の各施設を結ぶ「軍道の桜並木」だった。それから約80年が経過し、日光につながる「文化と知の街道」として生まれ変わろうとしている。文化による街づくりの交流拠点として、先導的な役割を果たすことを願っている。

ライトラインは「自分たちの街は魅力的に生まれ変わることができる」という実感と自信をもたらした。「歩いて楽しい文化の薫り高い街づくり」への夢を乗せて走っている。

不易と流行のはざまで（下野新聞令和６年８月11日掲載）

ピアニストとして、今年３月に「とちぎ未来大使」を拝命した。これを契機に栃木県の音楽文化をより一層、盛り上げていきたいと心を新たにしている。

私は、個人のリサイタルやオーケストラとの共演のほか、県庁ロビーでのピアノ演奏や、大谷採石場跡地での野外演奏会、とちぎテレビ番組の子ども発表会のコメンテーター、エフエム栃木の音楽番組パーソナリティーなど、さまざまな活動をしている。

また学科長をつとめる宇都宮短期大音楽科では、演奏家や教員を目指す学生への講義やレッスンに励んでいる。

こうして幅広く「音楽」に関わる中で、ジャンルやプロ・アマチュアを問わず、また年齢や人種も関係なく、人々の心のよりどころとして音楽の「癒やしの力」が、コロナ禍を経て高く評価されていることを実感している。

同時に「時代の変化」も感じている。レコードやCDから、ユーチューブ、交流サイト（SNS）などの「配信の時代」となり、音楽の楽しみ方や演奏家との距離感が大きく変わった。身近に双方向のコミュニケーションがとれるようになったからである。

小澤征爾（おざわせいじ）氏や坂本龍一（さかもとりゅういち）氏といった、日本を代表し一時代を築いた音楽家が次々と世を去り、若いフュージョンの音楽家やユーチューバーが活躍している。その中で自分自身、どのような音楽家を目指すのかを考えるに当たって、大切な思い出がある。

留学中、ウィーン国立音大で小澤氏の指揮法のレッスンを見学する機会があった。マエストロは、おなじみのボストンのキャップとジャンパーで、ボサボサ頭とヒョロっとした足取り、ギロリとした目で周りを眺めるように部屋に入ってきた。あまりのオーラに目が合うとドキリとした。

戦後間もない時代、単身バイクと船で欧州に渡ると、現代作品に果敢に挑戦し、ずばぬけたバトン・テクニックと独自の世界観で世界を魅了した。アジアから来た若者が、欧州

の伝統の世界に切り込み、その圧倒的な個性を発揮する「世界の小澤」は、まさにカリスマだった。

また有能な若い音楽家と世界的に活躍する演奏家を同じ舞台に乗せて、育てていく「小澤塾」を立ち上げ、世代を超えた演奏技術の継承を目指した。彼を知る誰しもがその努力・行動力・人間力にひかれ、その場にいるだけで、オーケストラの音が変わるような存在であり、レッスンをする背中からは、すごみが漂っていた。

「その場で降りかかってきたことを精いっぱいやって、自分にできる限りの良い音楽にすることで、何とか運んでいくんだ」

時代の移り変わりの中で、自分にできることを思う時、ふと、そんなマエストロの姿と言葉が思い浮かんだ。

芸術や文化の本質は、伝統と革新、すなわち不易と流行のはざまにある。自分の信じる世界を描き出すピアニスト兼教育者として、自分もそんな背中を後輩たちにしっかりと見せていきたい。

宇都宮短期大学音楽科　特別演奏会等記録（2024年）

第171回特別演奏会　2024.6.1　須賀友正記念ホール
（リカレント教育のためのピアノ研修会　椎野伸一レクチャー＆コンサート）
①バード／ソールズベリー伯爵のためのパヴァーヌ
②バッハ／シンフォニア第２番ハ短調BWV788
③バッハ／シンフォニア第３番ニ長調BWV789
④バッハ／シンフォニア第４番ニ短調BWV790
⑤バッハ／シンフォニア第５番変ホ長調BWV791
⑥ベートーヴェン／創作主題による６つの変奏曲op.34
⑦シューマン／４つのフーガop.72から第１番ニ短調
⑧シューマン／幻想小曲集op.111から第２番変イ長調
⑨ブラームス／幻想曲集op.116から第４番ホ長調
◯レクチャー
「受け継がれたリスペクト～作曲家たちの技術と精神性～その継承と革新」
⑩シューベルト／ピアノ・ソナタ第21番変ロ長調D960
椎野伸一（Pfとレクチャー）

第172回特別演奏会　2024.7.13　須賀友正記念ホール
（音楽科教員による 音楽の花束コンサート）
①ロウ／『マイ・フェア・レディ』より「踊り明かそう」
②バッハ／無伴奏チェロ組曲第１番より
③シャミナード／コンチェルティーノ
④プッチーニ／『ボエーム』より「私の名はミミ」
⑤シューマン／リスト／献呈
⑥バーンスタイン／『ウエスト・サイド・ストーリー』メドレー
⑦グノー／アヴェ・マリア
⑧チャイコフスキー／『くるみ割り人形』より
行進曲、金平糖、トレパーク、花のワルツ
⑨サティ／Je te veux（あなたが欲しい）
⑩ラヴランド／You raise me up（ユー・レイズ・ミー・アップ）
篠﨑加奈子（S）　坪山恵子（Pf）　高島聡美（マリンバ）　大越絵梨香（Fl）　中山里紗（Pf）

第173回特別演奏会　2024.7.20　須賀友正記念ホール
（永岡信幸　ショパン・エチュード全曲リサイタル）
①ショパン／ノクターン ハ短調op.18-1
②ショパン／12のエチュードop.10
③ショパン／３つの新しいエチュード
④ショパン／12のエチュードop.25
永岡信幸（Pf）

第174回特別演奏会　2024.8.17　須賀友正記念ホール
（Tribute Concert 2024 ～届けたい、感謝の気持ち～）
①［電子オルガン：ソロ］ヒーリー／大木裕一郎編曲／ディズニー・ファンティリュージョン！
②［サクソフォン四重奏］大野雄二／金山徹編曲／サンバ・テンペラード
③［クラリネット四重奏］モンティ／森田一浩編曲／チャルダッシュ
④［合奏］アース・ウィンド＆ファイアー／センプテンバー
⑤［電子オルガン：デュオ］ウィリアムズ／稲垣千章編曲／スターウォーズ・メドレー
⑥［合奏］バーンズ／アルヴァマー序曲
⑦［合奏］和泉宏隆／真島俊夫編曲／オーメンズ・オブ・ラブ
宇都宮短期大学音楽科 電子オルガン専攻、管弦打楽器専攻、吹奏楽・アンサンブル専攻

第175回特別演奏会　2024.9.28　須賀友正記念ホール
（歌とアンサンブルによる わくわく！キッズコンサート）
［宇都宮共和大学子ども生活学部と共催］
①さんぽ
②山の音楽家
③楽器紹介～ミヨー／ピアノ・トリオ第2楽章　ビゼー／「アルルの女」メヌエット
　モーツァルト／トルコ行進曲
④秋のうたメドレー
⑤どんないろがすき
⑥星に願いを
⑦ジャンボリミッキー
⑧エーデルワイス
⑨ドレミの歌
⑩手のひらを太陽に
⑪ぼよよん行進曲
⑫にじ
　篠﨑加奈子（司会,S）　打保早紀（Vn）　栗田智水（Fl）　佐藤友香（Cl）　新井祐子（Pf）
　宇都宮共和大学子ども生活学部学生

第176回特別演奏会　2024.11.17　須賀友正記念ホール
（第58回彩音祭メインステージ　くるみ割り人形　ハイライト版　語り付き）
チャイコフスキー／くるみ割り人形から
①序曲　［合奏］
②行進曲　［合奏］
③ドロッセルマイヤー　［ピアノ独奏］
④人形のパ・ド・ドゥ　［ピアノ連弾］
⑤お客様の踊り　［ピアノ連弾］
⑥静まりかえった大広間　［アンサンブル］
⑦お菓子の国への旅立ち　［ピアノ連弾］
⑧雪の精の踊り　［合唱］
⑨お菓子の国　［邦楽アンサンブル］
⑩スペインの踊り　［アンサンブル］
⑪アラビアの踊り　［アンサンブル］
⑫中国の踊り　［ピアノ連弾］
⑬あし笛の踊り　［アンサンブル］
⑭トレパーク　［合奏］
⑮金平糖の踊り　［ピアノ連弾］
⑯花のワルツ　［合奏］
⑰終幕のワルツとアポテオーズ　［合奏］
　宇都宮短期大学音楽科 教員・学生・附属高音楽科生徒
　田村和久（指揮）　早川愛（語り）

第177回特別演奏会　2025.2.15　須賀友正記念ホール
（リカレント教育のためのピアノ研修会　赤松林太郎レクチャー＆コンサート）
①ショパン／ワルツ　イ短調（2024年公開）
②ショパン／３つの華麗なるワルツop.34
　第２番 変イ長調op.34-1
　第３番 イ短調op.34-2
　第４番 ヘ長調op.34-3
③ショパン／ワルツ第６番「小犬のワルツ」変ニ長調op.64-1
④ショパン／ワルツ第９番「別れのワルツ」変イ長調op.69-1
⑤ショパン／ワルツ第12番 ヘ短調op.70-2
⑥ショパン／ワルツ第14番 ホ短調 遺作
⑦ショパン／ワルツ第15番 ホ長調 遺作
⑧ショパン／ソステヌート（ワルツ）第18番 変ホ長調 遺作
⑨ショパン／ワルツ第19番 イ短調 遺作
　赤松林太郎（Pf）

宇都宮短期大学音楽科研究紀要編集規程

第１条　宇都宮短期大学音楽科研究紀要（以下「本誌」とする）は、本学科における教育、研究の成果を広く社会に問うことを目的として、これを発刊する。

第２条　発行者は学長とする。

第３条　本誌は、原則として年１回、３月に刊行する。

第４条　本誌の編集ならびに刊行は、宇都宮短期大学研究・図書委員会（以下「委員会」とする）が行う。

２　委員会には本誌の編集のために研究紀要編集部会（以下「編集部会」とする）を置く。

３　編集部会は研究・図書委員が務める。

４　編集部会は必要に応じて随時開催される。

第５条　本誌は次の者の論文等を掲載する。

本学科の教員が執筆したもの。

その他編集部会が掲載を認めたもの。

第６条　投稿予定者は、７月末日までに氏名、原稿種別、予定論題等を申込用紙に記し、編集部会に提出する。

第７条　原稿締切日は１月７日とする。なお、学事暦により変更する場合がある。

第８条　原稿は完成原稿を編集部会に提出し、原則として提出後の変更は不可とする。

第９条　論文等の内容については、執筆者が一切の責任を負うものとし、著作権は執筆者に属する。

第10条　投稿原稿は、編集部会及び学科長が確認する。なお、原稿の修正を求めることができる。

第11条　別刷りは50部を無償で希望する執筆者に提供する。それを超える分については、執筆者の負担とし、投稿申込時に編集部会に届け出る。

第12条　投稿原稿の種類は次のものとし、申込用紙に明記する。

論　　文：新しい事実で価値のある結論や知見を示した報告。及びこれに準じる研究調査報告、アナリーゼ、演奏法における独創的メソッドの開示など。

研究ノート：新しい事実を含む価値ある情報を示した短い報告。及びこれに準じる研究調査概況報告、アナリーゼの覚書、演奏法における独創的メソッドの覚書など。

作　　品：専門分野における創作、作曲、楽器改良の新知見など。

翻　　訳：外国の論文、研究ノート、作品などの翻訳。

抄　　録：既に刊行された著者自身の業績の要約など。

資 料 紹 介：第１次資料の発掘や紹介など。

論評と批評：教育・研究に従事するなかで得られた貴重な知見の披瀝や書評、ＣＤ評、楽譜評、ビデオ評。研究的・公開的な演奏会の批評。

報　　告：教育上の実践報告や調査報告、研修報告など。

動向と展望：学会や音楽動向の紹介・展望、研究情報など。

第13条　論文等は、原著で未発表のものに限る。ただし、学会等の大会における発表等をもとに分析、考察を深めた内容の投稿はこの限りではない。また、二重投稿は認めない。

第14条　校正は２校までとし、総て執筆者の責任で行う。体裁その他のことは、編集部会が行う。

第15条　執筆要領は、別途定める。

附則　この規程は、平成13年４月１日から施行する。

附則　この規程は、平成29年４月１日から施行する。

附則　この規程は、平成30年４月１日から施行する。

附則　この規程は、令和２年４月１日から施行する。

附則　この規程は、令和６年４月１日から施行する。

宇都宮短期大学音楽科研究紀要執筆要領

完成原稿の書式は以下のとおりとする。

（１）判型はＡ４版とし、１ページの文字数と行数は40字×39行とする。

（２）フォントはＭＳ明朝、10.5ptとし、表題のみ13ptとする。

（３）１行目に表題、３行目に英文タイトル、５行目に執筆者名、７行目から本文を始める。なお、サブタイトルがある場合は、１行ずらすこと。また、表題が２行にわたる場合なども同様とする。

（４）図表については、他のソフトで作成するか、スキャナーで読み込むなどして添付する。

（５）文献リストは、著者名、発行年、書名（題名）、出版社、ページの順とし、９ptとする。

（６）作品は図表と同じ扱いとする。ただし、写植か版下を起こすかの別は、編集部会に届け出る。

（７）句読点、括弧、各種記号は、原則として１文字分とする。

（８）註あるいは引用註は、原則として原稿末尾に一括して(1)、(2)、…のように挿入する。

〔例〕【本文中】　・・・・の分析は適切であるといえる。(5)

【原稿末尾】(5)加納良子（1986）『音楽の構想』小海出版、124～125頁

附則　この要領は、令和６年４月１日から施行する。

執筆者一覧（掲載順）

福田智久山　本学講師（邦楽）
杉山　正明　本学教授（教育）
佐藤　友香　本学講師（クラリネット）
田村　和久　本学講師（トロンボーン）
田島　恵理　本学講師（ピアノ）
小倉　郁子　本学講師（ピアノ）
新井　啓泰　本学教授・学科長（ピアノ）

音楽科研究紀要編集部会

杉　山　正　明（部会長）
阿久澤　政　行

編　集　後　記

本年度は、人間福祉学科・食物栄養学科とともに、研究紀要編集規程の改訂に取り組み、学科の独自性を残しながら、宇都宮短期大学としての統一性を深度化いたしました。

また、積極的に投稿くださった先生方には感謝申し上げます。

学校教育法第83条には、「大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。② 大学は、その目的を実現するための教育研究を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。」と記されています。（下線は筆者）

研究紀要は下線部の役目に関わるものですので、各先生方におかれましては、研究・研鑽の成果を積極的に投稿いただくことを期待いたします。

（編集部会長　杉山　正明）

令和７（2025）年３月31日発行
発行者　宇都宮短期大学学長 須賀英之
編集者　研 究 ・ 図 書 委 員 会
発行所　宇 都 宮 短 期 大 学
〒321-0346
宇都宮市下荒針町長坂3829
電話　028（648）2331
印刷所　㈱松井ピ･テ･オ･印刷
宇都宮市陽東5-9-21
電話　028（662）2511

BULLETIN OF UTSUNOMIYA JUNIOR COLLEGE

vol. 32
March 2025

CONTENTS

Work:

About The Koto trio "AOI" ····· Chikuzan Fukuda

Translation:

Bellini "ZAIRA" Italian - Japanese libretto ····· Masaaki Sugiyama

Notes for Studies:

Practice and Teaching Methods for the Clarinet ····· Yuka Sato

Basic Ensemble of shorter period ····· Kazuhisa Tamura

150 Years After Burgmüller's Death: Exhibition and Lecture Records, Educational Significance, and Initiatives ····· Eri Tajima

Report:

Report and discussion on the implementation of the Eurhythmic Practice Course ····· Ikuko Ogura

Trends and Prospects:

About the music culture situation in Tochigi Prefecture ～As a contribution report to Shimotsuke Shimbun "Sunday Rondan" (March to August2024) ～ ····· Noriyasu Arai

List of Publications and Performances by the Faculty

List of Special Performances

PUBLISHED BY
UTSUNOMIYA JUNIOR COLLEGE
MUSIC DEPARTMENT